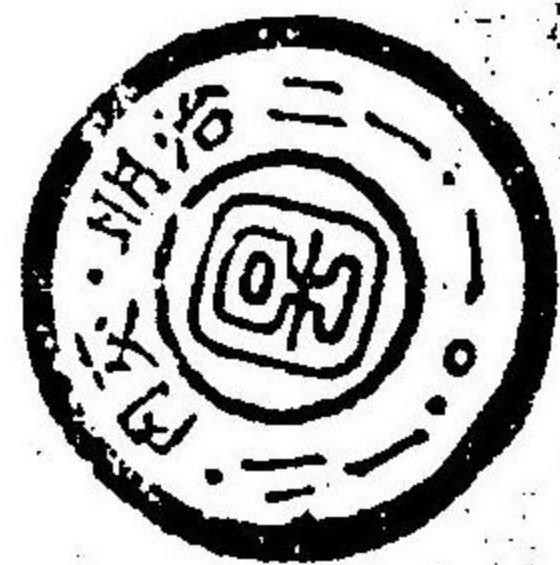


N. 1239

岩田德義君著



東京聖教書類會社
教社會關係完



明治廿一年
十月刊行

東京聖教書類會社

秀南

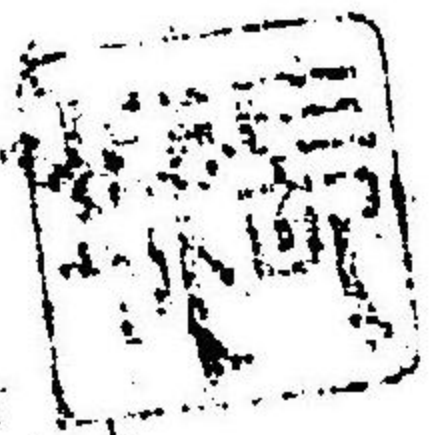
家 理 終 激 別 一 如 盡

精 旨 意 浩 一 如 凝 展

別 方 理 意 別 為 會 流

戊子仲秋

少年



茲歲一月余移家於閩山之陽閉戶默
坐不敢求四刀之交自有可匹似古隱君
子者一夕會者敲門共使童歸之至得義
漢人岩田德義君也初肯板垣退助氏
總理自由黨到處說其主義以勉之擴
張由閩東將西路赴岐阜為相原某所

刺時余在浪華專精力立憲政覺
國之變也與同志六七輩往而弔之實
明治壬午晚春而始與君相見之日也君
當是時頻講自由民權之道議論剴切
志氣凜烈余大喜為之為之士亦且不
相見六年于茲君今自懷出一冊子曰是

僕之近著也相刻粹願為之序且曰僕不
幸而不能愛一身之輕而忘國家之重是
以流離艱難處四月于獄裏之空窓或寄

舟中千里之孤島以送多之歲月一旦
飛逝有所悟者慷慨赴義易送容執死
維夫勇不如義智必狀德不究其源而

刺時余在浪華專精力立憲政覺
國之變也與同志六七輩往而弔之實
明治壬午晚春而始與君相見之日也君
者是時頌溝自由民權之道議論剴切
志氣凜烈余大喜為之為之士亦莫不
相見六年于茲君今自懷出一冊子曰是

僕之近著也相刻粹願為之序且曰僕不
幸而不能愛一身之輕而忘國家之重是
以流離艱難處四月于獄裏之空窓或寓
舟于千里之孤島以送多之歲月一旦
翩然有所悟者慷慨赴義易從容執死
維夫勇不如義智不如德不究其源而

漫欲經畧國家其假令一旦能遂其功
所謂前門之狼後門之虎耳殷鑒不
遠也今日之要非以基督教為之根據
則事物之改良國家之經營望其可得
也是僕所以有此著也嗚呼果哉君之
言古人不去士別三日當拭目見實君之謂

也余竊疑君之勞有益于世乎

明治丁亥晚冬

長城中島信行撰



湘煙女史後書



自序

一予曩ニ社會改良論ヲ著ハシテ之レヲ世ニ公ニセリ
 然ルニ該書ノ著述ニ從事スルヤ實ニ明治廿年六月十
 二日ヲ以テ起稿ニ着手シ同年九月廿一日ニ至テ完ク
 脱稿シタリ當時炎熱骨ヲ溶カスノ候日夕其業ヲ休マ
 ズ一意専心力ヲ此ニ竭クシ勤勉勞苦自ラ忘レテ漸ク
 一書ヲ著ハスノ成果ヲ得タルハ聊カ吾ガ素志ニ酬ユ
 ルニ足ル然レモ斯ク極メテ短日月ノ間ニ業ヲ竣ヘタル
 モノナレバ書中固ヨリ疎漏ノ失アルヲ免レザルベシ
 加之予ヤ學識淺薄自ラ著述ノ大任ニ堪ヘザルヲ愧ツ

明治廿年六月十日

岡田三郎

東京府立第一高等學校

東京府立第一高等學校

然リト雖モ敢テ此業ヲ辭セザリシモノハ唯ダ吾ガ天
與ノ賜ニヨツテ良心ノ指導スル本分ヲ盡クシ吾ガ信
ズベキ道ヲ執ツテ汎ク其感情ヲ一般公衆ノ上ニ頒タ
バ或ハ社會ノ公益ヲ萬一二期センコトヲ冀フモノアレ
バナリ而シテ該書中今新クニ問題ヲ加ヘ猶且増補改正
シ更ニ名ケテ基督教ト社會トノ關係ト謂ヒ再ビ之ヲ
剖削ニ付シテ世ニ公ニスルニ至リシモノハ即稍々前
書ノ缺點ヲ彌縫シテ予ガ遺憾ヲ薄カラシメンガタメ
ノミ
一予ヤ元ト宗教家ノ責任ヲ以テ自ラ居ルモノニアラ

ズ夙ニ政治上ノ主義ニヨツテ社會ニ立ント欲スルノ
念慮ハ既ニ予ガ半世期ノ腦裡ニ深ク浸染スルモノア
レバ書中論ズル所概テ政治上ノ精神目的ヲ多量ニ
含有セルモノアリト自信ス然ラバ此書ヲ宗教的ノ書
ト認ムルヨリハ寧ロ政治書ト視做スコソ至當ノ鑑定
ヲ謬ラザルモノト謂フベキカ然モ將來果シテ能ク我國
ノ政治ヲ善美完全ニシテ確乎不拔ノ基礎ヲ立テント欲
スルニハ必ラズヤ基督教ノ眞理ヲ履ムデ一層高尚ナ
ル道德上ノ地位ニ達セシムルニアラザレバ到底其成
果ヲ望ムベカラズトノ信仰ハ予ガ奉教心ヲ保チシ以

來新タニ起ス所ノ思想感情ニ退テ夙昔ニ抱持セシ
所ノ意見目的ノ存セシモノヲ顧ミレバ完ク彼此雲壤
反對ノ點ニ出ヅルモノアルヲ覺悟セリ夫レ然カリ而
ソ予ハ實ニ基督教ノ主義ニヨツテ獨リ政治上ノ改良
ヲ冀フモノニアラズメ社會萬般ノ事業此ニ由テ悉ク
進歩改良ノ途ニ就カンコトヲ望ムモノナリ

東京僑居ニ於テ

明治廿一年十月

岩田德義誌

社會改良論序

客アリ予ニ宗教ノ社會ヲ維持スル所以ノ理ヲ問フ予
之ニ應シテ曰ク子嘗テ歐米人ノ家屋ヲ築クハ我國人
ノ爲ス所ニ異ナルヲ觀ル乎地ヲ穿ツテ數仞其泥ヲ去
リ其砂ヲ除キ代ユルニ堅實ノ土ヲ以テシ打ナテ之ヲ
鞏固ニシ其牢キコト石ノ如ク其平ナルコト板ノ如ク而シ
テ後其上ニ架スルニ屋室ヲ以テス是ニ於テカ雲ニ聳
ユルノ高樓起リ城ニ擬スルノ大廈現ハル輪奐ノ美華
飾ノ麗仰キ觀ル者ヲシテ眼眩シ心驚カシムルニ至ル
知ラザル者ハ之ヲ望見シテ以テ其力ヲ用井ルハ專ラ

地上ノ事ナリト謂ヘリ特ニ知ラズ其工ヲ費スハ先ヅ
地下ニ在リテ其資ヲ此ニ投ズルハ往々建造ノ用ニ過
グルト云フ蓋シ地底鞏固ナラザレバ大厦其基址ヲ托
スルニ所ナクシテ傾覆ノ患立ドコロニ至ラントス亦
何ゾ裝飾ヲ施スニ暇アラシヤ嗚呼是レ以テ泰西ノ社
會ヲ觀察スルニ譬フベキナリ夫レ政治ノ善良工藝ノ
隆昌ハ文運ノ英華ニシテ苟モ耳目アル者ハ皆其羨慕
スベキヲ知リ遂ニ移シテ以テ我有トナサントスルノ
感情ヲ發ス此ニ人アリ其ノ政治ノ善良工藝ノ隆昌ヲ
羨慕シテ之ヲ移サント欲ス而シテ其善良隆昌ヲ致セ

ル所以ノ原ヲ措ヒテ之ヲ問ハザランニハ竟ニ皮相ノ
觀タルヲ免レザルベキナリ蓋シ獨一ノ眞神アルヲ信
シテ而シテ後人類同等ノ思想生シ神人相愛スルノ理
ヲ解シテ而シテ後人類相親ムノ道行ハル然ラザレバ
則チ愚ハ智ニ侮ラレ弱ハ強ノ肉タラントス此ノ如ク
ナレバ禽獸相食ムト何ノ異ナル所カ之アラシク果シテ
然ラバ自由平等ノ思想ハ之ヲ何レノ地ニ求メントス
ルヤ抑自由平等ノ思想社會ヲ支配セズシテ自由平等
ノ法制ヲ求メントス是レ力ヲ地下ニ用非ズシテ直チ
ニ大厦高樓ヲ建テントスル者ト彼此ノ間甚ダ逕庭ナ

キヲ信ズルナリ嗚呼正教歐米ノ邦國ニ盛行シテ能ク
歐米ノ社會ヲ致ス原因結果相伴フノ理豈此一事ニ於
テ行ハレザルトアラシヤ客ノ曰ク子ノ言甚ダ理アル
ヲ覺ユ請フ退キテ之ヲ考究セント偶々岩田德義君其
著ハス所ノ社會改良論ヲ寄示シテ予ニ序ヲ索メラル
乃チ前言ヲ筆シテ之ニ應ズ

明治廿一年一月

嶋田三郎識

社會改良論序

余常ニ人ニ語ツテ曰ク今ヤ日本國ハ古今未曾有ノ變
遷ヲ經過セントスルノ時期ニ當レリ即チ之ヲ大ニシ
テハ國家ノ制度法律人民ノ氣風精神之ヲ小ニシテハ
起臥飲食ノ具ニ至ルマデ悉ク其面目ヲ改メントス是
故ニ有爲ノ士人ハ其心ヲ社會ノ大勢ニ注キ如何ナル
變化カ最モ吾邦ニ適シタルモノゾト云ヘル疑題ヲ講
求セザルモノ稀レナリ此ノ時ニ際シ吾カ基督教徒ハ
今將サニ過キ去ラントスル日本國ノ舊文明ヲ分析シ
其ノ今日ノ如キ國勢民俗ヲ成セル所以ノ要素ヲ探求

シ以テ吾人カ企圖スヘキ新文明ノ性質ヲ論シテ詳カ
ニ其ノ進路ヲ説キ之ヲ泰西ノ史ニ徴シ福音ノ旨ニ照
シテ以テ基督教ノ吾カ國ニ必要ナル所以ヲ辨明セザ
ル可ラス蓋シ今ノ日本ハ勢ヒ政治的社會的ノ日本タ
ラサルヲ得ス隨ツテ吾人ノ基督教ヲ論スルモ亦政治
的社會的ノ問題トシテ之ヲ論セサル可ラス人ノ奉教
心ニ訴ヘ高尙ナル理性ニ據リテ之ヲ辨論スルモ可ナ
リムーデ、スポルジヨシノ如ク至誠ヲ以テ直接ニ福音
ヲ宣フルモ可ナリ然レモ余ハ確信スクリスチヤン基督教辨證論アポロジエチツクスヲ
以テ廣ク日本人民ノ心ヲ動カサント欲セハ其ノ文明

ニ關スル所深クシテ吾カ國將來ノ望ハ首トシテ其ノ
傳播ニ依ルヘキヲ證明スルニ如カスト教友岩田德義
君一書ヲ著ハシ題シテ社會改良論ト云フ曩ニ弘道小
崎君ノ著述セラレタル政教新論ト共ニ余カ常ニ冀望
シテ止マサル疑題ヲ解説セントスルモノナリ吾人ハ
道ノ爲メ國ノ爲メニ二君ノ舉ヲ賀セザル可ラス思フ
ニ基督教ト日本國ナル問題ハ廣クシ且大ナリ二君ノ
著述ハ之ヲ論スルモノ、先鋒ノミ余ハ之ニ次テ他ノ
名論卓説ノ世ニ現ハル、ヲ待ツモノナリ

明治廿一年一月

謙堂植村正久 識

社會改良論序

社會改良ノ一議社會ノ大問題トナリテヨリ衣服ニ家
 屋ニ風俗ニ言語ニ其他飲食情交ノ末ニ至ルマテ一ト
 シテ改良ノ潮勢ヲ蒙ラサルハナシ改良ナルモノハ實
 ニ現今我國人士ノ最モ愛スル記號ニシテ凡ソ何ノ説
 タルヲ問ハス此記號アルモノハ必ラス輿論ノ賛成ヲ
 得ザルハナシ改良ハ世界大勢ノ趣ムク所ナリ今ヤ我
 國泰西文明國ノ仲間入ヲ爲サントスルニ際シ改良ノ
 潮勢斯ノ如ク盛シナルヲ見ル豈賀スヘキノ至リナラ
 スヤ然ルニ爰ニ惜ムヘキハ此改良ノ潮勢タル專ハラ

形以下ノ物細末ノ事ニ及ムテ未ダ形以上精神ノ事、人心ノ改良ニ及ハザルノ一事ナリ夫レ精神ハ本ナリ形骸ハ末ナリ心ハ根源ナリ事物ハ支流ナリ其根源ヨリ改良ヲ施コスニアラスンハ其改良タル到底皮相外部ノ改良タルヲ免レズ且ツ之ヲ改ムルニ其根源ヨリスルニアラズンハ争デカ其支流ヲ改ムルヲ得ン友人徳義岩田君爰ニ見ル所アリ近頃社會改良論ヲ著ハン基督教ヲ以テ社會改良ノ根本トナシ之ニ依テ人心ヲ改良シ政治法律等ノ改良スヘキコトヲ論ズ是レ其本其根源ヨリ改ムルノ説ニシテ目下ノ時務ニ適合スルノ

論ト謂ハザル可ラズ基督教ハ歐米文明ノ精神ナリ生命ナリ彼ノ粲然タリ美麗タル文明ノ花實アル皆此精神生命ノ結ベル成果ト謂ハザル可ラス夫レ徒ラニ花ノ美ヲ羨ムモ退イテ其根幹ヲ培養セサレハ其美得テ望ム可ラス然ラハ此花此實ヲ得ント欲スルモノ何ゾ其精神生命タル基督教ヲ納ル、トニ躊躇スル思ハサルノ甚タシキト謂フベシ書成ルニ及テ余ニ序ヲ乞ハル曾テ時事ニ感スル所ヲ記シテ序言ニ代フ

明治廿一年一月

小崎弘道 識

基督教と社會との關係目錄

第一章

一 社會人類ノ成立

一

第二章

一 基督教と法律改良との關係

十三

一 基督教と奴隸廢止との關係

十八

一 基督教と戰亂廢止との關係

二十六

一 基督教と學事教育との關係

三十四

一 基督教と智富兵三者との關係

四十五

一 基督教と政治改良との關係

五十二

第三章

一 儒教と日本從來ノ政治との關係

六十五

基督教ト社會トノ關係目錄 畢

一 基督教ト日本將來ノ政治トノ關係	八十一
一 基督教ニ由レル日本政治ノ運命	百一
一 基督教ニ由レル平和主義ノ政策	百十八
第四章	
一 日本今日ニ存スル道德ノ腐敗	百四十七
一 基督教ニ由テ生スル眞實ノ德	百四十八
一 基督教ニ由テ生スル愛ノ德	百五十二
一 基督教ニ由テ生スル謙遜ノ德	百六十八
一 基督教ニ由テ生スル眞正ノ勇氣	百九十二
第五章	
一 結論	二百卅七

基督教ト社會トノ關係

岩田 德義著



第一章

社會人類ノ成立

カ日月星辰ハ高ク懸テ千古其位置ヲ變セ
 察セシカ萬物其面ニ附着シテ相離ル、
 暑ノ別ハ秩序ニ從テ新陳代謝シ雨露霜雪
 穀成熟ス夫レ天地ノ廣大無邊ニ測度ス
 其間テ果テ果物ノ數夥多ニ枚擧スヘカラサルモ然レ
 其全體ノ組織構造ト活動妙用ノ點ニ就テ之ヲ窺フハ則
 テ千萬世ヲ涉テ毫モ變更ナク悉ク一規同則ノ下ニ支配サ
 レテ之カ作用ヲ錯ラサルモノヲ視レハ全ク此天地萬物ハ
 造物者即獨一眞神ノ一手ニ成タルヲ知得ラルヘシ然ラ

ハ則四海ヲ以テ一家ト視做シ獨一ノ真神ヲ以テ世界萬有ノ主宰ト爲サ、ルヘカラス
又タ人類ハ世界各邦互ニ相割據分立ノ土地境域ヲ殊ニスルヨリ自然人種、言語、文字、及ヒ宗教、政治、學問、教育、人情、風俗等ノ點ニ至テ彼此大ニ異同ヲ閱スルモノアリト雖ヒ然ヒ能ク人類固有ノ性質ニ就テ之ヲ考察セハ元ヨリ同一ニ歸シテ更ニ相異ナルヲナキヲ視レハ即吾人々類ハ其祖先ヲ共ニスルノ一族タルヲ愛ニ判然明確タルナラシテ然而ノ其指シテ祖先ト稱スヘキ者ハ果シテ誰ナルヤト問ハ、即アダム、エバ、ヨリ外ハ之レナカルヘシ而シテアダム、エバ、ハ神ヨリ出タル者ナレハ凡ソ宇内萬國ノ同胞兄弟タル者ニアリテハ共ニ獨一ノ真神ヲ認テ天父ト爲サ、ルヘカラス

夫レ如斯ク四海一家人類同胞タルノ證據ノ既ニ判然明確タル以上ハ即凡ソ此一家ニ附屬スヘキ所ノ諸物ハ悉ク皆神ノ命令ニ從テ一規同則ノ下ニ働ラキ以テ各其本分ノ在ル所ヲ盡シテ神ノ榮ヲ見ハス所ノ業爲ナカラサルヘカラス殊ニ人類ハ他ノ諸物ニ優レテ智徳共ニ兼備スルモノナレハ別テ他ノ諸物ニ優レテ神ノ榮ヲ見ハスヲ以テ當然ノ務トスヘキナリ然ルニ人類ニ果シテ能ク此當然ノ務ニ背クヲナキヤ否ヤヲ鑒定シテ人性ノ善惡ヲ論定スルハ尤モ緊要主眼タルヘシ何トナレハ若シ人類ニ天然ノ性質ヲ損セズノ全ク神ノ命令ヲ遵守スルモノナラハ畢竟今日ノ社會ハ不潔社會トナラスノ潔白ノ社會タルニ相違ナカルヘシ然ヒ人類ノ組織シ居レル社會ハ反テ他ノ諸物ノ成立

セル社會ヨリハ品位ヲ失墜スルモノ、如シ蓋人類ハ他ノ諸物ニ優レタル性質本分ヲ保チナカラ遂ニ能ク之カ性質本分ヲ盡スヲ克ハス之ヲ再言スレハ人類ハ特ニ神ノ榮ヲ見ハスヘキ筈ノモノナルニ反テ神ノ榮ヲ汚スモノトナリタルカ如シ是將タ何等ノ原因アツテ而シテ然ル乎此原因タルヤ今爰ニ之ヲ詳言セスト雖ヒ既ニ斯ク人類カ其位階等級ヲ降テ他ノ諸物ニ一步ヲ讓ルノ有様アルヲ發見スル以上ハ飽ヤテ之カ原因ヲ除却ノ以テ人類天然ノ本性ニ復シ所謂人ハ萬物ノ長タル名實共ニ完クスヘキノ價值ヲ保タサルヘカラス

以上述フル所ノ旨趣ニ就テ一層之ヲ明瞭ナラシメントスルニハ先ツ他ノ諸物カ毎ニ神ノ榮ヲ見ハス所ノ事實ハ如

何ノ點ニ就テ之ヲ搜索シ得ルヤ又人類ハ特ニ神ノ榮ヲ見ハスヘキ筈ノモノナルニ反テ神ノ榮ヲ汚スモノトナリタル事實ハ如何ノ點ニ就テ之ヲ發見シ得ルヤ此論點ヲ二端ニ別テ攻究セハ其理由ヤ自ラ判然明瞭ナルヲ得ヘキトト信スルナリ

第一 他ノ諸物即天ニ懸レル日月星辰ノ如キ地ニ繁殖セル果穀草木ノ如キハ皆總テ無心ナル物質ニアラスヤ然ルニ是等ノ者ハ能ク神ノ命令ニ從テ其働キヲナシ千萬世ヲ涉テ更ニ變更ナク以テ明カニ神ノ榮ヲ見ハスモノアリ試ニ視ヨ太陽ハ獨其光線ヲ全地球ニ與フルノミナラス其温熱ハ適度ニ萬物ヲ成育スルノ功ヲ助クルモノアリ又月ハ明カニ夜ヲ照シテ千里一望ノ光景ヲ添ヘ反テ白日ニ優ル

ノ觀ヲナサシム又星辰ノ如キハ終始一定ノ位置ニ居テ少
モ秩序ヲ紊サ、ルモノアリ其他彼ノ果穀草木ヲ視ヨ四時
交換新陳代謝ノ候ニ從テ其働キヲ失ハス即春氣發生ノ期
ニ方テヤ百花爛熳ノ粧ヲ凝ラシテ人ノ心目ヲ悦ハシメ秋
分終成ノ期ニ會シテヤ果實累累收穫ノ多キヲ積ムテ人ノ
食物ニ供スルモノアリ猶亦彼ノ下等動物ナル禽獸社會ノ
有様ヲ視ヨ彼等ハ實ニ智識モナク能力モナク飢ユレハ食
ヲ求メ飽ケハ眠リ終身蠢爾トシテ其生ヲ送ルニ過キサル
モノ、ミ然ニ能ク神ノ命令ニ從テ其働キヲナシ己カ天性
ノ儘ニヨツテ其守ル所ヲ失ハサルモノアリ即牛馬ハ能ク
重キヲ荷フテ人ノ勞動ヲ助ケ犬ハ能ク門ヲ守テ盜賊ヲ拒
クカ如キ之ナリ凡ソ是等ノ諸物即日月星辰果穀草木及ヒ

禽獸ノ類ノ如キハ元ト無心ナル物質若クハ智識能力ナキ
ノ動物タルノミ然ニ彼等ハ一旦神ノ手ニ成立テ其性質本
分ヲ受クルヤ凡ソ天地創造ノ始ヨリ今日ニ至ルマテ少モ
神ノ命令ニ違背スルコトナクノ能ク之カ働キヲナシ以テ神
ノ榮ヲ見ハスモノ宜ク如此ナルヘシ
第二 人類ハ特ニ神ノ榮ヲ見ハスヘキ等ノモノナルコ反
テ神ノ榮ヲ汚スモノトナリタルノ事實理由如何ト問フニ
蓋吾人々類ノ始祖タルアダムカ最初神ノ手ニ造ラル、ヤ
其性質ハ能ク神ニ肖テ造ラレタルモノナレハ誠ニ善良潔
白ナルモノナリシ故ニ其初メアダムハ神ト共ニエデン園
ニアツテ親シク交際シテ更ニ相隔ツモノナカリキ是時ニ
方テヤ神カ直接ニアダムヲ愛シ玉フテ慈父ノ愛子ニ於ル

カ如クアダムノ神ヲ愛敬スルヤ赤子ノ慈母ニ於ルカ如ク
其間ニ存スル恩愛ハ實ニ極マリナカリシナラフ加之當時
死ト艱苦ハ絶テ之ナカリシカユヘニ其心中ニ覺ユル歡樂
愉快ハ果ノ如何ナリシカ測リ知ルヘカラス亦況ヤエデン
園ハ神ノ自ラ粧ハセタルモノナレハ其美麗云フニ堪ヘ難
ク千百ノ花卉灌木其間ニ繁茂シテ其榮花ヲ競ヒタルナラ
フ而シテ園中ノ氣候温和ニシテ常ニ春ノ如ク諸ノ美果之ニ
ヨツテ自ラ繁殖シ一歳ノ内實ヲ結フテ數回アダム之ヲ食
テ腹ヲ飽カシメタルモノナレハ生活ノ道ハ勞セスノ自カ
ラ足リヌベシ斯クシテ優遊自適歲月ヲ娛ミ居タルハ其幾
許ナルカ聖經ニ記スル所ナケレハ之ヲ知ルニ由ナシト雖
凡實ニ人類ハ他ノ者ニ優リテ甚ク幸福ナルモノニ造ラレ

タルナリ然ルニ神ハアダムニ命シテ善惡ヲ識ル樹ノ果ヲ
食フヲ禁シ玉ヒタルニモ拘ラス一旦魔鬼ノ誘惑ヲ受ル
ヤ忽チ神ノ禁誡ヲ破テ之ヲ食ヒタルニヨリ其性質ハ愛ニ
全ク一變シテ惡ナルモノトナレリ是ニ由テ直ニ神ノ嚴罰
ヲ被リテエデン園ヲ放逐セラレ其身及ヒ後世子孫ニ至ル
マテ身體ヲ勞動セサレハ衣食ヲ得ルヲ能ハス而モ其心ハ
毎ニ艱苦ノ裡ニ沈ミ其身體ハ死亡ヲ免レサルモノトナレ
リ
夫レ斯ク吾人ノ祖先タルアダムカ最初神ノ手ニ造ラレテ
エデン園ニアリシ有様ニ就テ之ヲ視レハ實ニ人類ハ善良
潔白ニシテ他ニ優リテ無限ナル幸福ヲ保チシモノナリシ然
ルニ今日吾人々類社會ノ有様ヲ通觀スレハ其狀態ハ全ク

一變シテ云フニ忍ヒサルモノトナレリ即チ人類ノ性質ハ
妬忌、詭譎、傲慢、貪婪、怒、功名、色慾、等ノ罪惡ヲ以テ其心ニ充滿
シ從テ其行ヤ尤モ不潔汚穢ヲ極ムルモノトナレリ然而ノ
今夫レ吾人カ人類社會各自ノ身ニ付キ其指シテ罪惡ト稱
スルモノハ固ヨリ外面行爲ノ上ニ發表セル跡ニ就テ之ヲ
云フニアラスノ其内部ニ存セル心理ニ打入テ之ヲ云フナ
リ故ニ各國政府ノ定ムル法律ニ照シテハ未ダ以テ罪犯ト
認ムルニ足ラスト雖モ然モ神ノ設ケ玉ヒタル法律ニ擬セ
ハ皆悉ク罪人ヲササルモノハ曾テ之アラサルナリ使徒保
羅曰ク神ノ前ニハ一人ノ義人アルコトナシト蓋此ノ謂ナリ
試ニ想ヘヨ神ノ性質ハ聖、善、愛、義、眞、コシテ永遠變ラサルモ
ノナリ而シテ人類モ亦最初神ノ性質ニ肖テ造ラレタルモノ

ナレハ幾分カ之ニ似寄タルノ性質ヲ保ツヘキ筈ナリ然ル
ニ今ヤ吾人々類ノ性質ハ全ク之ニ反對スルモノトナレリ
夫レ如此キハ何ヲ以テ之ヲ證スルカ曰ク妬忌ハ争闘ノ始
ナリ詭譎ハ盜賊ノ始ナリ傲慢ハ身ヲ亡ホスノ始ナリ貪婪
ハ劫奪戦争ノ始ナリ怒ハ謀殺ノ始ナリ功名ハ利己主義ノ
始ナリ色慾ハ姦淫ノ始ナリ凡ソ是等ノ諸罪惡ハ人類各自
ノ受得セル性質ニシテ其心ニ充滿スルモノナリ既ニ此
諸罪惡ノ種子ノ心理ニ充滿スル以上ハ直ニ外面行爲ノ上
ニ發表スルヤ間髪ヲ容レサルナリア、實ニ恐レテ且ツ慎
マサルヘケンヤ是ニ由テ之ヲ視レハ人類ハ特ニ神ノ榮ヲ
見ハスヘキ筈ノモノナルニ反テ神ノ榮ヲ汚スモノトナリ
タルヤ宜ク悟リ知ルヘキナリ

夫レ然リ而ノ今ヤ吾人ハ如何シテ斯ル人類ノ敗壞セル性質ヲ改テ善良潔白ナルモノト化シ如何シテ斯ル不潔汚穢ニ陥リタル社會ヲ去テ善美純正ナルモノニ就カシムルヤ是レ將タ何等ノ方法手段ニ求メテ可ナラソカノ問題ニ付キ能ク之ヲ講究セント欲スルナリ夫レ能ク之カ目的ヲ達シ得ヘキモノハ恐クハ基督教ヲ措テ他ニ求ムルモノ之アルヘカヲサルヲ信ス基督曰ク健康ナル者ハ醫者ノ助ヲ需メス唯病アル者之ヲ需ムト今夫レ吾人ハ此言ニヨツテ果シ能ク基督教カ人類ノ敗壞セル性質ヲ改テ善良潔白ノモノト化シ不潔汚穢ニ陥リタル社會ヲ去テ善美純正ノモノニ就カシメタルノ事實アリヤ否ヤニ付キ之ヲ調査スルハ尤モ必要急務タルヘシ何トナレハ若能ク基督教コノ此效

驗アラシメハ實ニ非常偉大ノ勢力ヲ備ヘタルモノト認めサルヲ得サルモ反之萬一斯ル効驗ナカラシメハ太々萎靡薄弱ニシテ恃ムニ足ラサルモノナレハナリ然レ吾人ハ基督教ニシテ獨能ク此功業偉勳ヲ奏シテ赫々ノ光輝ヲ發揚シ得ルモノハ毎ニ眼ヲ遮ルモノニシテ深ク經驗ニ徹シテ知得ラル、モノナレハ請フ之カ確證ノアル所ニ就テ說示サント欲スルナリ

第二章 基督教ト法律改良トノ關係

抑モ吾人カ前ニ論セシカ如ク四海ハ一家ニシテ五族ハ兄弟タレハ即此一家ニ棲息スル所ノ兄弟ハ皆相與ニ協和親睦シテ友愛ノ情ヲ完クシ以テ毎ニ天父ノ旨ニ從テ高尚清潔ノ行誼ヲ表ハスヘキ筈ノモノナラヌヤ然ルニ退テ吾人同

胞社會ノ上ニ就テ之ヲ觀察スレハ相互ニ傷害シテ以テ敢テ願ミス其殘忍非道實ニ名狀スヘカラサルモノアリ試ニ視ヨ先ツ彼ノ父子ノ間ニ存スル情態ハ果シテ如何ソヤ凡ソ何レノ邦國ヲ論セス古來野蠻未開ノ地ニアツテハ父ノ權利ハ殊ニ強盛ニシテ子弟ノ權利ハ太々薄弱ナリシヲ以テ從テ父ノ子弟ヲ待遇スルヤ尤モ殘酷ヲ極メタリ今爰ニ羅馬帝國古代ノ慣習ヲ視ルニ若其子弟ニ不孝ノ行アレハ父之レヲ罰スルヤ鎖ヲ以テ其身體ヲ縛シテ國外ニ放逐シ或ハ縱マ、ニ之ヲ殺シテ問ハサルモノトス又毎ニ父タル者虛弱ナル子女ヲ舉クレハ之ヲ棄ルヲ以テ常トシ而モ之ヲ棄ルハ寧ロ之ヲ殺スヲ以テ優レルモノトセリ又其子女ヲ賣テ奴隸ト爲スノ權利ヲ有セリ猶亦古來猶太國ノ法律ニ

於テハ若不品行ノ子アレハ父母之ヲ捕ヘテ古老ニ示シ然後裁判所ニ交附ス猶ホ其罪重キハ市街ヲ引廻シタル上之ヲ谿谷ニ投シ人民共ニ石ヲ擲テ死ニ至ラシメシ者ナリ我日本ニ於テモ近ク徳川時代ノ慣習ニ於ルヤ不孝ノ子アレハ父母ノ意見ニヨツテ隨意ニ之ヲ處置シ甚シキハ手打ニスルモ敢テ咎ムルコトナキモノトセリ猶ホ今日ニ於テ之ヲ視ルモ父母タル者其子女ヲ鬻テ娼妓トナシ公然姦淫ノ業ヲ行ハシメテ敢テ愧トセサルノミナラス是ニヨツテ父母ハ反テ糊口ノ助ヲ得タルヲ悦ビ子女ハ孝道ヲ盡セルモノトナスカ如キノ情態ナキ能ハスア、是レ實ニ野蠻極マ
ル醜俗ニシテ人間ノ廉耻地ヲ拂フニ至ルモノト云フハシ
以上掲クルモノニヨツテ之ヲ視ルニ基督教ノ真理ノ未タ

行レサル暗世界ニアツテハ即父タル者カ縦マニ其子弟ヲ
 壓制シテ生殺與奪ノ權ヲ掌握セシモノ太抵如此ナリキ然
 ルニ基督教ノ一タヒ其邦國人民ノ上ニ傳播スルヤ父子ノ
 間ノ關係ニ對シテ如何ナル變動ヲ與ヘタルカ吾人ハ現今基
 督教カ能ク父子ノ間ニ存スル權利ヲノ同等ナラシメテ
 諸ノ弊害ヲ取除キテ真正ノ幸福利益ヲ授ケタルモノアル
 ヲ發見セリ夫レ羅馬帝國紀元三百年ノ後ニアツテコンス
 タンチン帝カ基督教ヲ信シタルヨリ基督教公許ノ大令ヲ
 降シテ徧ク其主義ヲ社會ニ發揚スルニ至タルヲ以テ於是
 乎基督教ハ他教ヲ征服シテ暫時ニ歐羅巴全土ニ流布シ恰
 モ決河ノ勢ヲナセリ依テ先ツ基督教ノ主義ヲ以テ從來ノ
 法律ヲ改正シテ之ヲ羅馬帝國ニ施行セリ即其當時法律ヲ

改正セシ跡ニ就テ之ヲ視ルニ凡人タル者ハ皆神ノ子ニシテ
 基督教ニ從フヘキ者也故ニ其父子ト稱スヘキモノニアツテ
 モ神ノ前ニアツテハ毎ニ同等ニシテ彼此差別アルヘキノ道
 理ナクレハ父母ト雖モ非道ノ權利ヲ以テ其子女ヲ壓制ス
 ルヲ許サズ若シ之ニ反テ父母ノ其子女ヲ殺スモノアラ
 ハ他人ヲ殺シタルト同シク死刑ニ處ス可キモノトセリ又
 父母タルモノハ其子女ヲ棄ルヲ得ス或ハ之ヲ賣テ奴隷ト
 ナスヲ禁セリ於是乎從來父タル者ガ其子弟ニ對シテ壓制
 非道ニ虐遇セシ所ノ弊害ハ全ク其跡ヲ絶テタリ抑モ斯ク
 基督教ノ主義ニヨツテ法律ニ改正ヲ要シタルノ結果ハ獨
 羅馬帝國ニ於テ之ヲ見ルヲ得タルノミナラス其根源基
 礎ハ遂ニ確乎不拔ノモノトナリテ歐洲全土ニ推及シ以テ

永ク之ヲ遵奉セシムルニ至レリ宜也今ヤ世界萬國法律ノ
 起源ヲ尋ヌレハ必ラ羅馬ノ名稱ヲ呼ビ唱フルモノアル
 ナ又我日本ニ於テモ將來基督教カ國民一般ノ上ニ浴布ス
 ルニ及ハバ彼ノ父母タル者カ其子女ノ身體ヲ鬻テ姦淫ノ
 業ヲ營マシムルカ如キ蠻風汚俗ハ遂ニ其跡ヲ絶ツモノニ
 至ルヤ期シテ待ツヘキナリア、夫レ基督教ノ偉徳ヤ亦實
 ニ著明ナルモノニアラスヤ

基督教ト奴隸廢止トノ關繫

次ニ昔時ニアツテ歐洲諸國ノ人民カ奴隸ヲ殘虐非道ニ使
 役セシ所ノ有様ニ就テ之ヲ視ヨ其慘狀ハ實ニ云フコ忍ヒ
 サルモノアリ吾人ハ毎ニ此事ニ關スル歴史ヲ讀テ覺ヘス
 肌ニ粟ヲ生セシムルニ至ル夫レ奴隸ノ制ハ往古以來世界

一般ノ通習トナツテ到ル所之ヲ見サルナク人々絶テ之ヲ
 怪トスルモノナカリキ何トナレハ凡ソ軍陣戰鬥ノ間ニ於
 テ敵ニ克ツモノハ降民ノ上ニ生死ノ權ヲ有スルヲ以テ其
 一死ヲ赦シテ之ヲ奴隸トナシ以テ己カ意ノ儘ニ隨テ之ヲ
 使役ニ供スルハ理ニ於テ敢テ不可ナキモノト思惟セシモ
 ノナレハナリ然ニ其主人タル者カ奴隸ヲ飼養ノ縱マコ之
 ナ苦役シ或ハ之ヲ驅テ遊戯玩弄ノ一物ト視做シ或ハ之ヲ
 販賣シテ利益ヲ獲得スルノ弊害ニ至テハ實ニ禽獸土芥ニ
 等シク奴隸タル者ハ終生苦界ニ陷溺ノ咨嗟呻吟ノ裡ニ呼
 吸シ絶テ自由ノ天ヲ仰キ見ルコトナキモノ、如シ今其一二
 ノ事實ヲ徴シテ之ヲ視ンコ古昔羅馬帝國ニ於テハ殺人戲
 ナルモノヲ興行セリ其法タルヤ奴隸ヲ驅テ柵中ニ入レ猛

二十
獸ヲ放テ之ト相搏撃セシメ互ニ死闘殺戮スルヲ視テ愉快
ヲ博セシモノナリ其慘酷暴戾實ニ名狀スヘカラス又奴隸
ヲ苦使スルノ有様ヲ視ルニ毎ニ鎖ヲ以テ相連繫ノ其役ニ
服セシメ若シ怠タル者アルキハ痛ク鞭撻ヲ加ヘテ以テ之
ヲ罰スルモノハ猶ホ今時ノ懲役囚ヨリモ甚シカリキ夫レ
プレトウノ如キハ天下後世指シテ哲學ノ大賢ト稱スルモ
ノナリ然レ彼レプレトウハ奴隸ヲ以テ日用至便ノ活器械
ナリトシ上帝人間ニ賦與スルニ此活器械ヲ以テスト云ヘ
ルカ如キノ語アルヲ視レハ當時希臘ノ文學技藝ハ特ニ他
ニ優レタルモノアリト雖レ然レ人類社會同胞相愍ム所ノ
仁愛ノ氣風ハ絶テ之ナカリシヲ知ルニ足ルヘシ又奴隸ヲ
販賣ノ利ヲ射タル所ノ有様ヲ視ヨ曾テ歐洲諸國ノ商人カ

亞非利加州ノ或部落ヨリ黒奴ヲ買取リテ南亞米利加ノ殖
民地ニ輸入スルヤ之ヲ船舶ニ積込ムテ暗室ニ投シ鐵鎖ヲ
以テ緊シク之ヲ縛シ殆ト貫魚ノ如クニ少モ動カシメス
適々泣號フモノアレハ痛ク之ヲ鞭撻シ死スレハ取テ海ニ
投ス其之ヲ取扱フヤ獸畜ニ異ナラス而シテ亦之ヲ市場ニ鬻
クヤ其父子夫妻孰レモ客ノ需メニ從ヒ各之ヲ離分ノ賣渡
ストトセリア、夫レ鳥獸ステ猶ホ雌雄牝牡相分ツノ情ニ
忍ヒス況ヤ苟モ萬物ノ上ニ位スル人類ヲ待ツニ如此キノ
道ヲ以テ其所行ヤ實ニ殘酷無情ヲ極ムル者ト云フヘシ
然ルニ基督教ハ獨スル殘忍暴戾ナル社會ニ立テ説クナシ
テ曰ク凡ソ人タル者ハ皆神ノ子ニシテ兄弟ノ好アルモノ
ナリ故ニ貴賤上下ヲ問ハス貧富老幼ノ別ナク同友相愛シ

同胞相愍ムノ情ヲ以テ四海兄弟ノ實ヲ踐マサルヘカラス
 トノ主義ニヨツテ徧ク社會人民ヲ誘導勸化シタルニヨリ
 於是乎基督教ハ直接ニ奴隸ヲ廢止スルニ至ラスト雖ヒ先
 ツ人々ノ中心ニ仁愛ノ種子ヲ蒔キテ漸次ニ澎張成育ノ効
 ナ助ケ其結果ハ遂ニ羅馬政府ヲノ法律ニ改正ヲ加ヘ爾後
 一令出ル毎ニ善美完全ヲ増シ遂ニ從來ノ惡風ヲ撲滅スル
 ノ偉功ヲ奏セリ又教會ニアツテハ主人モ奴隸モ皆兄弟ナ
 レハ共ニ同一ノ待遇ヲ受テ彼此相隔ツモノナク互ニ親密
 ノ愛情ヲ表シテ温和ノ交誼ヲナセリ而モ信者タル者ハ安
 息日ニ教會ニ出テ奴隸ヲ解放スルヲ務トスルニ至レリ
 降テ千八百三十三年ニ方テ英國々會議ニ提出セル奴隸解
 放ノ問題ニ付テハ全院ノ議論ニ派ニ岐レテ一大動議ヲ生

セリ即非奴隸解放派ノ論ニ云ク我英國ニ今俄ニ奴隸ヲ
 解放シテ自由ヲ得サセンニハ反テ懶惰ノ民ヲ國內ニ増殖
 シテ無産無業ノ困苦ニ陥ラシメ是ニ由テタメニ英國ノ體
 面ヲ損シ殖民地ノ衰頽ヲ招クヤ必セリ若カス爾來傭主タ
 ルモノカ懇切慈愛ノ意ヲ加ヘテ漸次ニ幸福満足ヲ與ヘナ
 ハ其名ハ奴隸解放ニ出スト雖ヒ其實真正ノ自由ヲ得セシ
 ムルモノナリ然ラハ英國ノ光榮ヲ保テ永ク殖民地ノ繁盛
 ナ期スヘク且奴隸ヲノ飢餓困難ノ患ヲ免レシムヘシト云
 フニアリ然ルニ奴隸解放派ハ痛ク之ヲ駁撃シテ曰ク夫レ
 奴隸ト雖ヒ等シク天賦固有ノ自由權利ヲ全クノ人間ノ榮
 譽快樂ヲ享クヘキモノナリ然ルニ今之ヲ獸畜ノ如クニ視
 做ノ殘酷無情ノ待遇ヲ爲スハ深ク人倫ノ大道ニ悖ルモノ

ニノ基督教ノ政略ニ基クヘキ仁愛ノ主義ニアラス畢竟邦
 土ノ殷富繁榮ヲ冀フハ一般人民ノ幸福安全ヲ迎ヘンカク
 メナリ然ルニ今等シク天父ノ下ニ優渥ナル恩惠ヲ受クヘ
 キ或一部ノ人民ヲ禽獸視セル奴隸ノ苦役ヲ執ラシメ此
 ニ由テ收メ得ヘキ殖民地ノ利益ヲ以テ英國ノ富ヲ致サン
 ト欲スルハ是實ニ不仁不義ノ膏血ヲ聚テ以テ之ヲ壟斷私
 利ノ用ニ供スルモノナリ夫レ如此クニ安ソ英國カ正理
 道德ニヨツテ自由制度ノ位置ヲ進ムヘキ處爲ト認ムルコ
 ナ得ンヤ故ニ速カニ奴隸ヲ解放シテ一般平等ノ民タラシ
 ムヘシト云フニアリ於是乎竟ニ奴隸解放派ノ公明正大ナ
 ル議論ハ全ク議場ニ勝テ制スル所トナレリ爾來英國殖民
 地ハ奴隸解放ノ影響ニヨリ一時生産上ニ甚クシキ衰微ヲ

醸シタリト雖ヒ然ヒ今日ニ至テ之ヲ視レハ曾テ奴隸タリ
 シ者カ全ク自由ヲ得テ人間ノ榮譽快樂ヲ増進シ活潑有益
 ノ事業ヲ營ムテ社會ノ幸福ヲ迎ヘタルニ付キテハ遂ニ商
 業、耕作、貿易ノ景況ヲ恢復シテ再ヒ殖民地ノ繁盛ヲ致セリ
 爾後歐洲全土漸次ニ奴隸廢止ノ業ニ着手シ近時ニ至テ英
 米兩國殊ニ此事ニ非常ノ力ヲ竭クシ彼ノ亞非利加部落ヨ
 リ南亞米利加地方ヘ輸送スル奴隸賣買ノ船舶ヲ捕ヘテ之
 ヲ解放スルコトヲ務メタリ尋テ南北亞米利加戰爭ノ末遂ニ
 奴隸ヲ廢止ノ能ク之カ目的ヲ達シ赫々ノ偉業ハ永ク天日
 ト共ニ輝キ仁愛ノ德澤ハ徧ク宇宙ニ霑々タラシムルニ至
 レリ然而ノ全世界到ル所奴隸ヲ廢止ノ自主ノ民ニ化セシ
 メ以テ完ク四海兄弟一視同仁ノ美風ヲ見ルコトヲ得セシメ

タルモノハ是實ニ基督教ヨリ出テタル所ノ結果ニアラス
 何ソヤ
 基督教ト戦争廢止トノ關係
 又戦争ノ間ニ就テ之ヲ見ヨ凡ソ古昔ノ戦争ニ於テハ多ク
 人ヲ殺シテ以テ勝敗ヲ決スルヲ目的トシタルニヨリ敵ヲ
 捕獲スルアラハ忽ニ之ヲ殺シ人命ヲ視ルヲ猶ホ土芥ノ
 如クセリ然ルニ基督教ニ唱フル所ノ汝ノ敵ヲ愛セヨトノ
 主義ハ斯ル戦争殺伐ノ中ニ立テ能ク之カ實効ヲ現ハシ今
 時戰ヲ爲スノ要ハ唯議論ノ結局ヲ腕力ニ訴フルマテニテ
 敢テ人ヲ殺スヲ目的トセス猶亦一步ヲ進メテ之ヲ論ゼン
 ニ全ク基督教カ宇内萬國人民ノ上ニ治布スルニ至ラハ遂
 ニ戦争ノ如キハ其跡ヲ絶ツナラシ何トナレハ基督教ノ主

義ハ專ラ愛ヲ重スルモノナルカニニ毎ニ己ヲ損シテ以
 テ他ヲ益スルヲ目的トスレバ戦争ノ主要ハ人ヲ害シテ以
 テ己ヲ利スルヲ目的トスルモノナレハ即戦争ハ愛ノ大敵
 ニシテ與ニ水火相容レサルモノナリ故ニ彼ノ死闘殺伐ヲ縱
 マニシノ人ノ國ヲ侵シ強奪劫掠ヲ行フテ其慾ヲ飽カシムル
 カ如キハ基督教ノ尤モ深ク忌ミ嫌フモノナレハ今後宇内
 萬國ノ人民ヲ同情同感ノ愛ヲ重シ共ニ完全ノ自由幸福
 ナ保ツテ四海兄弟ノ實ヲ踐マシムルニ至ラハ遂ニ戦争ヲ
 ノ跡ヲ社會ニ絶タシムルモノアルハ理ノ尤モ踏易スキモ
 ノナレハナリア、基督教ノ主義トスル愛ノ力モ亦實ニ大
 ナラスヤ
 然レ人或ハ云ハン今ヤ文化開明ノ名ヲ負ムテ世界ニ誇稱

スル所ノモノハ歐洲諸國ニアラヌヤ而シテ其歐洲諸國ノ有
 様ヲ視レハ實ニ弱肉強食ヲ事トスルモノナリ即彼等カ基
 督教ノ主義ヲ唱フル所ヲ聽ケハ專ラ自由平和ヲ以テ四海
 兄弟ノ實ヲ履行ハント欲スルモノニ似タリト雖モ是レ雷
 ニ空論ニ止ツテ更ニ何等ノ影響ヲ與フルモノヲ見ス又彼
 等ハ頻ニ萬國公法ノ條理ヲ説ヒテ平和ノ交際ヲ要求スル
 モノハ如シト雖モ然モ退テ其實地ニ施行シ得ル所ノ政略
 ヲ窺ヘハ偏ニ兵力ノ培養ニノミ汲々トシテ壓制併呑ノ志ヲ
 逞フスルモノナリ然ラハ夫ノ萬國公法ナル者モ亦等シシ
 徒法ニ歸シテ實益ヲ奏スルノ効ナク唯タ文明國ノ仮面ヲ
 粧フヘキノ虛器タルニ過キサルヘシ果シテ然ラハ此二者ハ
 共ニ戰爭ヲ社會ニ防止スルノ力ナキモノト見做スヘキカ

トコレ大ニ然ラス夫レ歐洲諸國ト雖モ其社會ハ未ダ完全
 ナル文明ノ運ヲ迎ヘタルモノト云フヘカラス其人民ハ未
 タ悉ク道德上ノ地位ニ達シタルモノト云フヘカラス故ニ
 第十九世紀ノ今日ト雖モ猶ホ古代野蠻ノ風習ヲ遺存シテ
 腕力ヲ恃ミ劍戟銃炮ヲ利器トシ是非曲直ヲ決スルノ弊害
 アルヲ免レス然モ廣ク眼睛ヲ凝ラシテ世界全局面ノ上ニ
 就テ之ヲ占ヒ以テ遠シ前途將來ノ運ヲ推考スルキハ既ニ
 吾人ノ毎ニ最モ嫌フヘク忌ムヘキノ一大慘毒アル戰爭ヲ
 シ跡ヲ社會ニ絶タシムヘキノ兆候ヲ見ハセリ何ヲ以テ之
 ヲ證スルカ曰ク今ヤ基督教ノ主義ヨリ發スル所ノ人類同
 胞ノ說ハ漸ク世界一般ニ流傳シ何人ト雖モ其意義ノ如何
 ヲ知ルト識ラサルト擧ゲテ其口ニ稱道スル所トナリ推テ

三十一
ソレヨリ一步ヲ進メテ社會交際ノ事業上ニ施行スルモノ
ニ至レハナリ請フ視ヨ萬國同盟福音會ヲ開キテ基督教會
ノ一致ヲ謀ルモノニ於テハ仮ヒ各派ノ異同アルニ拘ラス
苟モ主基督ノ下ニ在ツテ福音ノ真理ヲ奉スルモノハ皆共
ニ思チ一ニシ心ヲ同クシテ神ノ榮ヲ顯サント期スルモノ
ナリ又萬國協同禁酒會ヲ立テ廣ク同志ノ友徒ヲ募集スル
モノハ即先ツ罪惡ヲ造爲ス所ノ種子ヲ社會ニ滅絶シテ風
俗矯正ノ基本ヲ樹ント欲スルモノナレハナリ又萬國聯合
賣淫禁止會ヲ設ケテ徧ク其勢力ヲ社會ニ擴張セントテ務
ムルモノハ即人類腐敗ノ所業ヲ廢ノ清潔ナル道德社會ヲ
造出サント冀フモノナレハナリ其他萬國囚獄會議ヲ爲シ
テ囚獄一般ノ方法ヲ改良ナラシムルモノハ何ソヤ即一旦

罪惡ニ沉淪シタル囚徒ヲ改過遷善ノ正路ニ導キ永ク天
父ノ恩化ニ沐浴セシメテ社會ノ良民ト化シ去ラシメント
テ望メバナリ又或ハ萬國赤十字社ヲ創立シテ專ラ軍人保
護ノ術ヲ施スモノハ何ソヤ他ナシ敵人ト雖モ各愛國ノ衷
情ヨリ其節義ヲ盡クシタルモノナレハ敢テ之ヲ疾惡スヘ
キノ理ナク反テ厚ク之ヲ愛憐扶助シテ以テ恩惠ヲ與フル
モノハ所謂一視同仁ノ旨意ヲ遵守セント欲スルモノナリ
又萬國仲裁媾和會ヲ組織シテ戰爭防止ノ計畫ヲ爲スモノハ
即最モ基督教ノ大主義トスル愛ノ一字ニ基ツキ彼ノ慘烈
無比ナル害物的ヲ跡ヲ社會ニ絶タシメ以テ吾人々類ヲ
ノ共ニ四海兄弟ノ好ヲ結テ自由幸福ノ樂境ニ遊ハシメン
ト欲スルモノナレハナリ凡ソ是等ノ事業ノ漸次社會ニ行

ハル、ニ至タルモノ、原因果ノ何レニアルヤト問ハ、孰モ皆其根據ヲ基督教ノ主義ニ執ラサルハナシ故ニ其會社ニ冠ラスニ萬國共同ノ名義ヲ以テスルモノハ即世界ハ到底一社會トナラサルヘカラサルノ準備ヲ爲スモノナラシ又其事業上ヨリシテ受クル所ノ裨益ハ固ヨリ一國民ノ爲ニスルモノニアラスノ徧ク全地球億兆ノ上ニ推及サントスルモノハ即人類同胞タルヘキノ情好ヲ全クスルモノナラシ夫レ斯ノ如ク四海一家五族兄弟タルヘキ主義ノ漸ク社會ノ實務上ニ施行サレテ道德ノ地位ヲ嵩ムルモノアルヲ見ル以上ハ遂ニ骨肉牆ニ関テ血ヲ流スカ如キ残忍酷薄ノ所業ヲ廢止セシムルニ至ルハ理ノ尤モ賸易キモノナルヘシ猶亦萬國公法ナル者ハ未ダ全世界ノ各國ニ向テ純乎タ

ル法律ノ資格ヲ有スルモノナレト雖ヒ然ヒ既ニ社會公衆認メテ以テ之ヲ可決スルモノニ至ラハ從テ事ノ實際ニ行ハル、モノアルハ是レ自然ノ順序ナルヘシ夫レ我國昔時東洋ノ一島ニ孤立シテ鎖港主義ヲ守リタルノヒニアツテハ外人ヲ視テ以テ夷狄禽獸ト爲シタルモノナレハ是時ニ方テ四海兄弟ノ說ヲ主張スルモノアラシニハ必スヤ人皆之ヲ認メテ以テ狂ト呼ビ愚ト叫ビシナラシ然ヒ金城鐵壁ト恃ミタル港門モ一たび開ケテ通商貿易ノ市場ト變シ今ヤ内外交通萬國比隣トナリタルノ曉ニ於テ之ヲ視レハ即何人ト雖ヒ前キニ鎖港主義ヲ執リタルモノカ徒ラニ其眼孔ヲ自國從來ノ事物ニノミ注ギテ汎ク宇内ノ大勢ヲ視ルニ暗カリシヲ悟ルナラシ今夫之レト等シク爰ニ世界各國

互ニ腕力强兵ヲ恃ンテ壓制併呑ノ慾ヲ飽カシメントスルノ場合ニアツテ戦争廢止論ヲ主張シタルナラハ必スヤ世舉テ迂濶無用ノ空言ナリトノ擯斥スルナラン然レ他日人類ノ罪惡次第ニ改マリテ公義平和ノ社會ニ行ハル、時機トナリ四海萬民悉ク神政ノ下ニアツテ仁愛無限ノ好天地ニ棲息スルニ至ラハ即會テ戰鬪殺伐ノ用ニ供シタルノ兇器ヲ見テ深ク古代野蠻ノ情態ヲ感シ覺ヘズ心ニ悚然トシ罪惡ノ厭フヘキヲ記念スルナラシ抑モ吾人カ豫メ今日ニ於テ此事ヲ明言スルハ決シ其據ナキニアラサルナリ

基督教ト學事教育トノ關係

又神學ヲ基礎トシ諸ノ學校ヲ設立シ是ニ由テ人民ノ徳義ヲ高尚純潔ニシ社會ヲ文化ノ上流ニ導キ以テ善良無比ノ

好結果ヲ見ハスモノモ亦實ニ基督教ヨリ發生スル所ノ賜ニアラサルハナシ現ニ我日本國今日ニ至ル迄ノ經驗實歴ニヨツテ之ヲ視ヨ近ク維新前幕府ノ時代ニアツテハ基督教ヲ以テ如何ニ之ヲ目セシゾヤ實ニ切支丹邪宗門ナリトシ痛ク之ヲ擯斥シ而モ適々此宗旨ヲ奉スルノ徒アレハ國法ニ由テ嚴ニ之ヲ罰シ或ハ之ヲ殺戮シタルモノアルニアラスヤ然ルニ維新後一タヒ歐米諸州ト交通ヲナセシ以來始メテ公ニ基督教ヲ以テ我國ニ輸入シタルヨリ於是乎基督教ノ真理ハ漸ク暗世ノ黑雲ヲ破テ煌々タル明光ヲ發輝シ人々大ニ活眼ヲ開キテ深ク之ヲ尊信奉事スルノ機運ヲ迎ヘタリ爾來特ニ基督教國ヲ以テ名アル米國及ヒ英國等ノ基督教徒カ奮ツテ主基督ノタメニ力ヲ竭クシテ我國ヲ

惠ミタル所ノ功德裨益ハ果シテ其レ幾許シヤ或ハ西京ノ同志社ノ如キ東京ノ明治學院ノ如キ立教大學校ノ如キ東洋英和學校ノ如キ横濱ノ英和學校ノ如キ若シハ仙臺ノ東華學校ノ如キ新潟ノ北越學館ノ如キハ皆孰モ外人ノ勤勞ニ由テ其成功ヲ見ル者ニシテ悉ク皆神學ヲ基礎トシテ組織スルモノナリ而シテ凡ソ是等ノ學校ハ毫モ政府ノ干渉ヲ受ケスル不羈獨立ノ體面ヲ存スルモノナリ然而シテ是ガタメ或ハ莫大ノ資財ヲ抛テ之レカ費途ニ充テ或ハ幾多ノ教員ヲ派遣シテ其任ニ當ラシメ以テ只管我國民ニ善美完全ノ學術ヲ傳ヘテ高尚ナル德育ニ進マシムルモノアルハ其功勞謝スルモ猶餘アルヘシ亦既ニ今日ニ至テ之ヲ視レハ我國民カ獨立ノ力ニヨツテ陸續各地方ニ諸學校ヲ設立スルモノ

アルモ皆悉ク基督信徒ノ發起ニ成リテ神學ヲ基礎トスルモノニアラサルハナシ抑モ今日ノ勢ヲ以テ將來ノ運ヲ推考スルニ民間ニ於テ私設スル基督敎主義ノ學校ハ却テ政府ノ手ニ於テ掌管スル官立公立ノ諸學校ヨリハ遙カニ德育上ニ先鞭ヲ着スルモノアツテ他日我日本チノ真正ナル道德ヲ社會ニ放テ東洋文明ノ新乾坤ヲ造爲スモノハ恐クハ此ニ由ルモノアルヲ信ズルナリ是蓋獨我日本國ニ於テノミ新タニ之ヲ見ルコトヲ得ルモノニアラスノ汎ク世界萬國往既ノ事蹟ニ徴セハ瞭カニ知得ラル、者ナレハナリ然ルニ吾人が今日ニ方テ深ク我國ノ學事教育上ニ付一大欠典ナリトシ甚ダ遺憾ニ堪ヘサル者ハ即政府カ官立公立ノ諸學校ヲ組織スルモノニ於テ德育上ノ基礎タルヘキ神

學ノ一科ヲ欠キテ之ヲ採用セス以テ只管學術智識ノ一端ヲ進ムルコトニミ力ヲ竭サル、モノ之ナリ是以政府ノ管掌スル大中小學校ニ於ケルヤ能ク其規律ノ完備整備シテ教育上ノ進歩ヲ促カシタルモノアルハ深ク感服スルモノアリト雖モ然モ其教育ノ進歩ハ特ニ智識ノ一點ニノミ傾ムキテ德育ノ培養ニ至テハ更ニ其功效ヲ見サルモノ、如シ故ニ今先ヅ大學校ニ入テ専門學科ヲ卒業シタル者ヲ見ルニ即彼ノ政治、法律、文學、理學、工學、醫學等ノ蘊奧ヲ究メテ深ク其材料ヲ蓄フルモノアルハ頻々其人コト乏カラスト雖モ然モ凡ソ是等ノ人コト果ノ能ク高尚潔白ノ志操ヲ練ツテ博愛仁恤ノ事業ヲ施シ以テ徧ニ一般公衆ノ利益ヲ慮ツテ世道ノ改新ヲ謀リタルモノアルカ吾人ノ眼中未ダ多ク

其人ヲ見サルナリ大抵皆官海ニ其身ヲ投シテ自家生活ノ道ヲ營ムコトノミ汲々タルモノ、如シ依テ漫然之レヲ云ハ、今夫レ此學生等カ大學校ニ於テ一タビ得タル卒業證書ハ取りモ直サス官途ヲ釣ルニ尤モ價值アル無比ノ勳章ト視做シ是以男兒大ニ爲スアルノ志ヲ遂ケテ終身安樂ノ地位ヲ買ヒタル想ヲナスモノニ似タリ然ラハ我日本今日ニ存スル所ノ大學校ハ畢竟官吏ノ一社會ヲ造爲スヘキ媒介場タルノ觀ナキ克ハサルナリ亦遙カニ降テ小學校等ニ至テ之レヲ視レハ其指シテ道德教ト稱スヘキ者ニ於テハ未ダ斷乎タル一定ノ主義ナク即儒教ニ似テ純粹ノ儒教ニアラス西教ニ類シテ單一ノ西教ニアラス所謂曖昧的ナル一種特別ノ折衷主義ヨリ成立タルノ道德教ト謂フヘキモ

ノナリ左レハ今日歐米各國カ其邦國ニテ遵奉スル所ノ宗
 教ヲ擇ムテ德育上ノ基礎ト定ムルモノ、類ニアラス故ニ
 日本現時ノ道德教ナル者ハ恰モ玉石相淆シタルカ如キノ
 觀チ呈スルモノナシトセス是以其道德教ヨリ浸染セラレ
 ヘキ生徒ノ思想感情モ亦從テ複雜異種コシテ道德ノ針路
 ナ一定ニ歸着スルモノアルヲナシ夫レ此ノ如クコノ天下
 一般ノ少年生徒チノ完全無缺ナル道德ノ範圍ニ進入セシ
 メントスルハ是猶ホ樹ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ豈亦難キ
 ニアラスヤ夫レ然リ而ノ凡ソ古今内外ノ事歴コヨツテ之
 ナ考フルニ苟モ人々ノ心ヲ感化シテ道德上ニ進ムルコハ
 仮ヒ如何ナル聖賢君子ノ善言美行ヲ標準摸範トノ之ニ擬
 セシメント欲スルモ到底其功效ヲ奏スルヲ克ハサルヘシ

唯能ク教師タル者カ親シク其書冊ヲ手ニシテ習熟セシ
 メ口細カニ其事實ヲ舉ケテ之ヲ說示スニ過ギサルナリ是
 レ果ソ何ノ故ソヤ他ナシ受造物ノ力ニヨツテ受造物ノ心
 性ヲ變化セシムルヲ決メ爲シ得ヘカラサルモノコノ必
 スヤ造物主ノ力コヨツテ始メテ受造物ノ性質ヲ改造シ得
 ヘキハ是レ自然ノ道理ナレハナリ故ニ人々ノ心志品行ヲ
 端正ニスヘキ高尙ノ教育薰陶ヲ受ケシムルニハ必スヤ神
 學ヲ基礎トセスノ他ニ求ムルモノアルヘカラサルナリ若
 シ否ラズモ徒ラニ古人ノ言行ヲ摸範トシ修身學ノ目的ト
 ナサント欲セハ遂ニ勞シテ益ナキノミナラス仮テ往々之
 カ弊害ヲ醸成スルモノナシトセス夫レ儒教ハ古來久シク
 我國ニ行ハレタル所ノ教義コノ世道人心ニ裨益ヲ與ヘシ

モノ尠シトセス然レ其儒教主義ガ果シ能ク人々ノ品行ヲ
 正シテ道德ノ地位ヲ嵩メタルモノアルカ請フ試ニ彼ノ儒
 教主義ヨリ陶冶セラレタル所ノ人ヲ視ヨ漫ニ天下國家ヲ
 治メント謂フモノアレヒ退テ一身上ニ存スル所ノ行爲ニ
 取リテハ甚タ不似合ナル缺点ナキニアラス故ニ今夫レ衆
 生徒ノ模範標準トナツテ道德ノ教ヲ講ズル教師其人ニア
 ツテモ動モズレハ所謂大功ハ細瑾ヲ願ズトノ氣風ヲ負ム
 テ更ニ其過失ヲ咎メス是以已先ツ儒者ノ不身持ナル行狀
 ヲ示シテ他ノ品行風儀ヲ紊マスヘキモノ、餘毒ナシトセ
 ス是ニ由テ視レハ孔孟ノ道德ハ遂ニ能ク人々ノ德義ヲ高
 尙至潔ノ度ニ進ムヘキ完全ナル教育ノ基礎トスルニ足ラ
 サルヤ以テ知ルヘシ果シ然ラハ今後我國ノ小學校ニ於テ

施シ行フヘキ德育上ノ根據ハ基督教ヲ措ヒテ他ニ求ムル
 モノアルヘカラサルナリ
 夫レ我日本今日ノ有様ヲ視レハ其中等以上ノ人物ト稱セ
 ラル、者ニアツテモ猶且無宗教ヲ以テ自ラ安シ雷ニ富貴
 ニアラサレハ名譽ヲ取ルヲ以テ人間無上ノ幸福ト思惟シ
 而モ況ヤ宗教ハ特ニ未來ノ幸福ニ關シテ現世ノ事物ニ用
 ナキモノト視做シ依テ以テ之ヲ度外ニ放擲シ去テ敢テ願
 ミサルカ如キ冷淡ノ心ヲ抱クモノ滔々皆然ルカ如シ然レ
 コレ大ニ惑ヘルノ甚シキモノト謂フヘシ何トナレハ凡ソ
 人類タル者ハ獨肉躰上ノ慾情ニノミ制セラレスノ無形的
 ニ高尙ノ望ヲ保ツヘキモノナレハ一日モ能ク宗教ヲ離レ
 テ此世界ニ存在スルコトヲ得サルヘシ故ニ人類アツテ信仰

ナク社會アツテ宗教ナキハ殆ド禽獸ノ巢窟トナラサル
 モノハ倖ナリ是以歐米諸國夙ニ文化開明ヲ以テ稱セラル
 、所ノ人民ハ王侯貴紳學者政治家其他如何ナル下等ノ賤
 民ト雖モ率チ皆宗教ヲ以テ世ニ立タサルモノハ未ダ曾テ
 之アラサルナリ故ニ其人民ノ智徳ハ高尚純潔ニシテ自ラ其
 品位ヲ嵩メ其影響スル所ハ延テ國家文明ノ美果ヲ結フニ
 至ル何トナレハ則邦國ノ基礎ハ元ト一人ノ分子ニ生シ數
 分子相聚テ始テ邦國ノ体裁ヲ爲スヘキモノナレハ即一個
 人カ智識道徳ノ高下優劣如何ハ直チニ邦國全體ノ運命ニ
 善惡良否ヲ占フモノアレハナリ然ラハ今後我日本國ヲノ
 歐米諸國文化ノ治ニ摸擬セシト欲セハ宜ク先ツ一般人民
 悉ク宗教ヲ奉シテ世ニ立ツヘキノ地位ニ達セシメサルヘ

カラス。然而ノ其能ク此ニ至ラシムルモノハ遍ニ全國諸學
 校ニ於テ德育上ノ基礎タルヘキ神學ヲ以テ教化ヲ布クニ
 アルノミ。

基督教ト智富兵三者トノ關係

又今ヤ歐洲諸國ガ文化開明ノ稱號ヲ負テ世界萬國ニ誇レ
 所ノモノハ果ノ何等ノ者ニヨルカ惟フニ學術文藝夙ニ開
 ケテ一般人民ノ智識進歩シタルモノアルニヨルカ將タ商
 賣工業日月ニ盛ンニ人民ノ生産力ニ富ムモノアルニヨ
 ルカ若クハ兵制軍備大ニ整テ腕力四境ヲ壓スルノ力アル
 ニヨルカ否是等智富兵ノ三者ハ未ダ以テ邦國ノ文明ヲ造
 爲スニ足ラス猶ホ此上ニ基督ノ宗教道德ナル者アツテ然
 後始テ邦國文明ノ體面ヲ維持保續スルヲ得ルモノナリ

然ラハ宗教道德ハ邦國文明ヲ造爲スノ根源基礎ニシテ智富
 兵ノ三者ハ畢竟之カ藩屏タルニ過ザルナリ試ニ視ヨ今若
 特ニ學術文藝ニヨリテ人民ノ智識ノミ長スルモノニ任セ
 シカ恐クハ其惡弊タルヤ人情非薄ニ流レテ狡猾風ヲ爲ス
 モノニ失スルナラン又商賣工業ニヨリテ財ヲ貪ルノミ
 ニ汲々センカ恐クハ其弊害タルヤ奪ハスンハ飽カサルノ
 利己主義的ニ陥ルナラン又兵制軍備ニヨリテ腕力ノミヲ
 是レ恃マンカ恐クハ其弊害タルヤ強者弱ヲ凌ギテ禽獸相
 食ムノ情態ヲ呈スルナラン果シ然ラハ吾人々類社會ハ永
 シ野蠻盲昧ノ淵ニ沈ムテ人生ノ幸福利益ヲ全クスルノ日
 ナカルヘシ夫レ能ク此間ニ立テ人民智識ノ進歩ト共ニ德
 育ノ培養ヲ謀リ以テ專ラ高尚純潔ノ美風ヲ造爲シテ社會

文化ノ上流ニ導クカ如キ又萬國人民相往來シテ廣ク通商
 貿易ヲナスト雖モ雷ニ貪慾私利ヲ縱ニセス以テ專ラ信用
 ナ重シテ同業相益スルノ便ヲ謀ルカ如キ又宇内各國與ニ
 軍事ノ擴張ニ汲々トシテ外敵防禦ノ術ヲ務ムルモノアリト
 雖モ然モ今ヤ漸ク強暴殺伐ノ念ヲ薄ラギテ多クハ平和ノ
 熟議ニ事ヲ了セントスルノ傾向ヲ來シタルカ如キハ是蓋
 宗教道德ナル者カ智富兵三者ノ上ニ位シテ能ク之カ制裁
 ナ加フルモノアルニヨツテ然ルニアラスヤ故ニ今若宗教
 道德ヲ外ニシテ雷ニ智富兵ノ三者ヲ以テ社會ノ運命ヲ維持
 セント欲スルモ到底爲シ行フヘカラサルヤ必矣依テ今爰
 ニ之ヲ人身ニ譬フルニ宗教道德ハ内部ノ精神ニシテ智富兵
 ノ三者ハ外部ノ形體ナリ夫レ外部ノ形體ナル四肢百體各

其分ニ應シテ能ク之カ働キチ爲スモノハ何ソヤ内部ニ存
 スル精神毎ニ之カ將帥トナツテ其命令ノ宜キチ傳フルモ
 ノアルニヨルヘシ故ニ若内部ノ精神ニ一朝夕活機ヲ失ヘ
 ハ外部ノ形體ハ實ニ死物ニ歸スルナラン試ニ視ヨ往古希
 臘ノ雅典ハ學問文藝ノ淵藪ヲ以テ稱セラレタル國ニ殊
 ニソクテテスアレトウノ如キ大賢輩出シテ能ク哲學ヲ講
 究シ其國勢ヤ前古無比ノ隆盛ヲ極メタリ然ニ退テ之ヲ察
 スレハ社會ノ道德ハ大ニ腐敗シ人民ハ絶テ不羈自由ノ氣
 象ナカリシ是以遂ニ羅馬政府ノ羈輓ヲ受ケテ憫ムヘキノ
 衰運ニ陥リタルニアラスヤシユビヤルス云ク希臘人ハ其才
 能ニ富メルコトハ實ニ無盡藏ト雖ニ道德上ノ一點ニ至テハ
 更ラニ自治ノ精神モナク溫和ノ性質ヲモ有セス却テ巧ニ

人ヲ欺罔スル等ノ事ハ其長所ナリト此評ヤ能ク當時希臘
 人カ心情ヲ寫出セルモノト謂フヘシ然ラハ學問文藝ノミ
 ナリテ國家ノ獨立ヲ維持スルニ足ラサルナリ又現今英國
 ノ如キハ殖産工業ノ道甚ダ盛ンニ殷富殆ド五州ニ冠タ
 リ然ニ其能ク政治法律ヲ善美完全ヲ致シ人情風俗ヲノ
 温良淳朴ナラシメ以テ國家文明ノ好結果ヲ奏シ得ルモノ
 ハ必ス先ツ一般人民ノ心術ヲ改良スルモノアルニ由ルモ
 ノニノ敢テ財力ノ以テ之ヲ能クスヘキニアラス故ニ若英
 人ニノ番ニ貪慾私利ニ馳テ道德ヲ重スルモノナクンハ恐
 シハ其政治法律ハ忽ニノ壓制野蠻ノ陋習ニ陥ルヘク其人
 情風俗ハ頓ニ敗壞シテ殘忍酷薄ノ態ニ變スルナラン然ラ
 ハ財力ノミナリテ邦國文明ノ基礎ヲ立ルニ足ラサルナリ

又視ヨ魯西亞ノ如キハ宇内萬物比類ナキノ強國ニノ版圖
 廣ク地球上ニ延ビ雄威四隣ヲ歴ス殊ニ久シク亞細亞地方
 ニ向テ垂涎シ今ヤ漸ク南進シテ侵畧ノ策ヲ施シ益々熱心
 ニ兵事ヲ擴張メ諸國ヲ併呑セント欲スルノ勢ヲナセリ現
 ニ彼國ノ常備兵ハ百萬人餘ニ豫備兵ハ二百四十餘萬人
 アリト聽ク之ヲ歐洲諸國ノ兵員ニ比較スルキハ果ノ其レ
 幾倍ノ多キニ出ツルソ嗚呼夫レ魯西亞ハ世界中推テ至大
 至強ノ邦國ト爲スモノニアラスヤ然ルニ退テ内國ノ事情
 ニ就テ之ヲ觀察スレハ政治ハ君主獨裁ニノ壓制殊ニ甚シ
 ク人民ヲ視ルヲ奴隸ノ如ク絶テ自由ノ權利ヲ得セシメス
 是以國情毎ニ沸騰シテ上下相軋轢シ虛無黨ノ勢力ハ日ニ
 熾シニ恰モ狂瀾怒濤ノ如ク政府之ヲ抑ユレハ愈ヨ揚リ

之ヲ歴スレハ愈ヨ激シ其形況ヤ魯西亞帝室ノ威權ト警察
 鎮臺ノ全力ヲ擧ケテ之ヲ撲滅セント欲スルモ到底之ニ勝
 ツト克ハサルノ場合ニ投シ既ニ曩ニハ三世歷山帝ヲ爆
 烈彈一發ノ下ニ弑虐シ猶亦今帝ノ生命ヲ奪去ントスル
 ノ術ヲ逞フシ隱顯出沒其目的ヲ達セサレハ罷マサルカ如
 シア、堂々タル魯西亞皇帝モ其運命ハ朝露ノ如ク危險百
 出僅ニ一日ノ安キヲ保ツモノニ似タリ是ニ由テ視レハ魯
 西亞國ハ殆ド紊亂錯雜シテ早晚土崩瓦解ヲ免レサルモノ
 觀テ呈セリ此ヲ之レ壓制野蠻ノ國ト謂ハスノ可ナラン
 ヤ然テハ武斷兵力ノミヲ以テ邦國文明ノ基本トスルニ足
 ラサルナリ
 夫レ然リ然ルニ獨能ク此間ニ立テ非薄狡猾ノ人情ヲ矯メ

テ温和須良ノ風俗ニ化シ以テ社會ノ道德ヲノ高尙純潔ノ
 位置ニ進ムルモノハ即德ノ智ヲ制スルモノニアラスヤ又
 奸譎詐僞ノ術ヲ改メテ信切着實ノ行ニ移シ以テ人類ノ生
 活上チノ同業相益スルノ道ニ誘フモノハ即德ノ富ヲ制ス
 ルモノニアラスヤ又兇暴殺伐ノ戰爭ヲ止メテ同胞相愛ス
 ルノ情ニ變シ以テ永ク完全ノ自由幸福ヲ授ケテ黃金世界
 ニ游泳セシメンコトヲ務ムルモノハ即德ノ兵ヲ制スルモノ
 ニアラスヤ是ニ由テ之ヲ視レハ宗教道德ハ邦國文明ヲ造
 爲スノ根源基礎ニ智富兵ノ三者ハ畢竟之カ藩屏タルニ
 過キザルノ理由ヲ推知スヘキナリ

基督教ト政治改良トノ關繫

又タ政治上ニ就テ之ヲ云ハシニ基督教ニヨツテ立ツ所ノ

政治ト他ノ教義ニヨツテ立ツ所ノ政治ト彼此相比較セハ
 果ノ如何ナル差異アルカ殆ド霄壤相懸隔スルモノアルヲ
 發見スルナラン視ヨ現今世界中錚々タル基督教國ヲ以テ
 指名セラル、モノハ恐クハ英米二國ヲ以テ之カ泰斗ト爲
 スニアラスヤ而ノ彼レ英米二國ノ政治如何ヲ問ヘハ即英
 國ニ於テハ立憲政體ノ基礎夙ニ確立シ一國施政ノ方嚮ハ
 總テ衆庶ノ公議輿論ニ取リ絶テ君主ノ威權ヲ以テ人民ノ
 權利ヲ犯スモノアルコトナシ是以國家協同一致ノ體裁ヲ備
 ヘテ上下ノ氣脉互ニ相順環流通シ依テ政治上毎ニ平和安
 全ヲ保チテ文化開明ノ域ニ進ムルコトヲ得ルモノアリ又米
 國ニ於テハ建國ノ初ヨリ共和政治ニ全國人民ノ權利ヲ
 平等均一ニシ唯大統領ヲ置キテ政治上ノ責任ヲ負ハシメ

而ノ其大統領ヲ撰ムヤ四年間ヲ以テ期限トシ期限滿テ其職ヲ退カシメ更ニ他ノ大統領ヲ以テ之ニ代ラシムルヲ例トス是以政治上ノ軌軸ハ毎ニ滑カニ運轉移動シテ其間ニ新鮮ナル空氣ヲ流通ナラシメ依テ國民ノ不羈自由ニ任セテ平和ニ整理スルヲ得セシム況ヤ務テ言論ヲ自由ニシテ廣ク各人ノ意見思想ヲ交換シ是ニヨリ毎ニ政治上ノ利害得失ヲ鑑ミテ失錯ノ弊ヲ救ヒ猶且一國ノ德義獨立ノ精神ヲ練磨獎勵スルノ財料トナセリ蓋其度量ヤ最モ大ニシテ其鴻益ヤ頗ル多シトス固ヨリ彼ノ野蠻政府カ己レノ淺陋ナル徧見小智ニ泥ムテ深ク言論ノ自由ヲ忌ミ種々ノ法律條例ヲ設ケテ其範圍ヲ狹隘ニ歸シ其極威權壓力ニヨツテ名狀スヘカテサルノ處置ヲ施シ是以政略ノ宜キヲ得タ

ルカ如ク思惟スルモノト決ノ同日ノ論ニアラサルナリ實ニ米國內治ノ組織ヤ善且美ナリト云フヘシ亦外交政略ニ就キ我日本ニ交際待遇ヲナスモノヲ視ンニ彼ノ條約改正ニ付英佛等ハ未タ速ニ我日本ノ請求ニ應セスト雖ヒ米國ハ斷然之ヲ承諾シ以テ彼我同等ノ權利ヲ完クシテ相互ノ利益ヲ謀ルカ如キハ即同胞相惠ムノ情ヲ表スルモノナリ又馬關償金ノ件ニ於ルモ英佛等ハ償金ヲ我國ニ取リタル儘敢テ顧ミルヲナシト雖ヒ獨米國ニ於テハ國會ノ議決ヲ以テ之ヲ不當ナリトシ遂ニ八十八萬餘圓ヲ以テ我國ニ返還シタルカ如キハ即己ヲ損シテ他ヲ益スルノ主義ヲ履ムモノナリア、夫レ今ヤ米國ハ仁心仁聞アツテ而シテ其澤ヲ日本ニ及ホスモノハ是レ此ヲ指シテ謂フナランカ然而シ

斯ノ内治ノ組織ニ外交政略ニ専ラ公義仁愛ヲ主トシテ道
 徳ノ光輝ヲ政治上ニ放ツ所以ノモノハ全ク基督教ノ真理
 ノ米國一般人民ノ腦裡ニ浸潤シ其感化力ヲ以テ政治社會
 ナ改造スル所以ナリ是則世界中特ニ北米合衆國カ録々々
 ル基督教國ヲ以テ稱セラル、モノナラスヤ
 然ルニ眼ヲ轉シテ支那土耳其二國ノ政治上ニ就テ之ヲ視
 ヲ即支那ハ元來君主專制ノ國ニシテ萬機悉ク帝王ノ特裁ニ
 任セ人民ヲ更ラニ參政ノ權ヲ得セシメス故ニ政治上ニ
 壓制ヲ施スモ下民タル者ハ唯諾是命從ハサルヲ得ス其卑
 屈奴隸ノ情態ハ實ニ憫ムヘシ然レ彼國慣習ノ久シキ人々
 視テ以テ怪トセサルノミナラス反テ舊來ノ陋習ニヨツテ
 自ラ安シ絶テ進取活潑ノ氣力ナシ是以堯舜出ツレハ四海

泰平ニシテ萬民鼓腹ノ歡ヲ迎ヘタルノ想ヲナシ桀紂現ハル
 レハ民皆額ヲ擦メテ時日安ツカ喪ントノ嘆聲ヲ發スルカ
 如キ心ヲ抱キ政治上ノ利害得失ハ舉テ君主ノ如何ニ依頼
 シ人民自主獨立シテ事ヲ爲サント欲スルカ如キハ夢想ニ
 ダモ知ラサルセノ、如シ抑モ支那一般ノ人民ニシテ如此キ
 氣習ノ猶ホ今日ニ脱セサルモノハ惟フニ儒教主義トシテ遵
 守シ來レル民可使由此不可使知之トノ餘毒ヲバ永ク國民
 ノ腦髓ニ深印シテ之ヲ除去スルヲ克ハサルモノニ原因シ
 タルナラシカ是蓋シ支那國內治ノ有様ナリトス亦外交政
 略ヲナスモノニ就テ視ンガ初メ鴉片ノ件ニヨリ英國ト對
 隙ヲ醸シ遂ニ英兵ノ攻撃ニ敵シ難キヲ以テ和睦ヲ乞ヒ其
 償金トシテ二千一百萬弗ヲ拂ヒ猶ホ香港ヲ割テ英領ニ歸シ

更ニ廣東廈門福州寧波上海ノ五港ヲ開キテ通商貿易ヲナ
 スコト允セリ次テ廣東ノ變ニ於テ英人ノ怒ヲ惹起シ猶亦
 條約改正ノ件ニ關シ英佛二國ノ公使ニ對シ無禮ヲ致セシ
 ナ以テ彼二國合從ノ兵ヲ受テ大ニ敗衄シ其末一千二百萬
 弗ノ償金ヲ出シタル上ニ更ニ牛莊登州潮州台灣等ノ八港
 ナ以テ貿易場トナスニ至レリ是ニ由テ大ニ外國ノ侮ヲ招
 キテ國威ヲ減殺セリ抑モ斯ク屢々支那國ガ英佛等ノ間ニ
 紛擾ヲ醸シタル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ彼レ支那人ノ
 氣風ハ先來傲慢尊大ニシテ甚シク他人ヲ賤ミ自ラ稱シテ
 中華文明ノ國トナシ西洋諸國ヲ視テ夷狄禽獸トスルノ陋
 見ニ起リタルモノナリ然レ焉ソ圖ラシ西洋諸國ヲ目シテ
 夷狄禽獸ト侮リタルモノハ遙カニ最上文明ノ國ニ自ラ

許シテ中華文明ノ國ト誇タルモノハ反テ野蠻未開ノ俗ヲ
 リシチ凡ソ是等ノ弊害ヲ支那全國民ノ上ニ現出シ來タル
 モノハ是蓋儒教主義ヲ以テ薰陶セル所ノ只管尊古賤今ト
 云ヘル氣習ノ自然ニ存セシモノニ依ルナラシカ又土耳其
 國ノ政體ニ就テ之ヲ視ルニ固ヨリ君主專斷ニシテ毫モ國民
 ニ自主ノ權ヲ得セシメス況ヤ其政治上ニ施ス所ハ總テ回
 教ノ祖マホメツト教ノ「コーラン」經ニ基シモノナルヲ以テ
 君主ノ威權勢力甚ダ盛ンニシテ際限ナシ人民ヲ視ルヲ殆ド
 奴隸ノ如ク實ニ國帝ハ政教ノ二權ヲ一手ニ掌握シテ之ヲ
 專行スルカユヘニ其人民ハ少シモ自由ノ空氣ヲ呼吸セス
 蠢爾トノ壓制野蠻ノ風ニ安スルカ如キハ誠ニ憫ムヘキノ
 情態ナリト云フヘシ是蓋彼ノ回教ノ主義トスル劔ハ天國。

ニ入ルノ鑰ナリ又道ノタメニ血ヲ流スハ信徒ノ務ナリト
 シテマホメツト自ラ腕力ヲ鼓シテ四隣ヲ制服シ殘忍壓抑
 ノ處置ヲ以テ下民ヲ統御シタル所ノ氣風ヲ自然ニ遺傳ス
 ルモノナラン
 抑モ斯ク英米二國及ヒ支那土耳其等ノ間ニ存スル政治上
 ノ有様ニ就テ之ヲ觀察シ來レハ其善惡利害ハ果ノ如何ソ
 ヤ實ニ霄壤相懸隔スルノ感ナキ能ハス是レ何等ノ原因ア
 ツテ而ノ然ルカ深ク之ヲ探究セサルヘカラス夫レ英國ハ
 夙ニ立憲政體ニ特ニ國民ノ自主自由ニ任セ君主無上ノ
 尊嚴ヲ保ツト雖ヒ絶テ人民ノ權理ヲ犯スヲナク人民充分
 ノ權利ヲ有スト雖ヒ敢テ君主ノ威權ヲ凌クヲナク能ク上
 下協同一致ノ體裁ヲ備ヘテ國ノ安寧幸福ヲ受クルモノア

ルハ何ソヤ是レ固ヨリ偶然ニアラス彼レ英國ハ曾テ上天
 子ヨリ下庶人ニ至ルマテ悉ク基督ノ言ヲ知テ毎コ之ヲ服
 膺スルモノアリ故ニ人間社會ノ秩序ニ從テ之ヲ云ハ、君
 臣上下ノ名義相分ル、ト雖ヒ然ヒ神ノ前ニアツテハ皆主
 基督ニ從フヘキ兄弟ナレハ固ヨリ彼此其權利ノ異同ヲ論
 スルヲナク共ニ親愛ノ情ヲ重シテ天然ノ自由幸福ヲ完ク
 スルハ是則神ニ對スル責任ニノ人間至當ノ本分トスレハ
 ナリ又米國ノ如キハ建國ノ初ヨリ共和政體ニノ國民ノ權
 利ヲ平等均一ニシ務テ施政ノ軌軸ヲ圓滑ニ歸シテ平和ニ
 之ヲ整理シ而モ其政治上ニ道德ノ光輝ヲ放テ廣ク其澤ヲ
 國外ニ及ボス所ノ運ニ際會シタルモノハ是亦固ヨリ偶然
 ニアラス元來米國が建國ノ基源ハピユリタンノ祖先ガ北

米合衆國ニ新天地ヲ開ラキ爰ニ始メテ基督ノ真理ヲ據メ
 テ自由ノ民ヲ増殖セシモノナリ故ニ一旦英國ノ壓制ヲ以
 テ大軍之ニ臨ミタルモ米民ハ自由ヲ愛スルヲメコハ敢テ
 萬苦ヲ厭ハス奮然其身命ヲ犠牲ニ供シテ堂々タル敵兵ニ
 當リ七年ノ戦争遂ニ之ニ打勝チテ空前絶後ノ偉功ヲ奏シ
 遂ニ永ク千載不朽ノ共和政體ヲ確立スルニ至レルモノナ
 リ夫レ如此ナレバ米國ハ特ニ神ノ惠ニヨツテ立タル邦國
 ニノ基督ノ真理ヲ愛スルヤ故ラニ深シトス是故其政治上
 ニ施ス所ノ主義ハ專ラ公義仁愛ヲ重シテ自由平等ノ權利
 ヲ完クシ以テ四海兄弟一視同仁ノ實ヲ表スルモノナリ嗚
 呼夫レ英米二國カ其政體ノ善美完全ヲ致シテ萬國ニ冠タ
 ル所以ノモノハ全ク其本源ヲ基督教ニ酌ムモノアルヲ知

ルヘシ

然ルニ彼ノ支那國ノ政體ヲ顧ミレハ古來君主專制ニノ萬
 機悉ク帝王ノ親裁ニ歸シ人民ヲ更ニ啄チ其間ニ容レシ
 メス是以帝心是法トノ壓制ヲ施スモ下民タル者ハ唯命此
 レ遵奉セサルヲ得ス所謂天下ハ一人ノ天下ニシテ天下ノ
 者ノ天下ニアラズトノ主義ヲ履行スルモノナリ然ルモ一
 般人民ハ卑屈柔順ニテ野蠻ノ境遇ニ安スルモノアルハ是
 實ニ其政府カ歐洲文明ノ政體ニ模擬スルヲ嫌フノ一點
 ニ止ラヌノ彼國ニ久シク傳ハリタル儒教主義ノ頑愚固陋
 ナル見識ヲハ各人ノ腦裡ヨリ除去ルヲ克ハサルモノニヨ
 ルナリ然ラハ專制政治ヲ組織シタルノ種子ハ遠ク古聖人
 ノ讓與ヘタル遺物ナリト謂ハサルヲ得ス又土耳其ノ如キ

ナ視ヨ萬國ニ比類ナキ專制政府ニシテ政教ノ二權ヲ國帝ノ
 一手ニ掌握シテ際限ナキ威力ヲ有シ國帝ハ一國ヲ私有物
 トシ生殺與奪ノ權ヲ縱マニスルモ人民タル者ハ壓制ノ下
 ニ呼吸シテ絶テ之ニ抗抵スルコトヲ得ス天然ノ自由權利ハ
 全ク地ヲ掃フカ如キ有様ニ陥リタルモノハ何ソヤ是實ニ
 回教ノ祖マホメツトガ只管威權壓力ニヨツテ教義ヲ立テ
 ル所ノ影響ニシテ專制政治ノ惡習ハ永ク其祖先ノ心情ヲ描
 成スモノト謂フヘシ是ニ由テ視レハ支那土耳其等ノ國ガ
 其政治ノ甚ダ淺陋野鄙ニシテ見ルニ足ラサルモノハ全ク其
 弊害ノ遠ク儒教若クハ回教ニ存スルモノアルヲ悟ラン
 斯ク證明シ來レハ其國ニ立ル所ノ宗教ニヨツテ深ク政治
 上ニ影響ヲ與フルモノアレハ畢竟宗教ト政治トハ毎ニ密

接ノ關係ヲ有シテ須臾モ相離ルヘカラサルハ猶ホ車ノ兩
 輪鳥ノ双翼ノ如ク互ニ相扶ケテ以テ治國ノ用ヲナスモノ
 ナリ而シテ其宗教ノ善惡良否ノ如何ハ直ニ政治ノ利害得失
 ナリ判スルモノアレハ即其政治ヲ善美完全ニ致サント欲
 セハ須ラク先ヅ宗教ノ宜キ者ヲ擇ムテ之ヲ採用セサルヘ
 カラス

第三章 儒教ト日本從來ノ政治トノ關係

抑モ我日本國ニ於テハ從來如何ナル教義ガ世ニ行ハレ來
 タルカト云ヘハ則儒教、佛敎、神道、ノ三種トス凡ソ眞ノ神ア
 ルヲ認メテ之ヲ奉事スルモノ、外ハ名ケテ宗教トスルニ
 足ラス依テ今唯之ヲ一個ノ教義ト視做シテ各其主義ノア
 ル所及ヒ我國ノ政治上ニ如何ノ關係アリシヤ否ヲ視ンコ

蓋佛教ノ説ク所ハ專ラ苦集滅道ノ理法ヲ解スルニアリ抑
 モ苦集トハ何ツヤ凡ソ人間ノ艱難辛苦ハ皆情慾ノ二者ニ
 原因スルノ謂ナリ滅道トハ何ツヤ涅槃ニ入テ寂滅虛無ノ
 境ニ達スルニアリ是則佛法ノ最大蘊奧ニシテ重ナル教旨
 ノ属スル所トス故ニ佛法ヲ修スルニハ先ヅ人間ノ富貴歡
 樂ハ一切之ヲ放棄シテ桑門遁世ノ業ニ從事セサルヘカラ
 ス否ラザレハ人間ノ情慾ヲ絶テ寂滅虛無ノ境ニ入ルヲ能
 ハサルナリ然レ是實ニ人間ノ天性ニ反キタルノ教義ニシ
 テ到底之ヲ永久ニ維持スルヲ能ハサルヘシ何トナレハ凡
 ソ人類ハ真正ノ公義正道ニ悖ラサル以上ハ自由ニ其望ム
 所ノ情慾ヲ達スルハ即天然自然ノ性質ナレハ在テ此情慾
 ヲ抑制スルハ大ニ其性質ヲ害スレハナリ宜也釋迦獨此理

法ニ從テ修道ヲナサシメント欲セシモ後世ノ教徒果ノ能
 シ之ヲ守ルヲ得ス終身獨居ノ修業ハ變ジテ淫奔無賴ノ
 所行ヲ呈シ遂ニ彼ノ肉食妻帶ノ主義ヲ以テ勝テ其間ニ制
 シタルヲ視レハ是ヅ正シク人間自然ノ天性ニ合ハザルモ
 ノアルヲ發見スルナルヘシ夫レ此ノ如ク佛教ハ專ラ清淨
 寂滅ノ空理ヲ探テ無爲淡泊ニ安シ人類自然ノ情緒ヲ絶テ
 死灰枯木トナルヲ務メタルモノアルヲ以テ遂ニ活潑ナ
 ル現世ニ向テ著シキ事業ヲ爲シ得タルノ痕跡ヲ見ス又神
 道ノ如キハ獨我國ノミニ傳ヘ來タル一種特別ノ者ニシテ天
 地ノ諸神高天原ニ住シテ數代統ヲ繼ギ降テ其裔孫ヲ人皇
 ノ後ニ傳ヘテ此國ヲ主宰ナサシムルノ説ヲ以テ之カ根據
 トス故ニ我日本ヲ以テ自ラ神州ノ稱號ヲ與ヘテ世界無上

ノ國ト誇リ天照大神ヲ以テ日ノ御神ト崇ムルヲ以テ大神一タビ天ノ磐石ニ隱ル、ヤ世ハ全ク常闇トナリタルノ想ヲナセリ是蓋國祖ヲ神トシ帝室ヲ崇ムルモノニ起リタルカ得テ知ルヘカラスト雖ヒ然ヒ斯ノ如キ荒唐不稽ノ説ハ容易ニ信憑スルニ足ラス其頑愚固陋ノ妄見タルヤ適々以テ識者ノ嘲ヲ買フニ過キサルヘシ是以視レハ佛教ナリ神道ナリ共ニ政治上ニ對シハ別ニ利益ヲ與ヘタルコトナキカ如シ然ルニ此間ニ立テ獨儒教ハ我國王朝以來幕府ノ末ニ至ルマテ採用セラレ、所トナリ是ニ由テ經國濟民ノ財料トナツテ上下ノ人心ヲ維持スルノ用ヲナセリ是蓋儒教主義ニ説ク所ノ忠信孝悌ノ道ヲ以テ基本トスレハナリ就中忠義ノ二字ハ能ク君臣ノ間ニ行ハレテ上下ノ秩序ヲ整理

スルノ骨髓トナレリ視ヨ彼ノ楠正成カ櫻井ノ遺訓ハ能ク其志ヲ子孫ニ傳ヘテ王家ノ干城ヲラシメ湊川ノ死ニ七生賊ヲ滅スヘキノ誓ハ以テ楠氏累代カ忠義ノタメニ斃ル、ノ心膽ヲ堅カラシメ是以天日ヲ既ニ没セントスルノ際ニ支ヘテ中興恢復ノ業ヲ謀リタルカ如キハ所謂微臣ノ身命恩ノ爲メニ輕ク忠義金石ヨリ重シト云ヘル主義ヲ履ムモノニテ其節義ノ存スル所ハ凜々乎トシ天地ノ間ニ光リ知ルト識ラサルト仰テ欣慕ノ念ヲ起サシムルモノハ即楠氏正成カ南朝ニ盡シタルノ餘德ニアラスヤ又大石良雄以下四十六士カ亡主ノ仇ヲ報ゼンカクメ三年ノ星霜垢ヲ含ミ耻ヲ忍ビ無限ノ艱難辛苦ヲ經ルモ其志操益々堅ク遂ニ吉良上野介ヲ討テ其本懷ヲ達シ其未幕府ノ罪ヲ問フ所トナ

ルヤ從容笑ヲ含テ死ニ就キタルカ如キハ實ニ忠臣烈士カ
 致身死節ノ本分ヲ守ルモノニ其遺風ノ芳シキ永ク千載
 ノ口碑ニ傳ヘテ朽ザルナリ是則赤穂藩士カ其主淺野内匠
 頭ニ對スル忠義ノ跡ニアラスヤ又彼ノ幕府ノ未路維新革
 命前ニアツテ列藩諸士カ國家ニ對シテ如何ナル節義ヲ表ハ
 シタルカ今請フ其事實ニ就テ之ヲ視ントス夫レ當時先ツ
 勤王黨カ唱フル所ノ主義ヲ問ヘハ夙ニ幕府カ天下ノ大權
 ナ握テ武斷專制ノ政ヲ施シ是以上ハ王室ヲ凌テ君臣ノ名
 分ヲ紊メシ下ハ衆民ヲ壓抑シテ其自由ヲ得セシメサルヲ
 憤リ而モ廣ク宇内ノ形勢ヲ觀察シ遠ク我國將來ノ大計ヲ
 爲スニハ速ニ幕府ノ封建制度ヲ倒シテ王政一新ノ鴻業ヲ
 定メ以テ日本數千年來ノ弊習汚俗ヲ洗滌シテ萬古不易ノ

政體ヲ立ルニアリト思惟セリ是以維新後陛下其位ニ臨ム
 テ萬機ヲ親裁セララル、ニ及テヤ主トシテ五條ノ誓文ヲ以
 テ徧ク天下ノ衆民ニ示シ廣ク會議ヲ起シテ萬機公論ニ決
 スヘシトノ叡旨ハ實ニ我國前古二千五百有餘年ヲ涉リ未
 曾テ聽カサル所ノ一大英斷ニシテ立憲政體ノ基礎ハ既ニ
 此ニ確立セルモノト云フヘシ是則陛下ノ盛徳ニ出ヅルモ
 ノナリト雖モ亦能ク勤王黨カ王室ニ對セル誠忠ヲ以テ之
 ナ翼賛スルノ功及ヒ國家ヲ愛スルノ熱心ヨリノ遂ニ斯ル
 好結果ヲ見ハシ來レルモノニアラスヤ又彼ノ攘夷黨カ主
 張セシ所ノ主義如何ヲ問ヘハ則攘夷黨ナル者ハ元來東洋
 日本ノ小天地ニノミ棲息シテ更ニ海外諸州ノ事情ニ通セ
 ス而モ自國ヲ尊ムテ堂々タル神州ト誇リ外人ヲ視テ夷狄

禽獸ト侮リタルニヨリ堅ク海門ヲ鎖シテ交際ヲ拒絕スル
 ナ以テ得策トセリ故ニ米船ノ一タビ武州浦賀ニ到ルヤ周
 章狼狽忽チニノ抗慨憂國ノ志ヲ抱キ斷然起テ彼ヲ掃攘ス
 ルニアラサレハ神州ノ安危測ル可カラサルモノト思惟セ
 リ然ルニ維新前ニアツテ幕府ハ反テ彼ト條約ヲ結ムテ通
 商貿易ヲ許諾シタルニヨリ於是乎益々過激怨憤ノ念ヲ増
 一舉大事ヲ行ハント謀レリ是以遂ニ馬關ノ騷擾兵庫
 西京生麥等ノ變ヲ惹起シタメニ海外諸國ト罅隙ヲ醸シテ
 國家ノ禍ヲ買ヒ動モスレハ事容易ニ解クヘカラサルノ場
 合ニ際會セリ夫レ攘夷黨カ斯ル過激ノ舉動ハ甚ダ疎スヘ
 キニ似タリト雖也然也是深ク愛國ノ精神ニヨツテ確乎不
 拔ノ節義ヲ樹ント欲セシモノナリ又彼ノ佐幕黨カ執ル所

ノ主義如何ヲ問ヘハ則佐幕黨ナル者ハ王政維新ノ際ニ方
 テ特ニ幕府ニ對シ主從ノ關係ヲ有スル諸藩カ祖先累代深
 ク其恩願ヲ蒙リタルヲ感シ飽マテ幕府ヲ翼ケテ以テ恢復
 ノ業ヲ謀ルハ是實ニ大義名分ノ存スル所ニ從テ臣士タル
 者ノ尽スヘキ道ト思惟セシモノナリ是以會桑二藩カ該黨
 與ノ主唱者トナツテ一タビ反旗ヲ翻スヤ天下同志ノ徒ハ
 隱然之ニ應シ彼此共ニ相援テ大事ヲ果サント期セリ依
 テ遂ニ上野ノ一揆トナリ越後奥羽列藩ノ戰爭トナリ會津
 籠城ノ劇戰トナリ篤館五稜郭ノ戰鬥トナリ當時上下騷然
 人心洶々各藩ノ方嚮未タ定ラサルノ際ニ屬セルヲ以テ天
 下ノ形勢動モスレハ四分五裂シテ復タ收取スヘカラサル
 ノ觀ヲナセリ然也王政維新ノ鴻業ハ天下時運ノ歸スル所

焉。幕府衰世ノ期ニ迫テ之カ挽回ヲ見ルヲ得。故ニ佐幕黨ハ其末遂ニ志ヲ翻ヘシテ降服謝罪ヲ請フモノニ終レリ。是以視レハ彼レ佐幕黨ハ廣ク活眼ヲ開イテ時勢ノ變遷ヲ見ルニ暗ク其經畫ヤ徒勞ニ屬シテ自ラ失敗ヲ取タルモノニ似タリト雖。然レ其能ク幕府ニ對シテ忠義ノ節ヲ重シ粉骨粹身斃レテ然後止タルノ精神ニ至ラハ宜シク士ノ本分ヲ守レルモノトシテ永ク其名譽ヲ後世ニ傳フヘキナリ。是ニ由テ之ヲ視レハ幕府ノ末路維新革命前ニアツテ列藩諸士カ國家ニ對シテ盡シタル所ノ節義ハ實ニ著明ナルモノニアラスヤ。然而ノ或ハ勤王黨ト云ヒ或ハ擾夷黨ト云ヒ或ハ佐幕黨ト云ヒ各其名義ノ相異ナルニ從テ主義目的ヲ同クセサルモノアリト雖。然レ其忠君愛國ノ精神ニ至テハ

固ヨリ彼此差別アルヘカラス。皆共ニ己カ身命ヲ抛テ以テ其本分ヲ盡サント欲セシモノナリ。而シテ當時斯ル三大黨派ヲ社會ニ現出セシ所ノモノハ果シテ如何ナル人種ヨリ成立タルカト云ヘハ則悉ク列藩諸士ノ内ニ生ジタルモノナリ。然ラハ維新復古ノ大業ヲ成シテ明治ノ新天地ヲ造爲シタルモノハ全ク我國三千八百萬ノ同胞中僅カニ三十萬人ノ少數ナル武士ガ能ク社會ノ骨髓トナツテ之ガ活動ヲ試ミタルモノニテ他ノ農工商ナル三民ハ恰カモ袖手傍觀シテ痛痒相關セサルノ想ヲナシタルカ如シ抑モ斯ル國家ノ安危休戚ニ係ル場合ニアツテ苟クモ忠君愛國ノ志ヲ抱テ其節義ヲ見ハシタル所ノモノハ獨武士ノ一族ノミニ限リ他ノ三民ニ至テハ全ク局外者ノ位置ニアルモノ、觀テ呈セ

シモノハ何ソヤ是蓋深ク原因ノ存スルモノアツテ然ルナ
 テソ
 夫レ幕府封建時代ニアツテ之ヲ視レハ將軍天下ノ大權ヲ
 握テ諸侯ヲ統ベ諸侯士大夫ヲ以テ之ヲ附屬トシ士大夫ノ
 下猶ホ農工商ノ三民アリ貴賤上下ノ懸隔殆ント天淵ノ差
 ナシ其身分ノ階級ニ從テ甚シク之ガ權限ヲ殊ニセリ依
 テ政治上ノ責任ヲ負テ國家ヲ支配スルモノハ獨武士ノ一
 族ニ歸シタリト雖他ノ三民ニ至テハ更ニ啄ヲ其間ニ容ル
 、不能ハス全ク度外視サレタルモノナリ是以武士ノ一族
 ノミハ毎ニ學問教育ノ道ヲ重シテ其志操ヲ獎勵スルノ財
 料トナシタレ他ノ農工商ナル三民ハ全ク之ヲ要用ナキ
 者トノ顧ミス唯自家生計ノ事ヲ務ムレハ既ニ足ルモノ、

想ヲナシタルカ如シ故ニ武士タル者ハ祖先累代忠義ノタ
 メニ其身ヲ立テント欲スルノ氣象ヲ備ヘタルモノアルニ
 ヨリ即維新革命ノ運ニ際會スルヤ奮然起テ忠君愛國ノ節
 義ヲ見ハシタルモノニ他ノ三民ハ更ニ何等ノ用ヲモ爲
 サ、リシカ如キハ則全ク以上ノ理由アルニヨルナリ而ソ
 スク武士ノ精神ヲ培養シテ活潑勇爲ノ働キヲナサシメタ
 ルモノハ何ソヤ是蓋儒教主義ニ唱フル所ノ忠義ノ道ヲ以
 テ能ク之ヲ教育薰陶シ君臣上下ノ秩序ヲ整理シテ經國濟
 民ノ材料トナシタレハナリ是ニ由テ視レハ儒教ヲ以テ我
 國ノ政治上ニ裨益ヲ與ヘシモノモ亦實ニ大ナラスヤ
 夫レ然リ然ルニ儒教主義ハ後世ニ至テ漸ク其弊害ヲ生シ
 君主ノ臣民ヲ視ルヲ猶ホ奴隸ノ如ク生殺與奪ノ權ハ悉ク

己ノ有トナシ専斷横行敢テ憚ル所ナク社會上ノ名譽、威權、土地、共ニ其一手ニ專有スル所トナレリ是以天下ハ一人ノ天下ニシテ天下ノ者ノ天下ニアラストノ主義ヲ履行スルニ至レリ反之臣民ノ君主ニ事フルヤ身命兩ナガラ舉テ之ヲ奉シ唯命是從フヘキノ責任ヲ負ヘルヲ以テ假令如何ナル場合ト雖モ忠義ノタメニハ進ムテ之カ犠牲トナリタルモノ、如シ於是乎遂ニ純乎タル武斷壓制ノ政治ヲ造爲シテ野蠻未開ノ社會ヲ幕府時代ニ見ルヲ得タルモノナリ然則儒教主義ハ我國古來ノ政治上ニ於テ一般人民ノ權利自由ヲ抑制スルノ器械的トナリタルモノニアラスヤ然ルニ維新革命ノ曉ニ至テ一たび東西兩洋ノ交通ヲナスヤ忽ニ我國民カ數百年來ノ頑夢ヲ醒覺シテ大ニ悟ル所アルヨ

リ頻ニ彼國文物ノ美ヲ慕フテ之ヲ採用シ凡ソ政治法律文學工藝等總テ之ニ模擬シ悉ク皆舊ヲ去テ新ヲ競フノ有様トナレリ然而ノ陛下即位ノ初主トシテ五條ノ誓文ヲ掲ケ廣ク會議ヲ起シテ萬機公論ニ決スヘシトノ旨ヲ徧ク天下公衆ニ示サレ尋テ封建制度ヲ改テ郡縣ノ治トナシ貴族門地ヲ廢シ人權ヲ平等ニシ地券ヲ發行シテ土地所有ノ權ヲ人民ニ與ヘ兵ヲ民ニ徵シテ全國共同ノ義務ヲ負ハシメタルカ如キ一大改革ヲ舉行サレタルヨリ此ニ至テ一國復々君主ノ私有物ニアラス人民アツテ政府アルノ必要ヲ感シ所謂天下ハ天下ノ者ノ天下ニシテ一人ノ天下ニアラストノ主義ヲ重ズルニ至レリ依テ古來久シク我國ニ傳ハリ來タル儒教ハ幕府封建制度ノ倒ル、日ト共ニ漸次其勢力ヲ政

治上ニ失ヒタリ
 夫レ斯ノ如ク從來我國ニ行ハレタル教義ノ内ニ於テ如何ナル教義ガ能ク政治上ニ關係ヲ有セシヤ否ニ付之ヲ探究スレハ彼ノ佛教神道ノ如キハ固ヨリ政治上ニ對シ別ニ利益ヲ與ヘサリシナリ然ルニ獨儒教ニ至テハ能ク人倫ノ大道ヲ明カクシテ社會ノ運命ヲ維持シ永ク政治上ニ對シ裨益ヲ與ヘタルモノアリト雖モ然モ其弊害ノ存スル所ハ終ニ武斷壓制ノ政治ヲ造爲シテ野蠻暗世ノ境界ニ陷レタリ然而ノ維新革命ノ機運ニ會シテ歐洲文明ノ風ヲ輸入スルヤ最早儒教主義ハ陳腐ニ歸シテ顧ミルニ足ラサルモノトナリタリ此ニ至テ我國從來ニ行ハレ來ル所ノ教義ハ悉ク死滅セラル有様トナレリ然ラハ今後眞ニ我東洋日本ノ政治ヲ

ノ善美完全ヲ致サント欲セハ須ラク先ツ宗教ノ宜キモノヲ擇ムテ之ヲ採用セサルヘカラス

基督教ト日本將來ノ政治トノ關係

夫レ政治ノ改良ハ何ニ由テ之ヲ致スカト云ヘハ必スヤ先ツ之ヲ造爲スル所ノ基礎アツテ然後始テ其成立ヲ見ルモノナリ故ニ若其政治ヲ造爲スル所ノ基礎ナク其成立ヲ望ムハ猶ホ柱石ナクノ家屋ノ結構ヲ求ムルカ如シ是決シテ爲シ得ヘカラサルナリ今ヤ歐米諸國カ政治ノ善美完全ヲ致シタルモノハ固ヨリ偶然ニアラス深ク原因ノ存スルモノアツテ之ガ結果ヲ見ルモノナリ然ルニ當ニ彼國政治ノ形體ノミヲ見テ之ニ倣ハント欲シ反テ其原因ノ在ル所ニ就テ之ヲ探求ムルヲナキハ是猶ホ木ニ緣テ魚ヲ獲ント欲

スルモノニ等シ豈ニ難キニアラスヤ今我國維新創業ノ功
 ヲ論ゼバ何人カ西郷木戸ノ諸氏ヲ以テ之ヲ推サ、ルハナ
 シ然レコレ惟フニ其成功ノ見ルベキ跡ニ就テ之ヲ論スル
 者ニノ未タ其成功ヲ顯ハレサル以前ニアツテ夙ニ天下時
 勢ノ變遷ヲ察シ維新革命ノ機運ヲ促ガシタルモノハ果シ
 何人ナルヤヲ識ラザルモノハ共ニ國家ノ事ヲ談スルニ足
 ラサルナリ吾人ハ維新ノ元勳其人ヲ舉グレハ西郷木戸ノ
 諸氏ヲ指サンヨリハ寧ロ頼山陽藤田東湖ノ先輩ヲ以テ其
 地位ニ置カント欲スルナリ何トナレハ頼氏山陽ガ著ハシ
 タル日本政記及ヒ外史等ノ書ヲ取テ之ヲ讀メハ竊カニ孔
 丘春秋ヲ作ツテ直筆諱マザルノ體ニ擬シ褒貶黜陟ノ意ヲ
 明カニ名分條理ノ存スル所ヲ述タルモノハ即深ク王室

ノ衰微ヲ悲ムテ幕府ノ專横ヲ憤リタルノ餘ニ發セシモノ
 ナリ故ニ此書ノ徧ク天下ニ行ハレテ一般ノ人心ニ刺撃感
 觸ヲ與フル所トナルヤ遂ニ其結果ノ現出セル所ハ維新革
 命ノ機運ヲ造爲シタルモノナリ又藤田東湖其人ガ正氣
 ノ歌ニ生○當○雪○君○冤○復○見○張○綱○維○死○爲○忠○義○鬼○極○天○護○皇○基○ト云
 ヘルノ數句ハ痛ク時弊ヲ嘆キテ慷慨悲憤ノ情ヲ洩ラシタ
 ルモノナレハ此ニ由テ大ニ國家ノ元氣ヲ鼓舞振作シテ維
 新復古ノ革命ヲ促ガシタルモノナリ然ラハ西郷木戸等ノ
 諸氏ハ既ニ其功ノ成ルノ日ニ於テ功ヲ成シタルモノニ
 頼山陽藤田東湖者流ハ未タ其功ノ成ラサル日ニ於テ功ヲ
 成シタルモノト謂ハシカ今吾人ハ此事實ヲ假用シ來テ以
 テ歐米各國ガ今日ノ政治世界ヲ鑄造ノ新鮮開明ノ美域ニ

達セシモノハ獨政治上ヨリ受得タル所ノ成績ノ以テ之ヲ
 致シタルモノヨアラスノ其能ク之ヲ造爲スヘキノ元素ハ
 必ズヤ宗教的ノ力ニ與カリタル所以ノ理ヲ述ント欲スル
 ナリ夫レ人多クハ歐洲諸國ガ立憲政體ヲ組織シテ人民ノ
 自由ヲ完シスルモノアルヲ視テハ皆其起源ヲ英國ノ制度
 ニ取テ以テ之ガ基礎ヲ定メタルモノアルヲ知ルト雖反
 テマルチソノルイタルガ宗教改革ヲ爲シテ大道理ヲ社會ニ
 發揚シタルノ結果ニ由ルモノ、理ヲ解スルモノ少ナク又
 タ米國ガ不羈獨立ノ體面ヲ完シノ共和政治ヲ組成シタル
 モノヲ望ムテハ萬口同一共ニ其元勳ウシントンガ百戰百
 勝ノ餘ニ收メタルノ功蹟ニ皈セサルハナシト雖是遡テ昔
 時英國ビユリタン宗派ノ祖先ガ北米合衆國ニ新世界ヲ拓

キタルノ日ト共ニ宗教自由ノ元素ヲ携帶シ來テ永ク其種
 子ヲ子孫ニ遺傳セシメタルモノ、關係アル點ニ至テハ往
 々之ヲ悟知ラサルモノアルハ何ソヤコレ抑モ其原因ヲ探
 索メスソ僅カニ其結果ヲ認ムルモノ、認見ト謂サルヲ得
 ス何トナレハ歐洲中古封建時代ニアツテ羅馬法皇ノ威權
 勢力ハ如何ニ強盛ナリシカヲ視ヨ實ニ羅馬法皇ハ神權政
 治ノ主義ヲ以テ列國ノ諸侯ヲ統ヘタルヲ以テ自ラ歐羅巴
 全土ノ帝王ト仰ガル、ニ至レリ而ノ當時各國諸侯カ法皇
 ノ下ニ屈服ノ唯諾是命ヲ遵奉セシ所以ノモノハ何ソヤ他
 ナシ法皇ハ神聖ノ身ヲ以テ教權ヲ司ルモノナルカユヘニ
 萬一其命ニ反ク者アレハ教門ノ規約ニ從テ嚴ニ之ヲ懲誠
 責罰スヘキノ權威ヲ保テハナリ是以各國諸侯ハ異議ナク

法皇ノ下ニ跪キテ臣屬ノ禮ヲ執リシモノナリ斯ル情態ナ
 レハ羅馬法皇ガ神權政治ヲ以テ歐洲全土ヲ支配セシキニ
 方テヤ壓制專斷ノ政治ヲ施シテ其害毒ヲ社會一般ノ上ニ
 流布セシモノアルハ自然ノ勢ナルヘシ然ルニマルチンル
 ーテルハ奮然起テ羅馬法皇ノ大壓制ニ抗敵シテ宗教自由
 ノ說ヲ首唱シタルヨリ忽チニ其影響ハ歐羅巴全土ニ偉大
 ノ勢力ヲ波及シテ頓ニ宗教改革ノ機運ヲ促ガシタルニ付
 テハ從來法皇ノ前ニ跪伏シテ臣僕ノ禮ヲ執リタル列國諸
 侯ハ速ニ專制壓抑ノ治下ヲ脱シテ自主獨立ノ權利ヲ全ク
 セントノ希望ヲ起スヨリノ遂ニ政教分離ノ基ヲ開キシモ
 ノナリ然ラハ現今歐洲各國ガ政治上ニ赫々ノ光輝ヲ放テ
 宇内ニ冠絶スル所以ノモノハ全クマルチンルーテルガ宗

教上ノ改革ヲ主張シテ人間天然ノ自由思想ヲ發達セシメ
 タルノ故ニヨルモノアルノ理ヲ解スヘク又タ米國ガ西半
 球ノ一隅ニ開明ノ天地ヲ造ツテ千載不朽ノ政體ヲ成立ス
 ルヲ得タルモノハ實ニ新英蘭ノ「ピユリタン」宗派ノ徒ガ英
 國々教ノ壓制束縛ヲ厭ヒテ奉教自由ヲ得ント欲スルノ念
 慮ヨリ遠ク絶海万里ノ波濤ヲ踰ヘテ亞米利加ノ殖民地ヘ
 移住シタルニ付テハ獨宗教自由ノ元素ヲ輸入シテ漸次ニ
 其分子ヲ諸方ニ散布セシノミナラス其效果ハ已ニ疾ク政
 治上ニモ不羈自由ヲ求ムルノ精神思想ヲ充分ニ培養セシ
 メタルモノアレハ即一旦英國ト兵ヲ構ヘテ獨立ノ基本ヲ
 定メントスルヤ自由ヲ愛スルカタメニハ萬苦ヲ避ケスノ
 奮然之レニ當リ遂ニ堂々タル英國ノ強敵ヲ破ツテ全勝ノ

凱歌ヲ奏シ以テ今日米國ノ名譽ヲ海外万国ノ表ニ輝カス
 モノアルニ至リタルハ是誠ニ「ヒユリタン」ノ祖先ガ其子孫
 ニ傳ヘタルノ賜ニアラスヤ由此視之歐米各國ガ今日ノ政
 治世界ヲ鑄造シ新鮮開明ノ美域ニ達セシメタルモノアル
 ハ全ク宗教的ノ力ニ與カリタル所以ノ理由ヲ鑑ミ知ルヘ
 キナリ
 然テハ歐米諸國カ夙ニ政治ノ善美完全ヲ致シタルモノハ
 果シ何等ノ原因アツテ而シテ然ルカト問ハ、即基督教ノ真
 理ニ從テ能ク政治ノ公平ヲ保チ確然タル一定ノ主義目的
 ヲ以テ國家ヲ支配スルモノアレハナリ亦固ヨリ世ノ學者
 政治家ノ共ニ其力ヲ竭セル勤勞ニヨルモノアリト雖也是
 以未ダ治國ノ要領ヲ定メ施政ノ基本ヲ立ルニ足ラサルナ

リ唯僅ニ其一部局ノ任ニ方テ之カ働キチナスニ過ギス譬
 へハ幕府封建ノ時代ニアツテ多少ノ忠臣烈士カ其主君ニ
 事フルニ於ルヤ能ク其身命ヲ抛テ節義ノ道ヲ盡クシ永ク
 國家ノ干城トナツテ民庶ヲ保護セシモノアリト雖也是レ
 果シ何等ノ力ニヨレルカト云ハ、全ク儒教主義ニ教ユル
 所ノ忠義ノ二字ヲ根據トシ守リ來レルカ如シ是ニ由テ視
 レハ今若歐州諸國ニノ基督教ノ真理ヲ政治上ヨリ取除キ
 タラシニハ焉ク文明ノ光輝ヲ社會ニ放テ國家ノ獨立ヲ保
 ツコト得ンヤ果シ然ラハ今我日本ニ於テモ歐州文明ノ政
 體ニ模擬セント欲セハ宜ク先ツ基督教ノ真理ヲ以テ之カ
 基本トナサ、ルヘカラス然ルニ若此チ之レ願ミスメ管ニ
 彼國外部ノ政體ノミニ倣ハント欲セハ猶ホ柱石ナクノ家

屋ノ構造ヲ望ムカ如シ仮令一時其美觀ヲ裝フト雖也忽ニ
 破壞頽廢ヲ來タスノ患アルヘシ基督曰ク凡テ我言ヲ聽
 テ行フ者ヲ磐ノ上ニ家ヲ建タル智キ人ニ譬ヘン雨降リ大
 水出テ風吹キテ其家ヲ撞トモ倒ルコトナシ是レ磐ヲ基
 礎トナシタルハナリ凡テ我言ヲ聽テ行ハサル者ヲ沙ノ上
 ニ家ヲ建タル愚カナル人ニ譬ヘン雨降リ大水出テ風吹テ
 其家ヲ撞テハ終ニ倒レテ其傾覆大ヒナリト是レ此ノ謂ナ
 リ豈深ク慎マサルヘケンヤ

熟々我國維新後今日マデノ政蹟ニ就テ之ヲ視ルニ一タビ
 歐洲諸國ト交通ヲナセシ以來百般ノ制度總テ彼レニ倣ヒ
 治國ノ大道其宜キヲ得タルヨリ文物燦然大ニ見ルヘキモ
 ノアリ況ヤ大詔一發國會開設ノ期既ニ定マル於是乎吾人

々民始メテ政治ニ參與シテ立憲政體ノ基礎ヲ堅クシ不羈
 獨立ノ完然ノ自由幸福ヲ保ツモノアルヤ正ニ近キコアリ
 嗚呼實ニ愉快ナル好時節ニシテ千載ノ一遇ト云フヘシ然リ
 ト雖也退テ今日ノ政治上ニヨツテ之ヲ考察スレハ未ダ全
 ク吾人ノ望ヲ満足スルニ足ラサルモノアリ抑モ我日本國
 民ニシテ言論ノ自由ヲ得タルモルアルカ新聞條例出版條例
 ノ設甚ダ嚴ニシテ之ヲ拮据ス故ニ適々充分ノ意見ヲ吐露シ
 テ政治ノ利害得失ヲ論議シ是以當局者ノ注意ヲ促シテ失
 錯ノ弊ヲ救ハント欲スルモ得テ爲スヘカラス是ガタメ反
 テ不測ノ禍ヲ買ヒテ其志ヲ空フスルモノアルヲ免レス又
 我日本國民ニシテ集會ノ自由ヲ得タルモノアルカ集會條例
 ハ夙ニ其設ヲナシテ痛ク之ヲ緊束スル所アルヨリ天下同

志ノ士相結テ國事ヲ謀ルノ上ニ大ナル不便ヲ感スルモノアリ又我日本國民ニ上下平等ノ權利ヲ得タルモノアルカ近時ニ至テ新華族ナル者續々相起リテ自ラ世襲門閥ノ位置ヲ占メ一般人民トハ遙ニ其等級ヲ異ニシ殆ト霄壤懸隔ノ觀ヲナスニ似タリ是將ク何等ノ原因アツテ而シテ然ルカ得テ知ルヘカラスト雖モ吾人ハ深ク今日ノ施政上ニ向テ反對ノ意見ヲ有スルモノナリ抑モ政府ガ斯ル新聞條例出版條例ヲ設ケテ痛ク言論ノ自由ヲ制限セラル、モノアルハ何ソヤ是蓋深ク國家ノタメニ利益アルモノト思惟セラル、モノニ起ルカ將ク施政上ニ便利アルモノト考ヘテレタルモノニ由ルカ然モ吾人ハ之ヲ以テ反テ國家ノタメニ不利益ニシテ施政上ニ不便ヲ釀

スモノアルヲ信スルナリ何トナレハ我國今日ニ於テハ昔時封建ノ餘習ヲ除テ歐米各國文明ノ政體ニ倣ハント欲スルノ秋ニアラスヤ然ラハ其政治ハ勉メテ東洋舊時ノ野蠻壓制ナル弊害ナキヲ願ミ衆庶協同一致ノ國家ノ利益ヲ殉ルニ如カス又既ニ政府アツテ人民アリト云ヘルノ時機ヲ過ギ去テ人民アツテ政府アリト云ヘルノ主義ニ變ジタルノ日ニアラスヤ然ラハ施政ノ方嚮ハ總テ公議輿論ニ任セテ失錯ノ弊ヲ救フノ便利ナルニ如カス然ルニ此ヲ之レ願ミズシテ政治ノ權限舉テ當局者ノ手ニ掌握シ絶テ其利害得失ヲ人ニ咨ハサルカ如キハ決シテ策ノ得タルモノニアラサルナリ

視ヨヤ英米二國ガ錚々タル基督教國ヲ以テ宇内ニ稱セラ

ル、モノハ何ニヨルカ務テ言論ヲ自由ニ各人ノ意見思想ヲ交換シ是以正理ノ模範道德ノ標準トナシ政治上ノ利害得失ハ總テ之ニヨツテ鑑ミ依テ毎ニ其弊害ノアル所ヲ救フテ平和ニ整理スルヲ得セシムルモノアレハナリ夫レ如此ナレバ國家ノ機運ハ駿々然トノ益々隆盛ニ向ヒ政治上ノ德義ハ煌々乎トノ愈ヨ輝クモノアルヤ亦宜矣呂氏中曰、人主之有天下、強不如秦、富不如隋、形勢不如漢、土地不如唐、然所恃者、唯人心耳、吾人ハ現今字内ノ形勢ヲ觀テ將ニ言ハントス、富英ニ如カス、德米ニ如カス、強魯ニ如カス、形勢獨ニ如カス、然ヒ唯恃ム所ノモノハ基督ノ自由行ハル、邦國ニアルノミト冀シヤ我日本政府ニ於テモ羣々落々日月ノ天ニ懸ルガ如キ公明正大ナル政ヲ施シ以テ速カニ新聞

條例出版條例等ヲノ跡ヲ社會ニ絶クシメラレソト又政府ハ何ガ故ニ集會條例ヲ設ケテ人民ノ自由ヲ拘束セラル、モノニヨルカ然ヒ是却テ國家ノタメニ不利ニシテ治術民心ヲ擾亂シ兇徒相結ムテ不軌ヲ企ツヘキノ患アルヲ恐ル、モノニヨルカ然ヒ是却テ國家ノタメニ不利ニシテ治術ノ宜キヲ得タルモノト云フヘカラス何トナレハ凡ソ執レノ政府ハ論セス法律ノ威力ニヨツテ民ヲ御セント欲セハ必スヤ人心内ニ鬱結シテ不軌ヲ醸スノ基トナリ其禍害ハ遂ニ暴發シテ不測ノ大變ヲ生スルモノアルハ勢免ルヘカテサルモノナレハナリ故ニ能ク自由制度ノ備ハレル邦國ニ於テハ務テ自由寛大ノ法ヲ設ケテ天下ノ民心ヲ和シ廣ク上下ノ氣脈ヲ通シテ政治ノ公平ヲ保タシム是以國家毎

不祥ノ禍ナクシテ永ク無事安寧ナラシムルヲ得ヘシ是
 由テ視レハ力ヲ以テ人ヲ服スル者ハ專制未開ノ時代ニ
 施スヘキモノニシテ其政治ノ品格ヤ甚ク卑シトス心ヲ以テ
 人ヲ服スル者ハ自由開明ノ世期ニ行フヘキモノニシテ其政
 治ノ位階ヤ尤モ高シトス視ヨ彼ノ魯西亞ニ虛無黨ナル者
 アリテ其勢力日ニ熾盛ニ赴キ政府之ヲ壓スレハ益々激
 シテ不測ノ大變ヲ爲シ上下ノ民心固ク鬱結シテ一道ノ殺
 氣常ニ國內ニ充滿シ遂ニ魯西亞ノ形勢ヲ頗ル危窮ノ場
 合ニ瀕セシムルモノアルハ何ソヤ他ナシ該政府カ專制歴
 抑ノ政ヲ施シテ人民ヲ統御シ只管法律ノ威力ニヨツテ禍
 害ヲ絶ント欲スルモノアレハナリ反之彼ノ英米二國ノ人
 民カ深ク國家ヲ愛シテ其殷富繁榮ヲ致シ衆庶和樂シテ祥

瑞ノ氣ヲ騷難クシムルモノアルハ何ソヤ他ナシ該政府
 カ務テ公明正大ノ政ヲ行フテ國民ニ不羈自由ヲ與ヘ道理
 社會ニ發揚スル人ノ思想ヲ以テ文明ノ位置ヲ進ムヘキ眞
 價アルモノト認ムレハナリ是ニ由テ考フレハ今我日本政
 府カ集會條例ヲ設ケテ國民ノ自由ヲ拘束セラル、モノア
 ルハ決メ策ノ得タルモノニアラサルヲ信ス殷鑑遠カラス
 英魯ノ間ニ存スル政治ノ利害得失ヲ見テ之ヲ知ルヘキナ
 リ
 又政府カ近時ニ至テ續々新華族ナル者ヲ起シテ特別ノ地
 位ヲ與ヘ一般人民トハ大ニ其待遇ヲ殊ニスルモノアルハ
 何ソヤ惟フニ國會開設ノ期既ニ近キニアレハ之ヲ以テ上
 院議員ニ列セラルヘキノ準備ニ成タルモノナランカ然レ

吾人ハ此舉ニ對シ甚々之ヲ不可トスルモノナリ何トナレ
 ハ元來我日本國ノ如キハ皇統連綿萬古不易古ヨリ奸臣逆
 徒カ竊カコ覬覦ノ志ヲ抱テ不軌ヲ企テシモノアリト雖モ
 絶テ其望ヲ達セシモノアルコトナシ彼レ北條足利ノ如キハ
 殊ニ帝室ニ對シ不禮ヲ極メシモノナリ然レ僅ニ將家ノ權
 ヲ握テ數代其威福ヲ弄セシニ過キス然ラハ他日國會ヲ開
 設シテ人民ニ參政權ヲ賦與セラル、モノアリト雖モ是ニ
 ヨリテ焉シ帝室ノ威嚴ヲ損シテ國體ヲ傷シルモノアラソ
 ヤ況ヤ朝憲ヲ紊亂シテ不軌ノ志ヲ抱クカ如キモノ、萬々
 之ナキニ於ルチヤ立憲ノ基礎堅固ナルニ及テ益々君民共
 和ノ美蹟ヲ見ルヤ必セリ是以視レハ今ニ新華族ナル者
 ナ起シテ故ラニ帝室ノ藩屏トナスヘキノ位置ニ備ヘ以テ

帝室ト人民トノ間ニ牆壁ヲ設ケテ彼此相離隔セシムルカ
 如キノ必要アラソヤ若如此ニセハ反テ君民上下ノ情ヲメ
 疎キニ失スルノ患ナシトセズ故ニ吾人偏ニ望ラシハ速ニ
 ニ彼ノ新華族ナル者ヲ廢止シ全國人民ノ權利ヲ平等均一
 ニ歸セシコトヲ望ムナリ
 然ルニ邇テ維新ノ初年ニ就テ之ヲ視レハ政府ハ主トシ言
 路ヲ洞開シテ施政ノ利害ヲ顧ミ上下合體シテ國是ヲ定メ
 シト欲セシナ以テ即チ左院ノ設ナシテ廣ク天下ノ建言
 ナ徵シ苟モ愛國ノ志アル者ハ進ムテ其精忠ヲ竭サシコト
 冀ハレタルモノニアラスヤ是則國民ニ言論ノ自由ヲ與ヘ
 テ敢テ憚カラシメサリシモノナリ又廢藩置縣ノ大令ヲ下
 タスヤ士ノ常職ヲ解キテ農商ニ歸スルヲ聽シタルカ如キ

全國賦兵ノ大典ヲ設ケテ一般人民ニ護國ノ義務ヲ負ハシ
 メタルカ如キハ是蓋上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスルノ基
 本ヲ立タルモノナリ此時ニ方テヤ彼ノ集會條例ノ如キモ
 ノヲ設ケテ人民ノ自由ヲ拘束スルノ如キハ夢想ニタモ
 聽キ得サリシ所ナリ是實ニ明治盛世ノ美舉ニノ歐洲諸國
 ニ對シ愧サル所ノ政策ト云フヘシ
 是ニ由テ之ヲ視ルニ我國維新後今日ニ至ルマテ僅々二十
 餘年ヲ經過セサル間ニアツテ斯ノ如ク政治ノ體裁種々ニ
 變動シテ前後相反シ其方嚮一定ニ歸着セスノ彼此相矛盾
 スルカ如キノ嫌ナキ能ハス是惟フニ何等ノ原因アツテ而
 シ然ルカ得テ知ルヘカラスト雖也吾人ハ深ク國家ノタメ
 ニ痛嘆ニ堪ヘサルナリ故ニ吾人ハ飽マテ現時ノ弊政ヲ救

ヒ遠ク國家將來ノ大計ヲ定ムルニハ宜ク今後當局者カ歐
 洲外部ノ政體ノミニ倣ハスノ夙ニ彼國カ基督教ノ真理ヲ
 以テ根據トスル確乎タル主義目的ノアル所ヲ探求メテ之
 ヲ政治上ニ施シ是以遂ニ基督ノ示セル磐ノ上ニ建タル堅
 牢不拔ノ家屋トナシ暴風大水之ヲ撞テトモ絶テ動搖スル
 ノ患ナク依テ以テ我國民ノ自由權利ヲ鞏固ニシ完全ナル
 幸福ヲ得セシメラレノヲ望ムナリ

基督教ニ由レル日本政治ノ運命

賴山陽曰。吾嘗讀戰國諸策。參之孟子之書。其始未嘗不嗤其迂
 焉。而其終也。撫卷而嘆曰。嗚呼。天下之捷利者。孰如孟子哉。自孟
 子視之。戰國所謂。勇悍智辨者。皆迂濶之甚者也。ト吾人モ亦每
 ニ深ク戰國時代ノ諸侯カ悉ク孟軻ノ說迂濶用ユルニ足ラ

サルモノトシテ治國ノ大道ヲ悟ラス反テ蘇張等カ功利智辯
 ノ詐術ニ惑ヒテ社稷顛覆ノ禍ヲ招キタルノ跡ヲ悲マスン
 ハアラサルナリ試ニ彼レ戰國智辯遊說ノ士ガ心術ノ存ス
 ル所ト猥ニ人ノ國ヲ誤マリタルノ證據ニ徴ノ之ヲ願ヨ其
 情態ハ殆ント云フニ忍ヒサルモノアリ視ヨ彼ノ蘇秦カ秦
 王ニ容ラレスノ趙國ニ遊說スルニ方リテ寧爲雞口。無爲牛
 後。トハ是レ實ニ六國合從ノ策ヲ立テ強秦ニ當ラントテ德
 憑セシ所ノ言ナリ然レ一旦秦國カ諸侯ヲ間シテ合從ノ約
 ナ破リ齊魏二國ヲノ趙ヲ伐タシムルニ於ルヤ絶テ其國ノ
 興廢存亡ヲ顧ミスノ其身ノ難ヲ追カレタルカ如キハ以テ
 漫ニ人ノ國ヲ售テ己カ功名ヲ釣ルヘキノ餌ニ供シタルモ
 ノアルヲ知ルヘシ又タ張儀ナル者カ楚國ニ用ヒラレスノ

家ニ歸リタルノ日傲然其妻ニ示スニ三寸不爛ノ舌能ク天
 下ニ縱横スルニ足ルヘシトノ一言ヲ味フモ猶ヨク彼カ智
 辯ヲ鬻ヒテ以テ富貴功名ヲ貪ラント欲スルノ心情ニ外ナ
 ラサルヲ窺知ルヘキナリ其他商鞅カ秦國ニ相トシテ霸道ヲ
 行ハント欲スルニ方テ如何ナル權謀術數ヲ假テ人心ヲ瞞
 着セント試ミタルカヲ想見ヨ初メ法令ヲ國內ニ施行セサ
 ル前ニアツテ先ツ一木ヲ國都ノ南門ニ立テ示シテ云ク若
 能ク之ヲシテ北門ニ移スモノアラハ與フルニ拾金ヲ以テセ
 ント民皆怪ムテ之ヲ徙サス尋テ復ヒ示シテ云ク若能ク之
 ナ徙ス者アラハ五拾金ヲ與フヘシト一人アリ其令ノ如ク
 ナ依テ輒ク五拾金ヲ受タリ於是乎國民一般法ノ信スヘキ
 ナ知テ敢テ之ヲ疑フモノナク如此クニシテ法ヲ行フコト十

年途ニ遺タルヲ拾ハス山ニ盜賊ナク民公戰ニ勇ニノ私闘
 ニ怯ク初メ法ノ不便ナルヲ言フ者後ニ法ノ便ナルヲ唱ヘ
 是ニ由テ秦國富强ヲ致シ商君ノ治其宜キヲ得タリト稱セ
 リ然レ彼レ商鞅ガ最後秦國ヲ出奔シテ他國ニ逃ル、コ方
 テ如何ナル境遇ヲ閱セシツ客舍ノ主人ガ己ヲ容レサルヲ
 聽キ嘆息シテ曰クア、法ヲ設ルノ弊何ツ此ニ至ルカト遂
 ニ再ビ國ニ還リタル後車裂ノ刑ニ遭フテ死シ從テ永ク秦
 國ニ施シタルノ法モ此ニ至テ全ク亡滅ニ皈シタルモノ、
 跡ニ就テ之ヲ考フルキハ即商鞅ガ法律ノ威力ニ杖テ民ヲ
 御セント欲スルモ得テ爲スヘカラサルノミナラス其禍ヤ
 踵ヲ回ラサスノ至ルモノアルヤ以テ知ルベキナリ由此視
 之戰國遊說ノ士ガ爲ス所ハ頼襄ノ所謂迂濶ノ尤モ甚キモ

ノナリ然ルニ孟軻ガ列國諸侯ノ間ニ漫遊シテ之ニ説キテ
 ル者ヲ視レバ徧ニ仁義五常ノ道ニ基ヒテ王政ヲ行ハント
 ナ冀ヒタルモノナリ是以齊梁ノ間ニ遊ブヤ必ズ先ツ仁政
 ナ民ニ施シ深ク耕シ易メ耨ルノ法ヲ教ユルモノハ即能ク
 民ヲ恒産ヲ得セシムルヲ俟テ一國富强ノ基礎ヲ定メ
 ト欲スルモノナリ又ク壯者暇日ヲ以テ其孝悌忠信ヲ修メ
 シムルノ道ヲ諭スモノハ即能ク民ヲ君長ノタメニ死ス
 ベキ節義ヲ重シテ愛國ノ情ヲ厚カラシメンガタメナリ是
 レ管子ノ所謂倉廩充而知禮節衣食足而知榮辱ト云ヘル所
 ノ治國ノ順序本末ニ合ヘルモノナリ夫レ當時列國諸侯ノ
 爲ス所ヲ視レバ互ニ戰鬪攻伐ヲ事トシ濫リニ人ノ國ヲ侵
 シ邦土民命ノ安全ヲ顧ミズノ徒ラニ自己ノ貪慾ヲ飽カシ

メント欲セシモノナリ是以列國與ニ怨ヲ構ヘテ一日社稷ノ安キヲ保タズ衆庶塗炭ニ苦ムデ其君ヲ視ルコト猶ホ譬敵ノ如キ想ヲナシタルモノナリ若此時ニ方テ孟軻ノ所謂仁政ヲ民ニ施シテ休養生息ノ道ヲ得セシメタランコハ天下ノ其君ヲ疾ム者ハ皆來テ其朝ニ愬ヘ庶民之ニ皈服スルモノアルヤ恰モ沛然トノ水ノ卑キニ就クガ如キ勢ヲナセシナラン又々上下心ヲ一コノ國ヲ護ルノ基礎ヲ固カラシメシメニハ中國ニ莅ムデ四夷ヲ撫デ梃ヲ制シテ以テ秦楚ノ堅甲利兵ヲ撻タシムルモノニ至ルヤ決ノ難キコアラサルナリ是ニ由テ考フルキハ頼襄ノ所謂天下ノ捷利ナル者孰カ孟子ニ如カンヤト云ル言ノ甚ダ適切ナルヲ知ルナリ今吾人ハ基督教ヲ以テ日本政治ノ運命ヲ維持スルコアラ

サレハ到底善美完全ノ改良得テ望ムヘカラサルノ理アルハ猶ホ頼襄ガ孟軻ノ王道ヲ説キタルモノヲ評シテ天下ノ尤モ捷利ナルモノナリト云ヘルノ意ニ等シキ感情ヲ表サント欲スルナリ
 現今我國政治界ノ情況ニ就テ之ヲ觀察セバ多少ノ人士孰モ皆政治上ニ眼ヲ注ギテ銳意熱心ニ之レガ改良ヲ望ムモノアルハ深ク國家ノタメニ祝賀スヘキモノナリト雖也然レ猶ホ一段高尚ノ目的ヲ進メテ遠ク前途ノ大計ヲ思慮シ其果ノ能ク真正ナル政治ノ改良ヲ爲シ得テ國家永久ノ福利ヲ完クスヘキモノ、一大根源タル基督教ニ關係アルモノ、點ニ至テハ往々之ヲ無頓着ニ附シ去テ敢テ願ミサルノミナラス反テ基督教ノ眞理ハ迂濶事情ニ適セサルモノ

トシテ容易ニ之ヲ信認セサルモノ沿々タル天下ノ政論家
 皆然ルガ如シ焉ヲ知ラシ政治改良ノ捷徑ノ却テ基督教ニ
 優ルモノナキノ理ヲ悟ラサルモノハ深ク痛嘆スヘキトコ
 アラズヤ要スルコ今日ノ政論家ハ只管政治ノ改良ヲ法制
 ノ上ニ需ムルモノニ人人心内部ノ改良ヲ冀フモノコハア
 ラサルナリ果シ然ラハ是猶ホ根柱ヲ設ケスノ家屋ノ構造
 チ望ムカ如シ豈亦難キニアラズヤ
 夫レ古來一國政治ノ基本タル人心ノ改良ヲ謀ラスノ特ニ
 政治ノ改良ヲ望ミタルモノニ果シ能ク善美ノ政體ヲ組
 織シテ永ク社會ノ福祉ヲ享有シタルモノアルカ之ヲ古今
 内外ノ史籍ニ照ラスニ未ダ曾テ其例證ヲ見サルナリ假ヘ
 ハ爰ニ一魚アリ其鱗鬣ヲ視ルニ殊ニ鮮美ナリ以爲ラク其

味極メテ佳ナラント翌日出シテ而シ之ヲ視レバ臭腐敗壞
 食フベカラズ是蓋其腸已ニ腐テ能ク鱗鬣ノ美ヲ有ツヘキ
 ノ理ナシトハ即頼氏山陽ガ延喜朝ノ時弊ヲ痛嘆セシ所ノ
 言ナリ然レ個ハ是レ獨延喜朝ノ時弊ヲ指摘セルニ緊要的
 タル針砭ニ止ラスノ沿々タル天下ノ時弊皆此ノ如キモノ
 アラン試ニ想ヨ今若吾人々民ガ能ク眞理ノ眼ヲ具ヘテ事
 物ノ正邪善惡ヲ識別スルノ腦力ニ乏ク各自獨立シテ社會
 ニ立ツヘキノ資格ナキモノトセンカ終始他人ノ權下ニ跪
 キテ卑屈奴隸ノ情態ニ陥リ絶テ天然ノ自由權利ヲ伸フル
 ノ日ナカルヘシ凡ソ古來世ノ所謂英雄ナル者ガ其時代ト
 場合ニ投シテ巧ニ籠絡瞞着ノ手段ヲ逞クシ是以汎ク天下
 ノ民心ヲ博取シテ自家ノ望ヲ満足セントスルモノアルハ

實ニ厭フヘク惡ムヘキモノコソ即古昔門閥時代ノ偽善者
 ハ己ガ上ニ戴ク所ノ君主ヲ餌トシ以テ其望ム所ノ情慾ヲ
 遂ゲントスルモノナリ故ニ彼等ガ陽ニ口實ヲ設ケテ天下
 ノ利ヲ網セント欲スル所ヲ聽ケバ曰ク忠義曰ク勤儉ト眞
 ニ國家ノ柱石タル良臣ノ模範標準ト爲スコ足ルヘキモノ
 如シト雖ヒ然ヒ其實ハ忠君愛國ノ假面ヲ粧フテ巧ニ欺
 騙ノ術ヲ施ス者ニアリ亦タ民政時代ノ偽善者ハ己ガ眼下
 ニ視ル所ノ人民ヲ犧牲トシ以テ羽翼爪牙ノ用ニ供セシ
 ヲ努ムルモノナリ故ニ窃ニ彼等ガ媚ヲ呈シテ民望ヲ買ハ
 ント欲スル所ヲ聽ケバ曰ク自由曰ク權利曰ク社會ノ最大
 幸福ト實ニ公衆一般仰キ望ムデ以テ國家重要ノ任ニ措ク
 ヘキモノニ似タリト雖ヒ然ヒ其實ハ民心歸嚮ノ風潮ニ投

シテ神變不測ノ籠絡手段ヲ逞クスルモノ、ミ是ニ由テ視
 レバ門閥時代ノ偽善者ハ君相一二ノ手ニ國家ノ實權ヲ握
 ラント欲スルモノニ民政時代ノ偽善者ハ社會多數ノ幸
 福ヲ中央政府ニ集メテ以テ自己ノ專有ニ歸セシメント欲
 スルノ差異アルノミ
 試ニ國史ヲ繙テ清和ノ朝廷ヲ視ヨ或時攝政良房帝ヲ己ガ
 第一ニ臨マシメ郡司百姓ニ命シテ耕作ノ法ヲ觀セシメタル
 モノハ即君主親シク稼穡ノ艱難ヲ察シテ民ニ休養生息ヲ
 得セシムヘキノ道ヲ知ラシメタルモノ、如シト雖ヒ然ヒ
 當時頻年飢饉ニシテ盜賊白日人ヲ劫カスト云ヘル事實ヲ記
 載スルモノアルヲ視レバ即彼レ良房ガ相位ニ在ルヤ所謂
 民ヲ惠ムノ名アツテ其實ナキヲ知ルヘシ然ラバ是蓋良房

ガ巧ニ天下ノ民望ヲ繫ギテ數代藤原氏ノ相權ヲ保クント
 欲スルノ意ニ出タルナリ亦タ彼ノ王莽ガ最初身ヲ起ス間
 ノ事實ニ就テ之ヲ視ヨ當時王侯貴族皆滔々トノ奢侈ニ耽
 リ輿馬聲色ヲ以テ佚遊相高ブリタルモ獨莽ハ恭儉身ヲ謹
 ミ被服儒生ノ如クシ以テ只管當世ノ豪傑ニ交リテ名聞ヲ
 得ルコトヲ努メタルヲ以テ一旦大司馬將軍トナツテ政權
 ヲ握ルニ方テヤ天下四方上書シテ王莽ノ德ヲ稱スルモノ
 四十八萬人ノ多キヲ致シタルモノアルヤ亦宜ナリトス然
 レ彼レ能ク其志ヲ得ルニ及デヤ平帝ヲ弑虐シ孺子嬰ヲ廢
 シ遂ニ漢室ヲ倒シテ新帝ノ位ニ昇リ而カモ漫ニ法度ヲ壞
 亂シテ億兆ヲ塗炭ニ苦メタルモノヲ視レバ曾テ恭儉士ニ
 下リテ君子ノ風ヲ學ビタルモノハ全ク奸雄ノ徒ガ深ク人

心ヲ瞞着セシ所ノ手段ニ外ナラサルナリ是蓋門閥時代ノ
 壓制者ガ巧ニ天下ノ人心ヲ籠絡シテ自家ノ慾望ヲ遂ケン
 ト欲スルノ情態ヲ示スモノナリ反之民政時代ノ壓制者ガ
 好機會ニ投シテ其志ヲ獲ント欲スルモノヲ視ヨ暫ク其趣
 ヲキキテ異ニスルモノアリト雖レ其實殆ント之ニ等カルヘ
 キモノアリ請フ彼ノ佛國第三世ナポレオン時代ニ組織サ
 レタル共和政治ノ情態ハ如何ナリシカヲ想見ヨ實ニ彼レ
 ナポレオンハ共和黨ノ大統領トナツテ民福ヲ増進センコ
 トヲ勉メタルガ如シト雖レ然レ其實壓制無道ノ處置ヲ以テ
 之ヲ統御セシモノナリ故ニ憲法ニヨレハ特ニ下院ノ權力
 ヲ重シテ厚ク議員ヲ待過セシモノ、如シト雖レ暗ニ之ヲ
 防遏シテ以テ其權限ヲ縮メ反テ自家ノ藩屏タルヘキ上院

ニ至テハ大ニ之ヲ保護セリ夫レ如此クナレハ一般人民カ
 普通撰擧法ニヨツテ出シタル所ノ下院ノ代議士ハ皆コ大
 統領ノ手ヨリ下附セル議案ニ付テ之ヲ討議スルマデコテ
 斷然立法權ヲ保有スルコト能ハズ然ルコトナボレオンノ登
 用セル上院議員ハ隨意ニ之ヲ取捨シテ其意ヲ迎ヘタルヲ
 以テ畢竟國會ニ存スル所ノ實權ハ特ニナボレオンノ一手
 ニ歸シ平民社會ハ徒ラニ有名無實ノ虛器ヲ擁シテ壓抑擅
 制ノ下ニ呼吸セシモノナリ然ラハ是實ニ純乎タル壓制無
 二ノ君主政治ニシテ僅ニ共和政治ノ體面ヲ粉飾セシモノ、
 ミ諒ニ憫ムベキノ情態ニアラスヤ夫レ然カリ而シテ個ハコ
 レ獨佛國ノ事蹟ニノミ止ランヤ史ヲ讀ム者深ク鑑ミル所
 ナクシハアルヘカラズ

由此視之若能ク一般人民眞理ノ眼ヲ具ヘテ事物ノ正邪善
 惡ヲ識別スルノ腦力ニ乏ク各自獨立シテ社會ニ立ツベキ
 ノ資格ナキモノトセハ終始他人ノ權下ニ跪キテ卑屈奴隸
 ノ情態ニ陥リ絶エテ天然ノ自由權利ヲ伸ブルモノアルヘ
 カラサルヤ蓋門閥時代ノ政治界ト民政時代ノ政治社會ト
 ニ論ナク必ズヤ此情態ヲ免ル、コト能ハサルヘシ然ラハ
 特ニ政治ノ改良ヲ法制ノ上ニ需ムルモ敢テ人心内部ノ發
 達ヲ願ルコトナク是ニ由テ頻ニ國家ノ安全幸福ヲ保テ衆庶
 共同ノ利益ヲ受ケシコトヲ冀フハ抑モ謬レリ矣今夫レ試
 ニ夫ノ精巧緻密ヲ施セル美術的其物ヲ觀レバ人皆歎賞シ
 テ止マサルノ感ヲ發スルナラン然レ此美觀ヲ呈スルマデ
 ニ種々巧妙ナル工風精神ヲ凝ラシタル作者其人ノ勞ヲ稱

讃セサルモノハ抑モ品評家ノ資格ヲ失セルモノト云フヘ
 シ夫レ如此クハ國家善美ノ制度ヲ造爲シテ一層高尙ナ
 ル位置ニ進ムルニハ必スヤ能ク眞實至誠ノ思慮精神ヲ抽
 テ之ヲ組織シ得ル所ノ政治家其人アツテ始メテ此ニ達セ
 シムルモノアルノ理ヲ悟リ知ラサルハカラス是則人心ノ
 發達ヲ先ニ法制上ノ改良ヲ後ニセサルヘカラサル所以
 ノモノナリ
 夫レ我國今日ノ政治界ニ立テ之ヲ觀察セヨ門閥時代
 セシ專制政府ハ既ニ倒レテ民政時代ニ必要ナル立憲政體
 將サ起ラントス日ナリ英雄崇拜ノ卑屈心ハ夙ニ之
 ナク取除キテ各自獨立ノ智識能力ニ任シテ事ヲ處理セ
 ン秋ニテアラスヤ然ラハ吾人々民ガ今後政治界ニ立
 タラズ欲

活動ヲ試ント欲スルモハ何レノ地ニ求ムベキヤト云フ
 ニ唯能ク基督敎ニ由ル眞理ノ眼ヲ以テ種々弊害ノ存ス
 ルモノナク攘斥シ以テ公義ノ二字ヲ利器トシテ反對者
 雄勝敗ヲ決シ以テ遂ニ能ク萬人同等ノ權利ヲ重クテ四
 兄弟ノ實ヲ完ク仁愛無限ナル天父ノ下ニ夫然カテ而
 家ノ福祉安寧ヲ保セシメ無限ナル天父ノ下ニ夫然カテ而
 能ク此運命ニ達セシムルハ如何ナル方法手段ニ求めテ
 可ナクカト云ハ他ニシテ唯正ニ基督敎ノ眞理ヲ循ク國
 民一般ノ腦裡ニ注入シテ天然ノ智識能力ニ充分ノ光輝
 増シ公平單純ノ精神思想ヨリ組織サレタル集合體ニヨ
 テ政治ノ改良ヲ爲スニアルナリ
 論家ガ認メテ以テ之ヲ攘斥スル所ノ基督敎ノ眞理ハ決
 ノ

迂濶事情ニ適セザルモノニアラスノ反テ政治改良ノ捷徑ノ之ニ優ルモノアルベカラサルノ理ヲ悟ルモノアラン夫レ然カリ豈ニソレ然ランカ吾人頼襄ガ孟軻ノ王道ヲ説キタルモノヲ評シテ天下ノ捷利孰カ孟子ニ如カンヤト云ヘルニ鑒ニ倣ヒタルモノアルハ亦善カラスヤ

基督教ニ由レル平和主義ノ政策

夫レ暴ヲ以テ暴ヲ伐タルハ古來野蠻時代ニ行ハレタル腕力主義ノ情態ニシテ德ヲ以テ德ニ對スルハ近時文明世界ニ施サル、平和主義ノ政策ナリ抑モ斯ク古今時勢ノ變遷ニヨリ腕力主義ノ情態ヲ改メテ漸ク平和主義ノ政策ニ推移シタルノ理由如何ト問フニ是蓋其原由ハ種々アルヘシト雖ヒ吾人ハ先ツ政體ノ種類如何ニ由テ之ガ差等ヲ閱スル

モノトシ終ニ宗教ノ無形的ナル勢力ニ由テ之ヲ左右スヘキモノアルノ理ヲ發明考究セント欲スルナリ夫レ何ヲ以テ政體ノ種類如何ニ由テ政略上ノ主義ヲ異ニスルカト云フニ蓋古來野蠻時代ニ行ハレシ所ノ君主擅制ノ下ニアル人民ハ曾テ政治上ニ喙ヲ容ル、不能ハズノ無氣力ナル卑屈奴隸ノ地位ニ陥リ生殺與奪ハ權ハ舉ゲテ君主ノタメニ掌握サレ絶テ天然ノ自由幸福ヲ完クスル不能ハサレハ即國家消長ノ命脉ニ關シ一般人民ノ利益休戚ニ係ハルガ如キ最大事件タル戰爭ト雖ヒ固ヨリ君主一人ノ專斷ニ皈シテ毫モ人民ノ意見ヲ問フコトナク是以只管己ガ貪慾ヲ飽カシメシカタメ隙ヲ敵國ニ釀スヤ遂ニ國家不測ノ大變ヲ惹起シテ財力ヲ耗竭シ慘烈無比ナル活劇ヲ演シテ民命ヲ犠

牲ニ供シタルモノナリ是則君主擅制時代ニ行ハル、ノ常
 態ニシテ古今萬國ノ通觀タリ然ラハ君主擅制ノ下ニハ自由
 ナクノ壓制時代ニハ腕力主義ノ行ハル、モノアルノ理ヲ
 知ルヘシ矣
 抑モ紀元前ニアツテ非常拔群ノ英傑ヲ以テ大名ヲ宇内ニ
 輝カシ前古無比ノ雄略ヲ揮ツテ四鄰ヲ征服シタルモノハ
 誰ゾヤ實ニ彼ノアレキサンドル大帝ニアラスヤ視ヨアレ
 キサンドルハ其父ヒリッポガ馬基頓ヨリ起テ希臘列國ヲ征
 服シタル後ヲ繼ギ遂ニ全世界ヲ一統シテ大ニ諸學術ヲ興
 シ空前絶後ノ偉功ヲ立テ其志ニ酬ヒント欲スル所アルヨ
 リ親カラ大軍ヲ引率シテ波斯印度遠略ノ事ヲ務メ果シ能
 シ其目的ヲ達シテ畢生ノ大業ヲ成就セリ然レ彼アレキ

サンドルガ斯ル大業偉勳ヲ奏スルノ意旨ハ必スヤ邦土民
 命ノ安全幸福ヲ謀ルモノニ出タルカト云ヘハ吾人決シテ其
 否ラザルヲ信ズルナリ何ヲ以テ之ヲ證スルカ曰ク彼ノア
 レキサンドルガ曾テ少時ニ方テ其父ヒリッポガ希臘列國ヲ
 服從セシムルト聽キ流涕シテ云クアハ大人功ヲ天下ニ立
 ル。此ノ如シ兒ヲノ竟ニ武ヲ用ユルノ地ナカラシムト謂
 ヘルモノヲ視レバ即彼レ夙ニ武ヲ躡シ兵ヲ弄シ軍功ニ由
 ルニアラズンハ名譽ヲ一世ニ博取シ得ヘカラサル念ノ勃
 ヲトノ心頭ニ萌起セシモノアルヲ推知スベキナリ然ラハ
 彼レアレキサンドルガ其口實トスル所ハ宇内ヲ藩一ニ歸
 シテ邦家ノ隆盛ヲ致シ諸學術ヲ興シテ人民ヲ開明ノ域ニ
 進マシムルモノニアリト雖モ退ヒテ其心術ノ存スル所ヲ

察スレハ畢竟己ガ武略ニ誇テ天下ニ縱横セント欲スルニ
 外ナラズ又々我國豊臣大閥ノ事蹟ニ就テ之ヲ視ヨ其身眇
 ヲタル一布衣ニ起テ百戰百勝ノ功ヲ累テ遂ニ諸方ノ強敵
 ヲ驅除誅戮シテ海内ヲ一統シ其末位人臣ヲ極メテ家門ノ
 幸榮ヲ迎ヘタリ然レ猶ホ自ラ其心ニ足レリトセズ進
 テ威武ヲ海外ニ輝カシテ蓋世ノ大業ヲ遂ント欲スル所ア
 ルヨリ俄ニ百萬ノ師ヲ起シテ征韓ノ舉ニ從事シ以テ我國
 前代未聞ノ偉功ヲ示シテ古今獨歩ノ英雄タル面目ヲ施セ
 リ是蓋シ彼ガ征韓ノ目的タルヤ飽マテ日本國ノ名譽ヲ發
 揚セント欲シタルモノ、如シト雖モ然レ能ク當時彼レ豊
 臣氏ノ境遇ニ付テ之ヲ考察シ來タレハ或ハ否ラザルモノ
 アラン其事ヤ或人ガ豊太閤ヲ詠スルノ詩ニ誰知一滴蕭々

涙。覆。沒。三。韓。八。道。來。トアルハ諒ニヨク英雄ノ心情ヲ描出セ
 ルモソト云フベキカ何トナレハ彼レ豊臣氏ガ己レ一世ノ
 間ニ辛苦經營セシ所ノ天下ハ其子秀頼ノ庸劣ナル能ク之
 ヲ保ツニ足ラス墳土猶未タ乾カスノ中原ノ鹿ハ終ニ徳川
 家康其人ノ手ニ落ルヤ必矣况ヤ己レ業ニ衰老ノ齡ニ垂レ
 テ深ク子孫將來ノ運命ヲ想ヘハ暗涙一滴細カニ其情ヲ哀
 マシメタルモノアラン於是乎彼レ翻然トシ自ラ謂ヘラク
 吾寧ロ瞑目セザルニ方テ空前絶後ノ大業ヲ立テ不朽ノ名
 聲ヲ千載ノ下ニ遺サンニハト依テ竟ニ無名ノ師ヲ起シテ
 征韓ノ舉ニ及ビタル所以ナラン大抵英雄ノ心事如此ナル
 ベシ然ラハ是蓋我國武ヲ海外ニ用ユルノ止ムヲ得サルモ
 ノニ出テタルニアラスノ畢竟彼レ豊臣氏ガ最後ノ手並チ

鬱懷ノ餘ニ散セシモノト謂フテ可ナルカ又タ佛帝第三世
 ナポレオンノ舉動ニ就テ之ヲ視ヨ千八百五十四年英佛二
 國合從シテ露國ヲ擊ツニ方リ遂ニ彼ノ有名ナルセバスト
 ポールノ堅城ヲ陷レテ凱歌ヲ奏セシヲ以テ大ニ土耳其政
 府ニ其恩ヲ貸シテ佛國ノ榮譽面目ヲ施シタルモノニ似タ
 リト雖モ然モ是實ニナポレオンガ一時ノ權謀術數ニ出テ
 自家ノ慾望ヲ果サント欲スルモノニ過キズ何トナレハ彼
 レナポレオンハ初メ佛國人民ノタメニ推サレテ大統領ト
 ナリシモ幾クモナクノ自ラ誓ヒタル憲法ヲ破リテ皇帝ノ
 位ニ昇リ只管威權壓力ヲ假テ國家ヲ統御シタルニヨリ忽
 ナ一般人民ノ乖離ヲ招キ來タシテ殆ト帝家ノ運命ヲ維持
 スヘカラサル場合トナリタルヲ悟リ於是乎故ヲニ隙ヲ外

國ニ醸成シテ事業ヲ多端ナラシメ遂ニ人民チノ已ニ抵抗
 スルノ邊ヲカラシムルニ如カスト思惟スル所アルヨリ俄
 ニ事ヲ土國ニ構ヘテ無要ノ需メヲナシ此間ニ居テ暗ニ魯
 土兩國ノ罅隙ヲ釀サシメタリ然而ノ遂ニ能ク己ガ企望ス
 ベキ目的ニ達スルヤ土國ヲ救援スルヲ名トシ魯國進撃ノ
 一事ニ全力ヲ注ギ以テ能ク強大無比ノ大敵ニ打勝テ自國
 ノ光榮ヲ輝カスモノニ至レリト雖モ是眞ニ佛國一般ノ幸
 福ヲ謀ルガタメニ起シタルノ義舉ニアラズノ反テ彼レナ
 ポレオン一家ノ利益ヲ慮ルモノ、計畫ニ出タルナリ
 由此視之古來君主擅制ノ時代ニアツテハ國家ノ實權ハ僅
 ニ上流社會ニアル一箇ノ英雄豪傑ノタメニ左右セラレ全
 體ノ幸福利益ハ悉ク貴族的ノ手ニ横奪セラル、ノ有様ナ

ルヲ以テ到底人民タル者ハ政治ニ參與シテ自由ノ權ヲ得
 ルヲ能ハス恰モ血氣アル器械ノ如クニ使役セラレテ卑屈
 奴隸ノ境遇ニ陥ルモノタルヲ免レス然レ斯ノ臣民タル者
 ガ其君主ノ爲メニ貴重ナル生命身体ヲ擲ツテ敢テ辱トセ
 サルモノハ即君主擅制時代ノ制度上ニ約サレタル君臣上
 下ノ名義ハ半乎トノ拔クヘカテサルノ勢力ヲ備ヘ忠義ノ
 二字ハ猶ホ金石ヨリ優レルノ價值ヲ有シタルニヨリ遂ニ
 君主ノ命令ハ是非曲直ヲ問ハズノ唯諾之ニ服從シ其生命
 ナ塵芥ノ如クニ視做メ之ヲ犧牲ニ供シ是以臣民タル者ガ
 君主ニ對セルノ本分ナリト思慮シタルモノナリ斯ル場合
 ニアツテ焉ツ人民タル者ガ政治ニ參與シテ國家ノ利害得
 失ヲ討議シ各自獨立ノ地位ヲ保ツテ天然ノ自由權利ヲ辱

重キヲ得以テ社會一般ノ最大幸福ハ擧ゲテ少數
 ナリ有力者ノ爲メニ攫取ヲ去ラシテ多數人民ノ不幸損害
 ナリ招キ受クルモノ或ルニ免ルルニシテ故ニ古來野蠻時代
 ニ行ハレタル戰爭ハ君主ニ夫ノ專斷ニ歸シテ絶テ人民ノ
 意見ニ關ラズ武斷壓制ヲ尙ヒタルニ機運ニハ必ラズヤ
 腕力主義ニ出テモアルノ理ヲ推知スルニキナリ
 然レ君主擅制ノ制度漸ク廢セラレテ立憲政體若クハ共
 和政治ヲ組織シ變ズルニ及テヤ國家ノ政權ハ獨リ貴族的
 寡掌裡ニ占有セラレテ偏シ億兆人民ノ止ニ配布セラレ公
 議輿論ニヨツテ規定セラレタル憲法ニ基キテ衆庶共同ノ利
 益ヲ完クスルニシテ苟クモ外國ト締盟條約セル
 上ニ起レル宣戰講和ニ關スル大事件ノ如キト雖モ國會ノ

謀議ニ與リテ狼ニ君主ノ意見決テ左右セラルトモ
 アラスカレハ即假ヒ戦争ヲ爲スル場合ニ際スルモ其原因
 君主一人ノ榮辱ニ係ハルヨリ國民一般ノ利害休
 戚ニ關スルモノナリト云フ事決得ス然而シ其戦争ノ性
 質モ共ニ變モセラルヘカフサレノ理アリ何トナレハ則古
 來野蠻時代ニ於テ豪傑者流武斷壓制ノ威權ヲ以テ劫掠
 主義ノ戦争ヲ試ミタルヲキロ方テ以腕力ノ強弱ニヨツ
 テ雌雄勝敗ヲ争ヒタルモ所謂禽獸相食ムノ情態ヲ
 呈シタルモノナリ然レニ近代文明世界ニ推移シタルニ及テ
 ヤ純テ道理社會ニ貴重シラレ、所ノ德義ヲ以テ各國民
 交誼ニナセ、斯場合ニ進ミタルモノナリトシテ良以敵國ト盟

ハ醸シテ戦端ヲ開クヘキノ機會ニ際スルモ先ツ以テ各自
 ハ腦裡ニ有セシ智識ニヨツテ明ラカニ其事ノ是非曲直ヲ
 判斷シ之ヲ公平至當ナル眞理ノ裁決ニ委テ然後始メテ戰
 争ニ如何ニ定ムルモ是實ニ道義感情アル人類ノ爲
 ニ得セキ當然ノ順序方法タルヘケレハナリ是ニ由テ考フ
 所ニハ人類社會未ダ完ク戦争ノ跡ヲ絶ツヘキノ運ニ達セ
 ズト雖モ然レ古今時務ノ變遷ニ從テ政體ノ組織ヲ改良ス
 ルノ時ニ及テヤ戦争ノ性質モ亦共ニ之カ變換ヲ促ガシ來
 タルノ理由ヲ證明スヘキナリ矣
 視ヨ彼ノ米國獨立ノ戦争ニ於ルヤ七年間ノ難戰苦闘毫モ
 屈撓ハ色ヲ見ハサズ堂々タル英國ノ大軍ニ抗敵シタル
 始終ヲ窺ヘハ彼レ固ヨリ器械彈藥ノ備アルニアラス精練

銳武ナル兵ノ設アルコアラズ即其兵ト爲スベキモノハ多クハ皆十三州ヨリ駢集メタル所ノ土人コソ其軍器ト認ムヘキモノハ家々コ蓄フル所ノ銃獵等ニ過ギサルノミ然ル米民ハ奮然身ヲ投シテ犧牲ニ供シ剛毅忍耐一步モ却カズノ能ク其目的ヲ達スルコ立至タルモノハ何ソヤ他ナシ人間ノ自由ハ平等ナリトノ大道理ニ基キテ他マテ英國ノ不義無法ナル壓制コ抗シ國民多數ノ合同一致セル精神ヲ貫キテ當リ難キノ強敵ヲ挫キタルモノニ子興子ノ所謂此城ヲ築キ此塹ヲ深クシ民ト共ニ死ヲ致シテ之ヲ守ラバ挺夫制シテ以テ秦楚ノ堅甲利兵ヲ捷タシムヘシト云ヘルモノ之ナリ又々南北戦争ノ跡ニ就テ之ヲ視ヨ夙ニ合衆聯邦ノ盟約コヨツテ規定セラレタル憲法アルコモ拘ラス獨リ

南部諸州ノ人民ハ謂レナク之ヲ蹂躪シ自立ヲ謀ラント欲スル所アルヨリ遂ニ南北分裂ノ戦争ヲ醸シテ國家不測ノ大變動ヲ惹起セリ於是乎北部ノ人民ハ愛國濟民ノ義務ヲ果サンガタメ相與ニ血ヲ歃テ艱難ニ當ラントテ誓ヒ苦戰勇闘五年ノ久シキニ涉リ終ニ能ク南北ノ擾亂ヲ鎮定シテ復ヒ合衆聯邦ノ盟約ヲ鞏クシ地改メ辟カズ民改メ聚ズノ合衆國ノ安全幸福ヲ享受シ其末國法ニヨリ嚴ニ奴隸賣買ノ惡弊ヲ禁シテ人間天然ノ自由ヲ恢復シ公義仁愛ノ德澤ハ永ク宇宙ニ輝キテ千載不朽ノ名譽ヲ傳ヘタリソレ是等ノ戦争ノ如キハ即國民一般ノ幸福利益ヲ企圖シテ正理公道ヲ明カコセント欲スルノ目的ニ成リ其結果ノ進出スル所ハ文明ノ機運ニ粲然タルノ光輝ヲ與ヘタリ是實ニ歐米

近代ノ歴史ニ於テ其美譽成績ノ最モ顯赫著明ナルモノナ
 リ其他歐洲各國猶未タ弱肉強食ノ情慾ヲ脱セズノ壓制併
 呑ノ勢力ヲ養ヒ動モスレハ事ヲ干戈ニ訴ヘテ優勝劣敗ヲ
 試ムルモノナキニシモアラスト雖モ然モ熟々社會全體ノ
 大勢ニ推シテ觀察ヲ下シ來レハ曾テ兇暴殺伐ノ手段ヲ違
 クノ腕力ノ強弱ヲ爭ヒタルモノモ今ヤ暫ク道義ノ發現
 不ル所ノ當否ヨツテ勝敗ヲ競ヒ權謀術數ヲ以テ武略軍
 功ヲ立ルニアラザレハ一世ノ名譽ヲ博取シ得ベカラス
 ノ主義ヲ抱ケル古代ノ豪傑ハ稍々社會ニ價值ヲ減シ眞實
 至誠ノ徳ヲ以テ人間ノ正路ヲ歩ムニアラザレハ英雄ハ深
 家ノ上ニ奏スヘカラスト定見ヲ持セル近世ノ英雄ハ深
 衆庶ノ尊敬ヲ受ル場トナリタルニ付テハ即強者弱者

チ○凌○キ○テ○壓○制○チ○爲○シ○タ○ル○ガ○如○キ○暗○黒○社○會○ニ○存○セ○
 害○ハ○遂○ニ○其○跡○ヲ○絶○チ○萬○人○同○等○ノ○道○理○ニ○基○キ○テ○邦○國○ノ○福○祉○
 安○寧○ヲ○完○シ○セ○ン○ト○欲○ス○ル○平○和○ノ○政○略○ハ○必○ズ○其○勝○チ○得○ル○モ○
 ノ○ア○ル○ヲ○信○ズ○ル○ナ○リ○グ○ラ○ツ○ト○ス○ト○氏○曰○ク○世○若○シ○單○ニ○軍○
 功○ヲ○立○ル○ガ○タ○メ○ニ○戰○争○ヲ○起○ス○ノ○目○的○ト○セ○バ○其○不○徳○無○情○ヤ○
 深○ク○基○督○教○ノ○旨○意○ニ○悖○ル○モ○ノ○若○シ○果○ノ○軍○功○ヲ○立○ル○ガ○
 タ○メ○ニ○戰○争○ヲ○事○ト○セ○バ○將○ニ○其○怒○ヲ○以○テ○吾○人○ヲ○擊○ツ○ベ○キ○上○
 帝○ノ○裁○判○ヲ○受○ク○ベ○キ○ノ○ミ○ト○ア○ハ○旨○アル○哉○言○ヤ○
 現○今○歐○洲○文○明○ノ○政○治○世○界○ニ○嶄○然○タル○頭○角○ヲ○見○ハ○シ○テ○遠○シ○
 其○名○聲○ヲ○宇○内○ニ○輝○カ○シ○タル○英○國○ノ○政○治○家○グ○ラ○ツ○ト○ス○ト○
 其○人○ニ○貴○重○ノ○價○値○アル○モ○ノ○ハ○何○ソ○ヤ○他○ナ○シ○彼○レ○グ○ラ○ツ○ト○
 ス○ト○ン○氏○ガ○夙○ニ○自○由○黨○首○領○ノ○位○置○ニ○居○テ○政○務○ヲ○執○掌○ス○ル

モノヲ視レバ數十年間ノ久キ徧ニ其主義目的ヲ平和ノ一途ニ進メ是以英國政治社會ニ得ヘキ最大幸福ヲ萬世不朽ノ下ニ傳ヘント欲スルノ故ナリ然レ英國現時ノ政治社會ニ於テ自由黨ト保守黨トノ間ニ執ル所ノ主義目的ハ全ク相反對シテ政略上ノ運動ヲ異ニスルモノアレハ假ハ愛蘭土處分ノ始終ニ於ルモ保守黨ハ飽マテ鎮壓方法ニヨツ之ヲ制取スルモノナレモ自由黨ハ速ニ自治政ヲ允シテ平穩無事ニ局ヲ結ハント欲スルニアリ然リト雖モ自由黨ノ目的ノ如ク愛蘭土ニ自治政ヲ允スノ上ニ於ルヤ極メテ一大困難ノ免レザルモノアリ何トナレバ尙シ愛蘭土ニ自治政ヲ允スニ至ラバ遂ニ獨立國ト變ズルノ憂アルノミナラズ其影響スル所ハ延テ印度其他ノ殖民地ニ波及スルノ慮

アレハナリ故ニ愛蘭土自治案ハ英國ノ政治社會ニ於テ到底行ハルヘカラサルノ傾向アルモノナリ然ルニグ氏ハ國家百年ノ大計ヲ定ムルニハ區々タル目下ノ事情ヲ願ルニ足ラズトシ斷然其意見ヲ決シ自治方案ヲ千八百八十六年ノ國會議ニ提出セシニ果ノ之ガタメ痛ク反對者ノ攻撃擯斥スル所トナリ遂ニ自由黨ハ全敗ヲ招キテ内閣辭職ノ運命ヲ受ルニ至レリ是則グ氏ガ英國政治社會ニアルコト五十年ノ久キヲ經タル間ニ於テ最モ畢生ノ力ヲ揮テ其目的ヲ貫ントシタル政畧ナリシモ然レ斯ク失敗ヲ招受タルモノハ全クグ氏ノ卓見未ダ英國現時ノ民情ニ適セサルヲ以テナリ然レ近ク愛蘭土民心ノ皈依スル所ヲ占ヘハ自治政ヲ熱望スルノ念ハ日ニ烈シク英國政府鎮壓方法ノ嚴肅ヲ

ルニ拘ラス飽マデ之ニ抵抗ノ其焉軼ヲ脱セントスルガク
 メ動モスレハ不軌叛亂ヲ醸シテ國家獨立ノ基ヲ立ツト欲
 スルモノアレハ遂ニハ不可測的ノ患ナキヲ期スヘカラサ
 ルナリ由此視之徳ヲ以テ人ヲ服スル者ハ中心誠ニ悦
 ニ服スト雖モ力ヲ以テ人ヲ服スル者ハ心服スルコ
 ノ力膽ヲザレハナリ然ラハ遠ク前途將來ニ放テ英國
 政治社會ノ運命ヲ察シ恐ルベキノ危害ヲ未然ニ避ケテ
 家ヲ泰山ノ安キニ置カント欲セハ宜シク今ニ斷然自治
 政ヲ允シテ自然ノ民心ニ從フニ如カサルナリ又タ汎ク世
 界ノ公議輿論ニ徵ノ正道ヲ指定スル標準ヲ問ヘハ概
 子自治方案ニ多數ノ贊成ヲ得テ隱然其勢力ヲ増スモノ
 如シ然ラハグ氏ガ畢生ノ大業ヲ以テ自ラ任スル愛蘭土自

治政ノ計畫ハ遂ニ許多ノ障礙ヲ排除シテ勝ヲ全局面ノ上
 ニ奏シ得ルノ日ハ將ニ其近キニアルヲ信ズルナリ嗚呼亦
 實ニ盛ナラスヤ宜也世ノ有識者ハ皆グ氏ヲ認テ平和ノ宰
 相救済ノ大政治家ヲ以テ之ヲ稱賛スルニ至ルヲ
 以上陳ベタルガ如ク古今時勢ノ變遷ニヨリ漸ク社會全體
 ノ組織ヲ改造シテ大ニ進歩發達ノ機運ヲ促ガシ遂ニ古來
 野蠻時代ニ行ハレシ所ノ君主擅制ノ制度廢セラレテ立憲
 政體若クハ共和政治ト變ズルノ日ト共ニ戰爭ノ性質モ亦
 從テ之ガ改良ヲ閱シ猶亦腕力主義ノ情態ヲ去テ平和主義
 ノ政略ニ推移スヘキノ傾向アラシムルモノハ何ソヤ是決
 ノ偶然ニアラスノ深ク原因ノ存スルモノアツテ然カルナ
 リ故ニ徒ラニ有形的ノ外部ニ發現シ得ル所ノ結果ノミニ

觀察ヲ下タスモ迦テ無形的ナル内部ニ勢力ヲ有スルモノ
 、能ク之ガ原因トナリタルノ理ヲ悟ラザルモノハ抑モ誤
 レリ矣蘇老泉曰夫功之成非成於成之日蓋必有所由起禍之
 作不作於作之日亦必有所由兆ト吾人ハ將ニ言ハントス現
 今歐洲ノ政治世界ニ善美ノ政蹟ヲ致セシモノハ敢テ其善
 美ノ政蹟ノ成タルノ日ニアラズノ既業ニ其善美ノ政蹟ヲ
 造爲スヘキ要素タル宗教的ノ力ニ與カリタルモノナリト
 コレ喩ヘハ一朶ノ梅花東風ニ綻ビテ馥郁タル薫香ヲ放
 ザルノ前已ニ疾ク其根幹ヲ培養シテ成育繁茂ノ功ヲ助
 ルモノアルガ如キナリ夫レ如此キノ理ハ何ニ由テ之ヲ證
 明スルカ曰ク基督教ニ説ク所ニヨレバ神ノ前ニアツタハ
 宇内人民共ニ同胞兄弟ノ好誼ヲ保テ自由平等ノ幸福ヲ完

クスヘキ筈ナレハ獨少數ナル貴族門閥者流ガ天下ノ政權
 ナ濫用シテ一般多數ノ人民ヲ壓制スヘキノ理ナク反テ公
 義正道ニ基キテ厚ク之ヲ保護スヘキハ至當ノ本分ナレハ
 即君主擅制ノ制度ハ永ク其運命ヲ維持スヘキモノニアラ
 スノ途ニ立憲政體若クハ共和政治ノ組織ト變ゼサルヲ得
 ス又タ汝ノ隣ヲ愛セヨトノ訓言ハ四海兄弟ノ實ヲ履行ス
 ベシトノ標準ヲ示スモノナレハ彼ノ骨肉牆ニ闘テ禽獸相
 喰ムガ如キ情慾ヲ遂グルハ實ニ人類相愛ノ主義ヲ害シテ
 自然ノ大道理ニ悖ルモノナレバ即福音ノ真理次第ニ社會
 ニ發揚シテ各自ノ人心ニ道德ノ光輝ヲ倍スニ至ルヤ遂ニ
 腕力ノ強弱ニ由テ非理壓制ノ手段ヲ逞フセシモノ、害ハ
 漸ク其跡ヲ絶テ正理公道ニ據テ言論上ニ是非曲直ヲ判ス

ル所ノ平和主義ハ結局其勝ヲ得ルモノアルハ自然ノ勢ナ
レハナリ是以見レハ古來ヨリ今日ニ至ルマテ漸次ニ政治
社會ヲ改造シテ煥然見ルベキノ好結果ヲ奏シ得タルモノ
アルハ實ニ宗教ノ無形的ナル勢力ヲ以テ之ガ根源基礎ト
ナシタルノ理ヲ悟知ルベシ矣

第四章 日本今日ニ存スル道德ノ腐敗

今ヤ眼ヲ一轉シテ我國社會ノ現象ヲ視ンニ我國民ニノ果
シ能ク眞實忠愛ノ心ヲ以テ社會ニ立ント欲スルモノアル
カ表ニハ公明正大ノ口實ヲ設ケテ國家ヲ利セント謂フモ
ノアレハ其實多クハ自己ノ名譽ヲ博セントスルノ心ニ出
テ遂ニ能ク人ヲシテ其徳ニ服セシムルニ足ラザルモノアリ
又彼等人ニ接スルニ務メテ親切慈愛ノ語ヲ使用シテ仁人

君子ノ風ヲ絶フト雖退テ其行爲ス所ノ跡ヲ願ミレハ甚
ク人情ニ非薄ニシテ世ニ疎ンゼラルハモノアリ是安ク眞正
ノ道德ヲ修ムルモノ、行狀ニアラスノ僅ニ目前ノ細利ヲ
鉤ラント欲スル小人ノ態ヲ學ブモノ、ミ
又我國民ニノ果シ能ク義ヲ重シテ利ヲ卑ムモノアルカ凡
ソ維新後社會ノ現狀ニ就テ之ヲ視ルニ皆悉ク滔々トノ利
ヲ好ムノ勢ニ流レテ義ヲ顧ミルモノナク是以遂ニ廉耻ノ
何者タルヲ知ラスノ輕薄ノ人情風俗ヲ爲スモノアルハ未
曾テ今日ノ如ク甚シキヲ見ザルナリ夫レ財利ノ用タルヤ
固ヨリ人生ニ必要ニシテ國家經營ノ道ニ欠クヘカヲサルモ
ノナリト雖ニ然レ若能ク道義ヲ基本トシ利慾心ヲ制スル
コトナクハ遂ニハ必ズ人ヲ害シテ以テ己ヲ益シ社會ノ幸

福ヲ傷ケテ以テ自家ノ貧慾ヲ飽カシメント欲スルモノニ
 至ルヤ勢免ルベカラサルヘシ夫レ如是ニ何ヲ以テ能ク
 各自ノ自由安寧ヲ保護シテ永ク國家ノ幸福ヲ保ツヲ得
 シヤ孟軻曰上下交征利而國危ト惟フニ我國今日ノ現狀殆
 ド此ニ類スルヲナキヤ豈ニ深ク誠ザルベケンヤ
 又我國民ニ果シテ能ク謙遜ノ徳ヲ以テ物ニ接スルモノア
 ルカ稍世間ニ名望ヲ博シタル者カ若クハ學識材智アルノ
 徒ニ至テハ自ラ傲慢尊大ニシテ高尙ノ位置ニ坐シ而モ故ヲ
 ニ外貌ヲ修飾シテ大人豪傑ノ氣風ヲ學ヒ是以揚々得色一
 世ヲ睥睨セシトスルモノ少シトセス是蓋我國民ハ曾テ東
 洋亞細亞ノ一孤島ニ棲息シテ廣ク海外萬國ト交通セス僅
 ニ其眼孔ヲ自國從來ノ事物ニミ注ギテ目下ノ小成ニ安

セシ氣風ノ今猶ホ存スルモノカ宜也我日本ハ建國以來既
 ニ二千五百四十餘年ノ久シキヲ經ルト雖ヒ反テ歐米二州
 幼稚ノ國ニ比シテ實ニ其歩ヲ讓ルモノアルハ職トノ是レ
 之ニヨルカ夫レ如此ニシテ焉ク歐洲諸國ノ人民ガ毎ニ謙遜
 ノ心ヲ以テ刻苦勉強ノ勞ヲ積ミ少壯有爲ノ氣象ニ富ムテ
 大業ヲ社會ニ爲サント欲スルモノト相並テ馳驅スルヲ得
 得シヤ語曰慢招損謙受益ト深ク想ハサルヘケンヤ
 又我國民ニ果シテ能ク真正ノ勇氣ヲ有ツテ社會ニ立ント
 欲スルモノアルカ凡ソ一般人民ノ智識大ニ進ムテ社會文
 化ノ現象ヲ呈シタルハ恐クハ未ダ曾テ今日ノ如ク盛ナル
 ハナカルベシ然レ退テ我國民ガ精神行爲ノ上ニ就テ之ヲ
 觀察シ來タレハ其ノ弊害ヤ漸ク文弱ノ風ニ流レテ怯懦柔

軟ニ化シ社會ノ元氣ハ大ニ衰ヘテ萎靡不振ニ歸セリ故ニ
 今ノ學者才子ト稱セラル、モノニアツテモ其議論ヤ誠ニ
 高尚優美ナレハ確乎タル精神ナク其才氣ヤ甚ダ敏捷銳利
 ナレハ多クハ事ヲ爲スニ足ルモノナク唯社會ノ風潮ニ逐
 レテ其身ヲ進退シ輿論ノ大勢ニ動サレテ其方嚮ヲ轉ズル
 者比々皆然ルガ如シ是以テ能ク此間ニ立テ正理道德ノ導
 ヲ所ニ從テ確乎不拔ノ勇氣ヲ鼓シ國家萬衆ノヲメニハ水
 火刃刃ヲ以テ猶ホ避ケザルカ如キ節義ヲ守レルモノハ殊ニ
 稀ナリトス如此ニシテ焉ク能ク堅牢不拔ノ基礎ヲ定メテ國
 家ノ獨立ヲ保ツヲ得シヤ
 蓋シ我國維新後一ダビ歐洲諸國ト交通シテ文物ノ美ヲ輸
 入スルヤ一般人民ヲ智識ハ駭々乎トシ日月ニ増進シ益々

社會新奇ノ事物ヲ逐テ競争スルノ機運ニ投シタルガユヘ
 ニ我日本從來ノ面目ハ爰ニ一變改革シテ更ニ東洋ノ別乾
 坤ヲ造爲シタルノ觀ナキ能ハス然レ獨道德上ノ點ニ至テ
 ハ其進步甚ダ鈍ク大ニ之ガ權衡ヲ失スルノミナラス今
 ヤ漸ク人情輕薄風俗頹廢高尚純潔ノ美德ハ地ヲ掃ツテ跡
 ナ絶ツノ有様ニ歸シ社會ノ品位ハ大ニ墜落シテ未開ノ低
 點ニ沈淪セントスルノ傾向ヲ來タセリ是豈ニ深ク嘆スベ
 キニアラスヤ凡ソ國家ヲ眞ノ文明ニ期セント欲セバ必
 スヤ智識道德相待テ駢進セザレバ得テ其點ニ達スヘカラ
 サルナリ故ニ若智識アツテ道德ナキハ是實ニ完全ナル
 文明ト稱スヘキモノニアラスノ皮相ノ開化ト名クヘキモ
 ノタリ然而ノ人々ノ品位ヲ改メテ高尚ノ美德ニ進メ社會

ノ道義ヲ正クシ文化ノ上流ニ導クヘキモノハ決ノ學問文
 藝ノ力ニヨツテ爲シ得ヘキニアラサルナリ視ルベシ彼ノ
 希臘ノ雅典ハ文學隆盛ニノ開明ノ光輝四隣ヲ照耀セリ然
 レ人々漸ク驕奢淫逸ニ流レテ絶テ廉耻ノ何物タルヲ知ラ
 ス社會ノ道德大ニ腐敗シテ邦國ノ元氣全ク消耗スルニ至
 レリ然ラハ當時ソクラテス、アレトウ、ノ如キ哲學者流ノ大
 賢其人アリト雖レ文學智識ノミヲ以テ能ク世ノ衰弊ヲ救
 フヲ能ハザルヤ知ルヘシ又支那ノ如キハ古來聖帝明王天
 下ニ臨ムテ厚ク其德澤ヲ垂レ賢人君子世ニ出テ仁義五常
 ノ道ヲ千載ノ後ニ傳ヘタルヲ以テ稱シテ中華文明ノ國ト
 ナシテ大ニ他ニ誇レルモノナリ然レ今日ニ至テ之ヲ視レ
 ハ人情風俗甚ダ淺陋ニ見ルニ足ルモノナク國勢頗ル遂

巡シテ文明諸國ノ背後ニ遺棄セラレ、モノ、如シ然ラハ
 堯舜孔孟ノ道モ遂ニ能ク國家ノ運命ヲ維持スルヲ能ハサ
 ルヤ明ナリ又我國現今ノ實際ニ徴シテ之ヲ視ルモ一旦歐
 洲諸國ト交通シテ百般ノ事物彼ニ倣ヒタルヨリ學問文藝
 大ニ開ケテ一般人民ノ智識ハ著シク進步發達シタリト雖
 レ退テ道德上ノ點ニ就テ之ヲ視レバ人々ノ性質ハ日ヲ逐
 テ大ニ敗壞シ社會ノ品位ハ歲ヲ積テ益々汚穢ニ陥リタル
 ノ觀ヲナセリ即彼ノ名譽私利ヲ營ムノ心ヲ僞テ眞實ノ態
 ヲ粧ヒ利ヲ貪ルノ心甚ダ鋭クシテ義ヲ慕フモノ殊ニ少ナ
 ク傲慢ノ心ニ長シテ謙遜ノ德ヲ失ヒ輕薄怯弱ノ心ニ染ミ
 テ眞正ノ勇氣ヲ有タザルモノ、如キ之ナリ夫レ斯ル人々
 内部ノ不潔未熟ナル精神ヲ改良スルモノナクノ番ニ外部

ニ見ハル、所ノ形體ノミヲ修飾セントスル者コシテ焉
 能ク我國ヲノ真ノ文明ヲ造爲スヲ得ンヤ夫レ然リ然ラ
 バ今後我國民ガ斯ル敗壞セル性質ヲ改メテ正義潔白ノモ
 ノト化シ汚穢ニ陥リタル社會ヲ善美完全ノモノニ歸セ
 シムルハ是レ將タ何等ノ方法手段ニ求ムベキヤト云ハド
 即基督敎ヲ措テ他ニ由ルベキノ道ナキヲ信スルナリ
 基督敎ニ由テ生スル眞實ノ徳
 夫レ基督敎ノ主義トスル所ハ專ラ眞實ニ從テ事ヲ行フモ
 ノニ名譽私利ノヲメニ之ヲ爲スヲ許サス故ニ彼ノ名
 譽私利ヲ營ムノ心ヲ僞テ眞實ノ態ヲ粧フモノ、如キハ固
 ヨリ之ヲ僞善者ナリトシ深ク惡ム所ノモノナリ是以苟モ
 眞實公義ヲ重シテ高尚ノ美德ニ進ミ名譽私利ヲ賤ミテ社

會ノ風教ヲ匡サント欲セバ宜ク基督ノ言行ヲ模範トシ之
 ナ學ハサルヘカラス
 抑モ基督ハ神ノ愛子ニ至尊無上ノ位ヲ保ツモノナリ然
 凡人類ノ罪惡ヲ救ハシガタメニ肉體トナツテ降世シ能ク
 天國ノ福音ヲ述傳ヘテ民ニ悔改ノ心ヲ起サシメ而モ遂ニ
 十字架上ニ磔殺セラレテ贖罪ノ恩惠ヲ垂レ是ニ由テ神人
 兩間ノ和睦ヲ結ビテ公義仁愛ノ道ヲ立テ其血ヲ信ズル者
 ナノ永遠不朽ノ生命ヲ得セシムヘキノ榮光ヲ顯ハセリ是
 以基督一代ノ間ニ存スル言行ヲ見レバ眞實至誠ノ心ヲ以
 テ其敎ヲ説キタルモノナリ他人ノタメニハ恩惠仁恤ヲ施
 シタルモノアリト雖モ自己ノタメニハ曾テ一毫モ之ヲ利
 セシモノナシ宗敵四方ニ起テ讒謗罵詈ヲ極メシト雖モ絶

テ之ト争ハサリシモノナリ衆人ノタメニ深ク尊敬待遇ヲ受ケタリト雖モ未ダ定マレル家モナカリシモノナリ己レ一點ノ罪ナクノ冤枉ニ陥リタリト雖モ更ニ敵ヲ怨ムル者ナク反テ十字架上ニアツテ父ヨ彼ヲ容ルシ玉ヘト宣ヘシモノナリ多クノ反對者アツテ甚シク之ヲ嫉惡シタリト雖モ其行狀ニ付テ少シモ瑕瑾ヲ見出スナク實ニ彼ノ方伯ピラトナシノ吾此人ニ罪アルヲ見ズト云ハシメ又彼ノ百夫ノ長等ヲシテハ誠ニ神ノ子ナリト呼バシムルニ至レリ嗚呼誠ニ基督ハ完全無缺ノ性質ヲ有ツモノニシテ四海萬民仰テ以テ道德ノ模範トスベキモノナリ是ヲ以テ視ルニ若シ基督ニシテ彼ノ名譽私利ヲ營ムノ心ヲ偽テ眞實ノ態ヲ粧フガ如キ偽善者ナリトセバ焉ク能ク如此キノ言行ヲ千八百

年後ノ今日ニ傳ヘテ益々新鮮ノ光輝ヲ照耀スラシムルモノアラソヤ然ラバ苟モ眞實公義ヲ重シテ高尚ノ美德ニ進ミ名譽私利ヲ賤ミテ社會ノ風教ヲ匡サント欲セバ宜ク基督ノ行狀ヲ視テ之ニ倣ハザルヘカラス又使徒保羅ノ行爲ニ就テ之ヲ視ヨ彼レ保羅ハ初メ猶太教徒ニシテ有名ナルガマリエルノ門人ナリ而モ天性鋭敏活潑ニシテ熱心ニ猶太書ヲ奉ゼシヲ以テ毎ニ基督教徒ヲ敵視セリ其官府ニ請テダマスコニ到ルヤ基督教徒ヲ捕ヘテ悉ク之ヲ殺戮セント欲セシ程ナリキ然ルニ一旦主ノ顯現ニ遇ヒテ罪ヲ悔ユルヤ其心情全ク一變シテ深ク基督ノ道ヲ信シ主基督ノタメニハ斷然身命ヲ抛テ以テ己ガ本分ヲ竭サント期セリ是以盜賊ノ難破船ノ難鞭撻ノ難石ニ擊ル、ノ難獄中ノ難ヲ經

過シ之ガタメ屢々飢渴キ食盡キ凍ニ裸ナリシ等實ニ名狀
 スヘカラサル艱難困苦ニ瀕セシト雖也然也道ヲ信ズルノ
 心愈ヨ堅クシ磐石ノ如ク主ノ榮ヲ顯ハスヲメコハ益々勇
 進シテ其教義ヲ四方ニ傳ヘタリ而モ遂ニ羅馬ノ城下ニ於
 テ斬罪ニ處セラレタルガ如キハ即チ能ク基督ノ先蹤ニ倣
 テ十字架ヲ負ヒ之ニ從ヒシモノナリ嗚呼保羅ガ主基督ニ
 對セル忠義ノ偉蹟ヤ巍乎タル山嶽ト共ニ高ク四海兄弟ニ
 注グノ愛ハ蒼々タル淵海ト共ニ深シト云フヘシ夫レ如此
 キハ焉ク能ク世ノ所謂肉體ノ慾ニ眩ミテ名利ニ戀々ナル
 モノ、爲シ得ヘキ所ナラシヤ

基督教ニ由テ生スル愛ノ徳

又基督教ノ主義トスル所ハ專ラ己ヲ損シテ以テ人ニ益ス

ルモノナリ故ニ彼利ヲ貪テ後ニスルモノ、如キハ
 深ク之ヲ忌ム所ノモノナリ然而ノ其能ク主義ノ在ル所ヲ
 履ミ行スヘキハ模範ヲ徴シテ欲セハ亦宜ク基督ノ行狀ヲ
 視テ之ヲ考ヘサルニガク夫レ基督ハ如何ナル尊キ位ニ
 在ルモノゾト云ヘハ即チ天國ニスツテ神ノ右ニ坐スルモノ
 ナリ然ルニ反テ天國ヲ棄テ最モ卑シキ人世ニ降リタルモ
 ノナリ又基督ハ如何ナル性質ヲ保ナタルモノゾト云ヘハ
 即チ神ト同等ニシテ無始無終永遠易ラザルモノナリ然ルニ反
 テ神ハ榮ヲ辭シテ最モ厭フヘキ十字架ノ刑ニ處セシモノ
 ナリ是皆四海萬民ヲ救ハンガタメニ贖罪ノ恩惠ヲ垂レタ
 ルモノニシテ一點モ自己ノ益ヲセシメ之ヲ利セシモノアルナ
 シ惟フニ古來聖人君子世ニ出テ其徳ヲ天下衆人ノ上ニ施

セシモノ多シト雖也然也未ダ曾テ基督ノ如ク道德ノ優レ
 タルモノアルコトナシ視ヨ彼ノ辱ハ罪人ヲ視テ車ヲ下ツテ
 泣キ天下罪アラハ吾一人コアリト云ヒタレ也未ダ基督ノ
 如ク其身ヲ萬民ノ犧牲ニ供シテ救ノ道ヲ立ツヘキモノニ
 アラス延喜帝寒夜衣ヲ解キテ民ノ艱苦ヲ思ヒタルモノア
 リト雖也未ダ基督ノ如ク終身諸方ニ傳道シテ定レル家モ
 ナカリシモノニハ遠ク及ハサルナリ嗚呼實ニ基督ノ行狀
 ヤ至誠天地ヲ動カシ公義仁愛人ヲ感セシムルモノト云フ
 へシ是則基督ガ躬親カラ宗教道德ノ主義ヲ履ムテ其模範
 ナ萬世ノ下ニ示セルモノナリ
 然ルニ優勝劣敗ハ政治社會ニ行ハル所ノ主義ナルヲ以
 テ必スヤ大ニ小ニ御シ強ハ弱ヲ制ス故ニ古來ヨリ今日ニ

至ルマテ世間ニ行ハレ來タル法律習慣風俗ヲ視レハ大抵
 皆此範圍夫出ツルモノナシ即彼ノ夫ノ婦ニ於ルヤ大ニ之
 ナ賤ニ主人ノ奴隸ニ於ルヤ甚ク之ヲ虐待シ獄卒ノ囚人ニ
 於ルヤ痛ク之ヲ殘酷ニ處セシモノ、如キ之ナリ夫レ先ツ
 古來夫ノ婦ニ對セシ行爲ニ就テ之ヲ視ヨ昔時羅馬ノ法律
 ニ於テハ夫タル者ハ時ニ婦ヲ罰スルニ生命ヲ奪フト雖也
 敢テ妨ナク又離婚ノ如キハ總テ夫ノ隨意ニ出テ婦タル者
 ハ異議ヲ其間ニ容ル、コ能ハス故ニ夫ノ權利ハ殊ニ強盛
 ニシ縱マニ壓制ヲ行ヒシト雖也婦ハ卑屈柔順ニシ唯能ク
 之ニ服從セシモノナリ又我日本ノ舊律ニ徴シテ之ヲ視ル
 ニ本夫親ガテ姦婦ヲ殺シタル者ハ無罪トナシ現行法ニ於
 テモ猶ホ特別ノ宥恕ヲ加ヘテ本刑ニ二等若クハ三等ヲ減

スヘキコトセリ然レ若シ婦ノ夫ニ對シテ之ヲ行フキハ通
 常死刑ヲ以テ罰セラルヘシ又有夫ノ婦姦通シタル者ハ重
 禁錮ノ刑ニ處セラルト雖レ有婦ノ夫姦通シタル者ニ對
 シハ絶テ之ヲ法律ニ問フモノアルコトナシ嗚呼是レ實ニ婦
 權ヲ蔑如スルノ甚シキモノト云フヘシ
 然ルニ基督教ノ主義ニ於テハ反テ强者ハ弱者ハ惑ムモノ
 ナルガニヘシ羅馬ニ於テハコンスタンチン帝ガ一タビ基
 督ノ道ヲ奉ズルヤ直ニ法律ニ改正ヲ要スル所トナレリ即
 夫ト雖レ婦ヲ殺セテ死刑ヲ受クヘク又夫ヲ殺ル者コソ充分
 ノ道理アルニ非サレバ離婚ヲ許スルコトセリ是蓋聖經
 ニ示セル夫ハ其妻ヲ愛スルコト己ノ如クスヘシ又基督教
 會ヲ愛スルガ如ク其妻ヲ愛スルコト又夫ノ妻ヲ待ツコト猶弱

キ器ニ於テガ如ク之ヲ敬スヘシトノ訓誡ヲ以テ之ガ基本
 ナリ凡シ男子ナル者ハ概シ身心共ニ女子ニ優レルモノ
 ナリト雖レ此ニヨリテ女子ヲ壓制スヘキノ理ナク反テ之
 ヲ愛憐扶助スルハ男子ノ義務ナルコトヲ知ルニ至レハナリ
 又佛蘭西法律書ヲ視ルニ從來夫ナル者ハ何レノ場合ヲ論
 セス婦カ犯姦罪ヲ認メテ離婚ノ原因トナスコトヲ得レバ婦
 ナル者ガ夫ニ對スルモノニ於テハ唯其家ニ妻ヲ畜ヒタル
 限リテ離婚ヲ請求シ得ルコト規定セリ然ルニ千八百
 八十四年ノ法律ニヨリテ全ク之ヲ廢止シ假令夫ナル者ト
 雖レ苟モ犯姦ノ所爲アルニ於テハ婦カ隨意ニ離婚ヲ求メ
 得ラレヘキモノトセリ此ニ至テ始テ夫婦同等ノ權利ヲ保
 ツヘキモノトナレリ抑モ斯ク歐洲諸國ノ法律ニ漸次改正

要シテ善美ノ域ニ進メタルモ、何ツヤキ全ク基督教ニ
 説ク所ノ主義ヲ實際ニ行フモノニ至レハナリ然レバ我日
 本ニ於テモ將來基督教ノ真理次第ニ發揚シテ道德上ノ位
 置ヲ嵩ムルニ於テハ遂ニ今日ノ如キ不完全ナル法律ハ社
 會ニ其跡ヲ絶ツモノニ至ラン
 次ニ近來マテ主人タル者カ奴隷ヲ虐遇セシ有様ヲ視ヨ亞
 非利加州ノ或國內ニ行ハルハ風俗ニ於ルヤ王家ノ祖先ヲ
 祭ルニハ必ス奴隷三千人ヲ屠戮スルヲ以テ例トス而シテ其
 最モ多ク奴隷ヲ殺スヲ以テ盛典トスルモノナリト云フ又
 或國ニ於テハ王侯親カラ軍卒ヲ率ヒテ隣邦ヲ侵略シ敵ヲ
 擒シテ以テ奴隷トス名ケテ奴隷獵ト云フ故ニ貴族ニ至テ
 ハ大抵家毎ニ幾萬人ノ奴隷ヲ貯ヘテ使役ニ供セリ而シテ其

貴族ノ葬禮ヲ爲スニ方テヤ必ス奴隷ノ男女幾人ヲ縛シテ
 墓所ニ護送シ祭主刀ヲ揮テ其身體ヲ切斷シ淋漓トシテ流
 ル、生血ヲ以テ犧牲ニ供ヘ然後之ヲ殺スモノナリト云フ
 其殘酷非道ノ有様ハ概テ如此クナリキ然ルニ英米二國ガ
 特ニ奴隷廢止ノ業ニ力ヲ竭セルノ故ヲ以テ漸次ニ斯ル野
 蠻殘忍ノ害ヲ除キテ救世ノ大道ヲ施セリ即各國政府カ奴
 隷賣買ノ禁令ヲ下ダスノ後ニ於テ先ツ數艘ノ軍艦ヲ大西
 洋ニ出シテ商船ヲ監察シ若シ密ニ奸商輩ガ奴隷ヲ賣買ス
 ル船舶アルヲ認ムルニ於テハ直チニ捕ヘテ之ヲ禁遏シ以
 テ次第ニ奴隷ヲ解放シテ自由ヲ得セシメタルヲ以テ奴隷
 賣買ノ惡風ハ遂ニ其跡ヲ絶ツニ至レリ加之現今亞非利加
 州ノ或地方ニ於テハ奴隷ノ自主ヲ得タル民相聚テ一國ヲ

ナシ政体ハ共和政治ニ公平ニ事ヲ處シ又ハ教會ヲ設ケ
 學校ヲ建テ一般ノ智徳ヲ進メ且生産ノ業次第ニ繁盛ニシ
 各自處世ノ歡樂ヲ受クルニ至レルモノアリト是皆英米二
 國ノ基督信者ガ相與ニ巨萬ノ資金ヲ投シテ救恤ノ法ヲ施
 セシモノユヨツテ斯ル好結果ヲ奏セ得タルモノナリ嗚呼
 是實ニ主基督大旨ニ從テ同胞相愛スルノ實ヲ闡ミ行フモ
 ノナレハシ然而ノ義ニ南北亞米利加ニ起レル戰爭ノ結果
 ハ遂ニ能ク奴隸ヲ廢止シテ其目的ヲ達シ爾來全地球上到
 ル所奴隸ノ惡弊ハ全ク其根據ヲ絶テ四海萬民永ク天父ノ
 下ニアツテ仁愛ノ恩化ニ浴スルニ至レルモノアルハ即基
 督教ヨリ發スル所ノ愛ノ力ニアラスヤ孔子曰春秋無義戰
 ト吾人ハ將ニ言ハフトス歐羅巴ニ義戰ヲシト獨其能ク稱

シテ義戰ト爲スヘキ者南北亞米利加分裂ノ戰爭ニアルノ
 ミト
 其他獄卒ノ囚人ニ對セル情態ハ如何ナリヤカチ視ヨ歐洲
 諸國未開ノキニアツテハ大抵皆壓制殘酷ノ處置ヲ以テ囚
 人ヲ虐待シ縱マニ鞭撻叱責ヲ加ヘテ毫モ憚ル所ナク而モ
 最モ不潔狹隘ナル獄室ニ數十人ノ多キヲ充テ僅ニ飲食ヲ
 投スルモ龜惡厭フベキモノ、ミ之ヲ視ルヲ猶禽獸土芥ニ
 等シキモノトス是以囚人ノ一タビ獄中ニ入ルヤ悲痛慘怛
 ノ裡ニ呻吟シテ遂ニ斃死スルモノ衆ク且無賴ノ徒終日相
 聚テ博奕等ノ所業ヲ學ビ得ルモノアルヲ以テ益々惡性ヲ
 增長シテ再ビ社會ノ良民ニ化シ去ルノ望ナキニ至レリ然
 ルニ今日ニ至テ之ヲ視レハ大ニ囚獄一般ノ方法ヲ改良シ

テ深ク贊賞スベキノ好結果ヲ與ヘタリ依テ今茲ニ千八百七十八年米國ミツソウリ州サントルイスニ於テ開キタル萬國囚獄會議ノ報告ニヨリ其二三ノ事實ヲ徵シ之ヲテ證セントス先ツ埃國ウイクトリヤ州監獄ノ實況ヲ視ルハ獄舎ノ結構頗ル清潔ニシテ能ク空氣ヲ流通シ其數六百ニシテ囚人一名毎ニ一房ヲ與ヘ就業時間ノ外夜分ニ至テ獄室ノ外ニ瓦斯燈ヲ點シ囚人ヲシテ宗教修身慰勞ノ三番ヲ勉勵セシムルコトス而シテ獄吏ヲ囚人ヲ待ツノ舉動ハ頗ル懇切慈愛ヲ以テ之ニ接スルモノアリヨリ囚人モ亦眞實ニ工業ヲ營ミテ自然ニ歡喜快樂ノ色ヲ見カスモノアリト云フ又米國カンサス州懲治場ノ景況ヲ示セルモノヲ視ルコト務メテ場内ヲ爽快清潔ニシテ要用ノ器具ヲ整頓シ殊ニ囚人ニ對

シテハ仁愛慈善ノ意ヲ加ヘテ之ヲ待遇スルノミナラス其内特ニ感化法ヲ設ケテ囚徒ノ精神ヲ改良ニ就カシムルモノニ至テハ頗ル讚稱スルキモノアリ即日曜日ニ於ル課業ハ先ツ午前八時三十分ヨリ禮拜堂ニ於テ歌フヘキ神歌ヲ始メ并ニ其囚徒ノ所好ニ任セテ一般ノ唱歌音樂ヲ教授スソレヨリ九時三十分ニ至レハ禮拜堂ニアツテ神ニ感謝祈禱スルノ式ヲ行ヒテ爰ニ一時間ヲ消シ然ル後尙此ニ止マリテ修業ニ服事セント欲スルモノアレハ讀經讚美其他宗教上ノ諸業ヲ研究セシメ午後十二時三十分ニ至テ學校ノ授業ニ從事シテ讀書習字算術ヲ學ハシム此教授法ハ一般普通ノ學校ト更ニ異ナルモノナシ而シテ其教師ハ皆禮拜借ヲ以テ之ヲ司ラシムルモノナリト云フ抑モ斯ク懇ニ囚人

ニ對シ感化法ヲ舉行スルモノアルハ何ツヤ他ナシ囚人ト雖モ固ヨリ同一ノ人類ニシテ其性情更ニ相異ナルコトナク唯誤テ魔鬼ノ誘惑ニヨリテ罪惡ノ病ヲ醸シタルモノナレハ果シテ能ク之ヲ治療シテ恢復ヲ望ムコトハ彼ノ嚴酷ナル穢穢叱責ヲ身體ノ外部ニ加ヘテ之ヲ懲サシヨリハ寧ロ温和ナル宗教道德ノ感化ヲ精神ノ内部ニ注ギテ徐ニ其害毒ヲ排除シ遂ニ之ヲ善良ノ民ト化シテ愉快ナル人世ニ游泳セシメシト欲スルモノアレハナリ又獄吏精選法ニ付キドクトルソホフニス氏ガ米國々會議ニ提出スル議案中之ヲ論スルモノヲ視ルコト云ク凡ソ囚人ヲ遷善改過ニ誘フハ先ヅ以テ獄吏タルベキノ人物ヲ精選セサルベカラス今夫レ正當智巧ヲ極メタル囚獄法ト雖モ之ヲ支配スルニ適當ナル

獄吏アルコトアラサレハ常ニ能ク整理スルヲ得ザルモノニテ之ヲ要スルニ罪囚ヲ待ツニハ嚴密苛酷ノ法ヲ用ヒズノ寛柔温和ノ法ヲ用ヒ以テ真正ナル感化豫防ノ成跡ヲ得ルコトニ注意スヘシ蓋此成跡ヲ得ント欲スルニハ必ラズ適當ナル獄吏アラサルヘカラス而シテ此獄吏ヲ備フルニハ亦必ラズ特別ナル教育習熟ニ頼ラザルヲ得ス夫レ已ニ邪惡ニ陥リシ者ノ精神ヲ回復セシムルノ業ハ實ニ容易ノ事ニ非ラズ然レハ之ヲ一ノ專門學科トナスモ可ナリト謂フヘシ抑モ法律學、醫學、數學、器械學、兵學、彫刻學、音律學、書學、其他百般ノ小技ニ至ルマテ皆特別專門ノ教育ヲ要スルコト何ツ獨リ囚獄ノ官吏ヲ採用スベキノ學科ニノミ之レ無シトスルヤ業ニ已ニ陷惡ノ精神ヲ回復シ罪業病ニ罹リシ者ヲ

治療スル所ノ要職ニ何故ニ諸學科ニ列セザルヤ云々
 夫レ今日ニアツテ歐米各國ガ斯ク囚獄法ヲ改良シタルノ
 美蹟ヲ見ルモノハ何ゾヤ是皆基督教ヨリ發生シタル所ノ
 結果ニシテ即人ノ罪惡ヲ懲ラシテ精神ノ改良ヲ促ガスニハ
 到底法律上ノ威力ニヨツテ之ガ目的ヲ達シ得ヘキモノニ
 アラスノ必スヤ宗教道德ノ感化法ニ由ラサルヘカラサル
 ノ理ヲ實驗スルモノアレハナリ何トナレハ則今夫レ法律
 刑罰ナル者ハ僅ニ人ノ外部ヲ制スルノ力ヲ有スルニ過ギ
 スノ其内部ヲ治療スヘキノ効用カケレハ彼ノ嚴法酷律モ
 猶ホ能ク妖邪兇惡ノ徒ヲ懲ラスニ足ラサレハナリ此事ヤ
 遠ク歐米各國ニ行ハレタル適例ヲ徵スヲ須タス近ク我國
 幕府時代ノ實蹟ニ於テ明カニ知得ラルハナラシテ試ニ幕府

ノ制度ニヨツテ罪囚ヲ處分シタルモノヲ視ヨ彼ノ磔、火炙、
 梟首、等苛酷殘忍ノ極刑ヲ施シ之ヲ以テ當時ノ人民ヲ誠ニ
 震キハ鑑ミトナセリ而モ且公然此事ヲ稠人群集ノ中ニ於
 テ行ヒシモノハ視者ヲシテ深ク畏怖ノ念ヲ起シテ後
 大罪惡ヲ懲ラシメントノ方法手段ニ出タルナリ然レ焉ク
 圖ラン懲戒ノ目的ハ反テ人ヲ殘忍苛酷ニ忍フノ情ニ慣
 レシムヘキ媒ヲナセリ其證據ハ現ニ刑場ニアツテ盜業ヲ
 爲シ恬然敢テ顧ミサルガ如キ惡習ヲナシタルモノアルヲ
 視レ即野蠻ノ所業ハ適々以テ人間天然ノ性情ヲ傷ケタ
 ルモノニアラスヤ刑罰ノ能ク人ノ精神ヲ懲ラスニ足ラサ
 ルヤ以テ知ヘシ矣是蓋囚獄法ニ屬セル以外ノ例證ナリト
 雖モ然レ其法律上ノ力ニヨツテ人心ハ改良ヲ謀ルヘカラ

サルノ實ヲ示スモノニ至テハ彼此相對照スルノ上ニ便利
 ナ與ヘタルモノト思惟セリ夫レ然リ然ラハ今後我國ニ於
 テモ深ク古今内外ノ事蹟ニ就テ利害得失ノ在ル所ヲ考ヘ
 以テ漸次基督教ノ主義ニヨツテ囚獄法ヲ改良スルニ至ラ
 ハ必ズヤ一般ノ罪囚ニ向テ完全ナル好結果ヲ奏シ得ルモ
 ルアルヲ信スルナリ

基督教ニ由テ生スル謙遜ノ徳

又基督教ニ於テハ最モ謙遜ヲ重シテ自ラ慎ムモノナルヲ
 ユヘニ彼ノ傲慢ヲ以テ大ニ高ブルモノ、如キハ深ク之ヲ
 誠ムルモノナリ夫レ何が故ニ人ハ毎ニ謙遜ノ心ヲ以テ世
 ニ處スベキカト云フニ凡ソ吾人ノ生命身體ハ共ニ神ヨリ
 受タルモノニテ決シテ偶然ニ成立タルモノニアラス且其性

質ハ元ト神ニ象リテ造ラレタルモノナルカ故ニ最モ高尙
 ナル品格ヲ備ヘテ萬物ニ優レタルモノアレハ神意ニ適フ
 ンキ行爲ヲ以テ其榮光ヲ顯ハスハ固ヨリ當然ノ職務ナル
 ベシ然ラハ假令如何ナル大事業ヲ爲シ得テ己ガ名譽功蹟
 ナ見ハスナリ神ノ前ニアツテハ少シモ誇ルベキ筈ナ
 ゲレハ益々謙遜ニシテ美德ニ上進セサルヘカラサルノ
 理アレハナリ使徒保羅曰ク神ノ屬タル爾曹ハ身ニ於テモ
 精神ニ於テモ神ノ榮光ヲ顯ハスヘシトアルモノ之ナリ是以
 夙ニ神ヲ知テ之ニ事フル者ハ毎ニ小心翼翼トシ其徳ヲ慎
 ミ自ラ幸福ヲ求ムルガタメニ善ヲ爲スニアラスノ反テ神
 ノ榮光ヲ顯ハスガタメニ其業ヲ務ムルモノナリ然レ是ニヨ
 リテ厚ク神ノ恵ヲ受ケテ極ナキノ幸福ヲ保ツトナ得ヘシ